

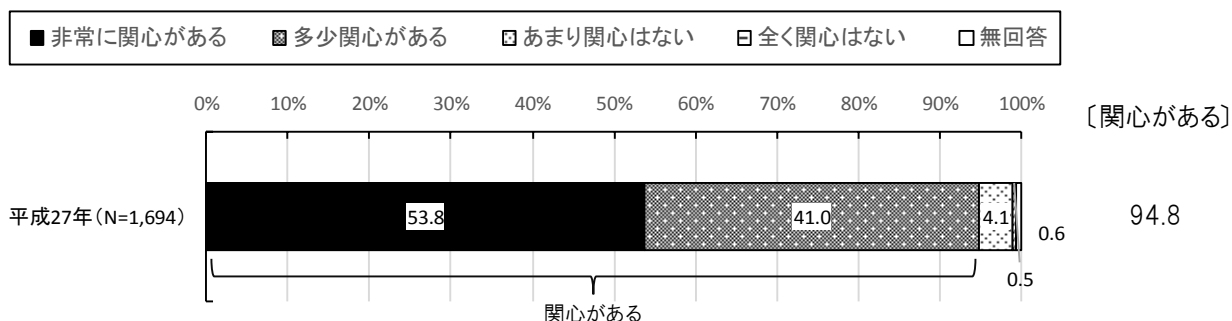
IV 調査結果

「我が家の地震対策・同報無線」について

地震対策について

(1) 大地震への関心度

問1 あなたは現在、東海地震や南海トラフ巨大地震などの大地震（以下、「大地震」）にどの程度の関心を持っていますか。次の中から1つだけ選んでください。



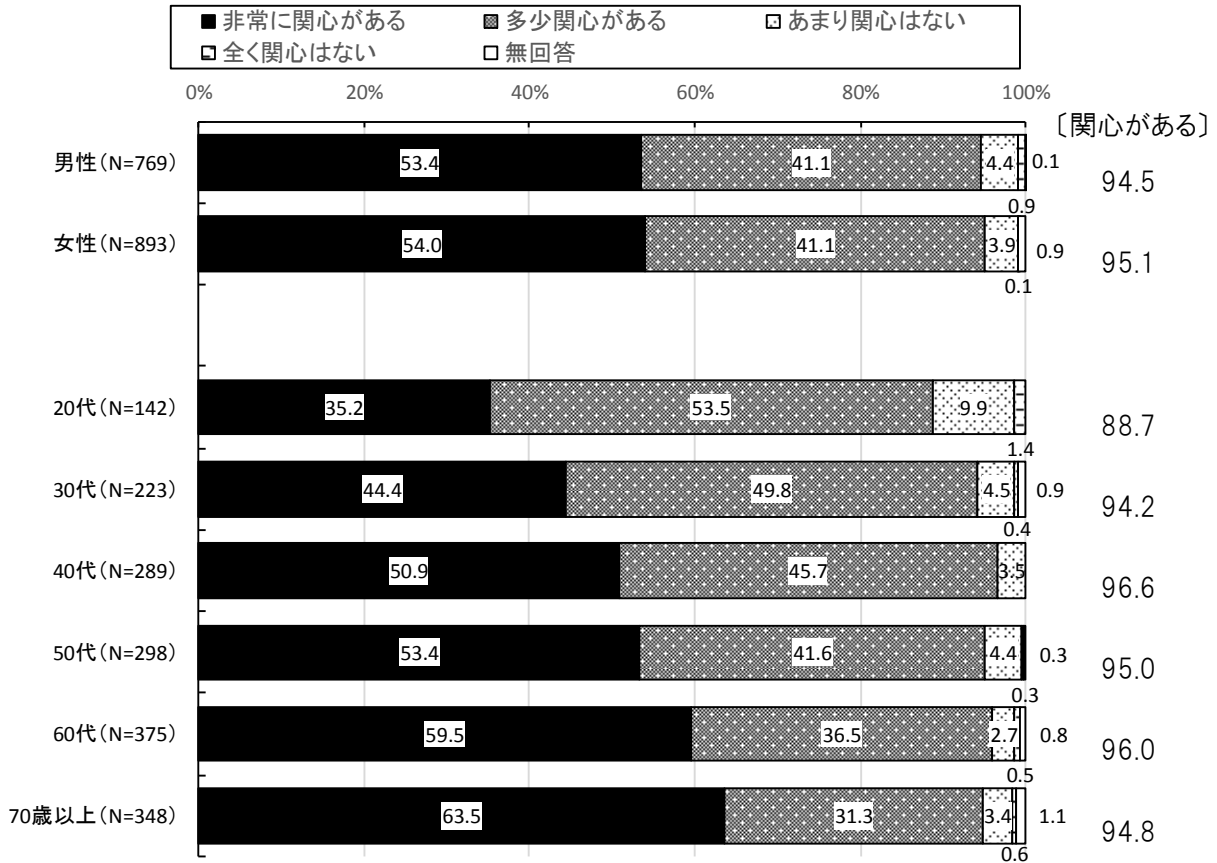
大地震にどの程度関心を持っているか尋ねたところ、「非常に関心がある」は53.8%、「多少関心がある」は41.0%で、2つを合わせると9割を超える人が「関心がある」となっている。一方、「あまり関心はない」は4.1%、「全く関心はない」は0.5%となっている。

IV 調査結果

男女別に見ると、男女間で大きな差は見られない。

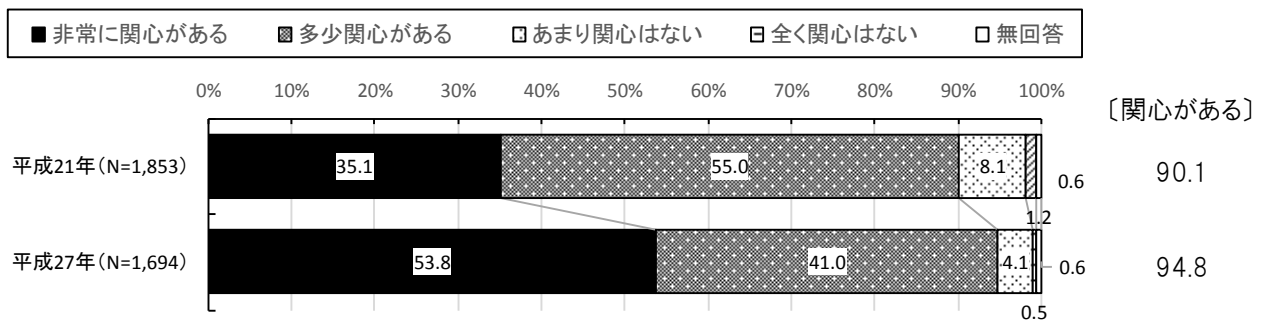
年代別に見ると、「非常に関心がある」は年齢が高くなるにつれ割合が高くなり、「非常に関心がある」と「多少関心がある」を合わせた“関心がある”は、30代以上の世代で9割を超えている。

【性別・年代別】



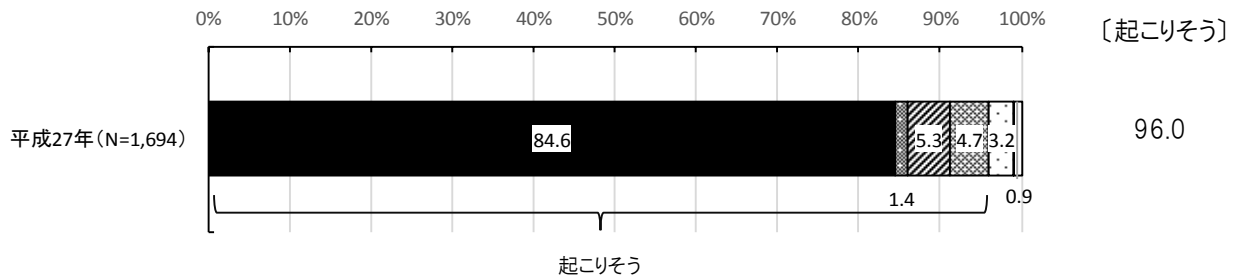
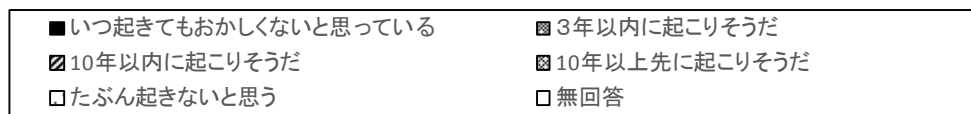
平成 21 年度の調査結果と比較すると、東海地震に「非常に関心がある」は 35.1%から 53.8%に増加し、「非常に関心がある」と「多少関心がある」を合わせた“関心がある”は、90.1%から 94.8%に増加している。

【経年変化】



(2) 大地震の起こる可能性

問2 あなたは大地震の起こる可能性について、どのように思っていますか。
次の中から1つだけ選んでください。



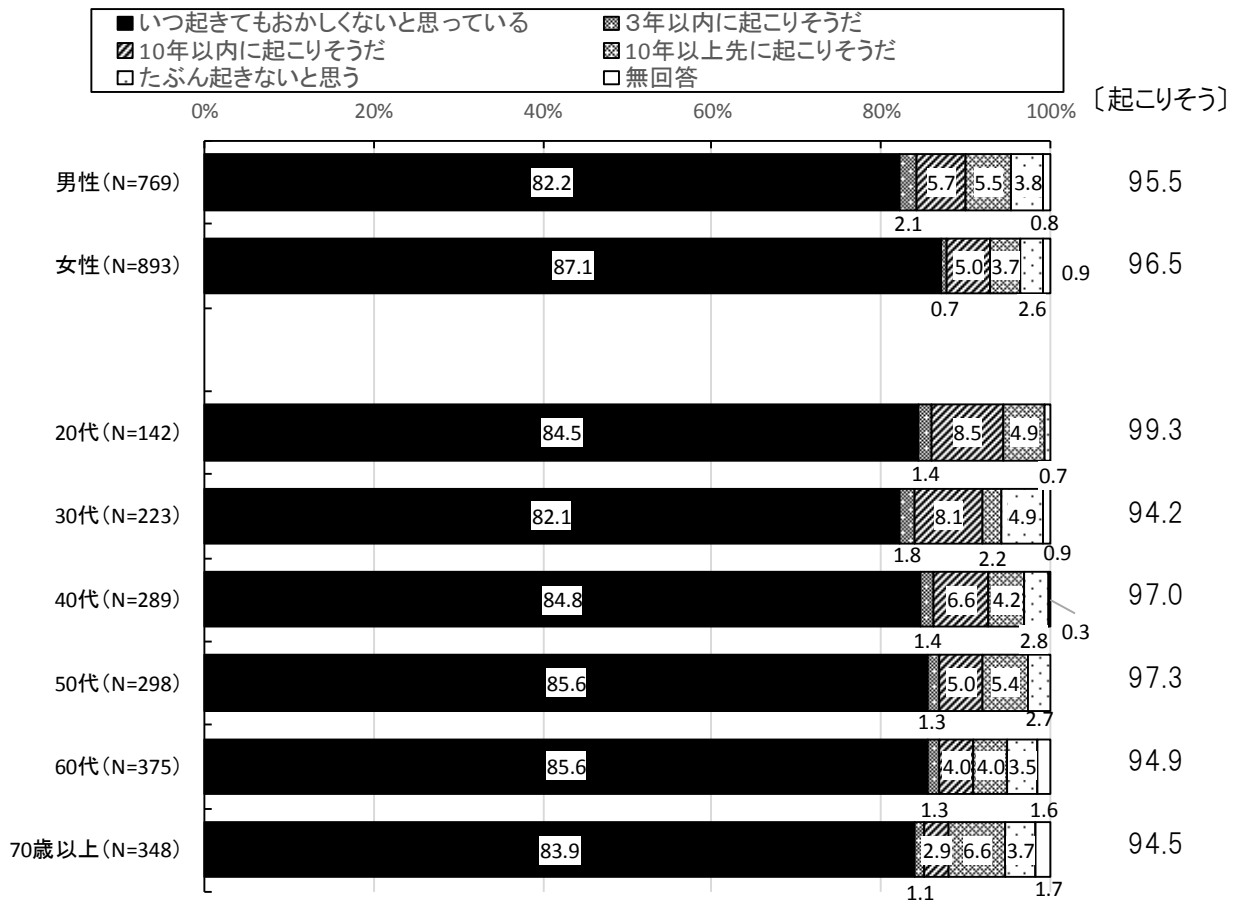
大地震の起こる可能性を尋ねたところ、「明日起きてもおかしくないと思っている」が84.6%で最も高く、「明日起きてもおかしくないと思っている」から「10年以上先に起こりそう」までを合わせた“起こりそう”と答えた人は9割を超えている。

男女別に見ると、「明日起きてもおかしくないと思っている」は男性が82.2%、女性が87.1%で、女性のほうが男性より4.9ポイント高くなっている。

年代別に見ると、「明日起きてもおかしくないと思っている」と答えた人の割合は全ての世代で8割を超え、“起こりそう”と答えた人については全ての世代で9割を超えている。

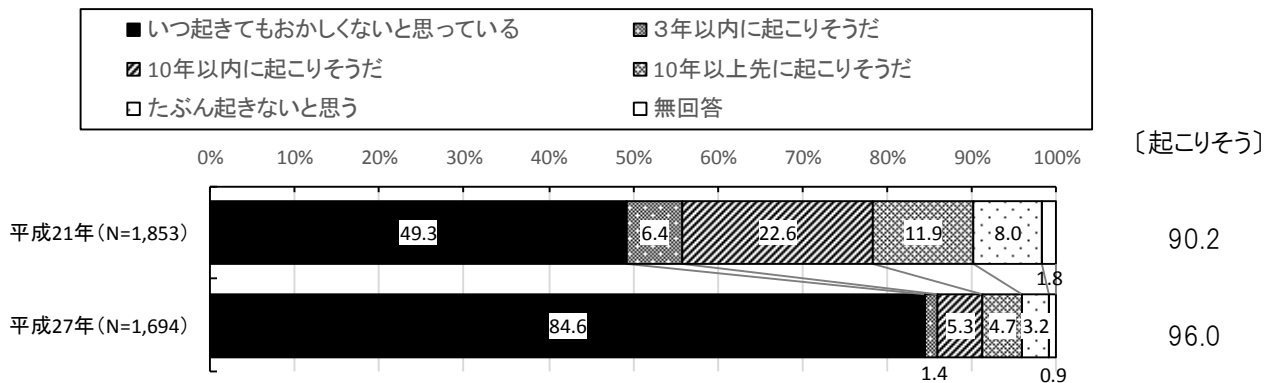
IV 調査結果

【性別・年代別】



平成 21 年度の調査結果と比較すると、「明日起きてもおかしくないと思っている」が 49.3%から 84.6%に大幅増加し、“起こりそう”と答えた人については平成 21 年の 90.2%から 96.0%に増加している。

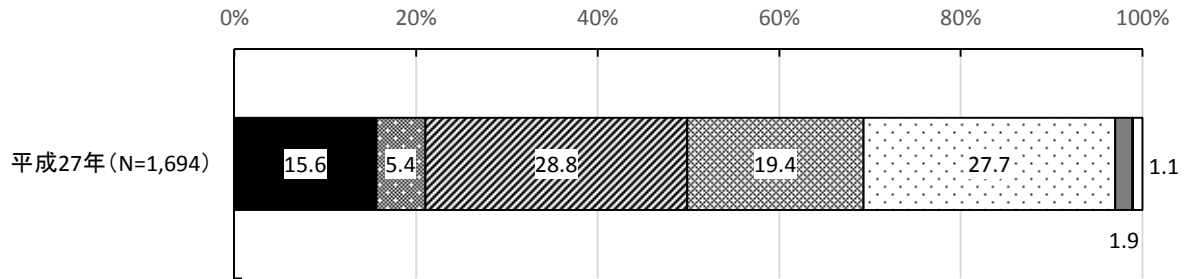
【経年変化】



(3) 居住住宅について

問3 あなたの住んでいる家は、どれに当たりますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 昭和56年以前に建築し、耐震補強していない木造住宅
- ▨ 昭和56年以前に建築し、耐震補強済みの木造住宅
- ▩ 昭和57年以降平成12年以前に建築した木造住宅
- ▧ 平成13年以降に建築した木造住宅
- 鉄筋、鉄骨などの住宅
- その他
- 無回答

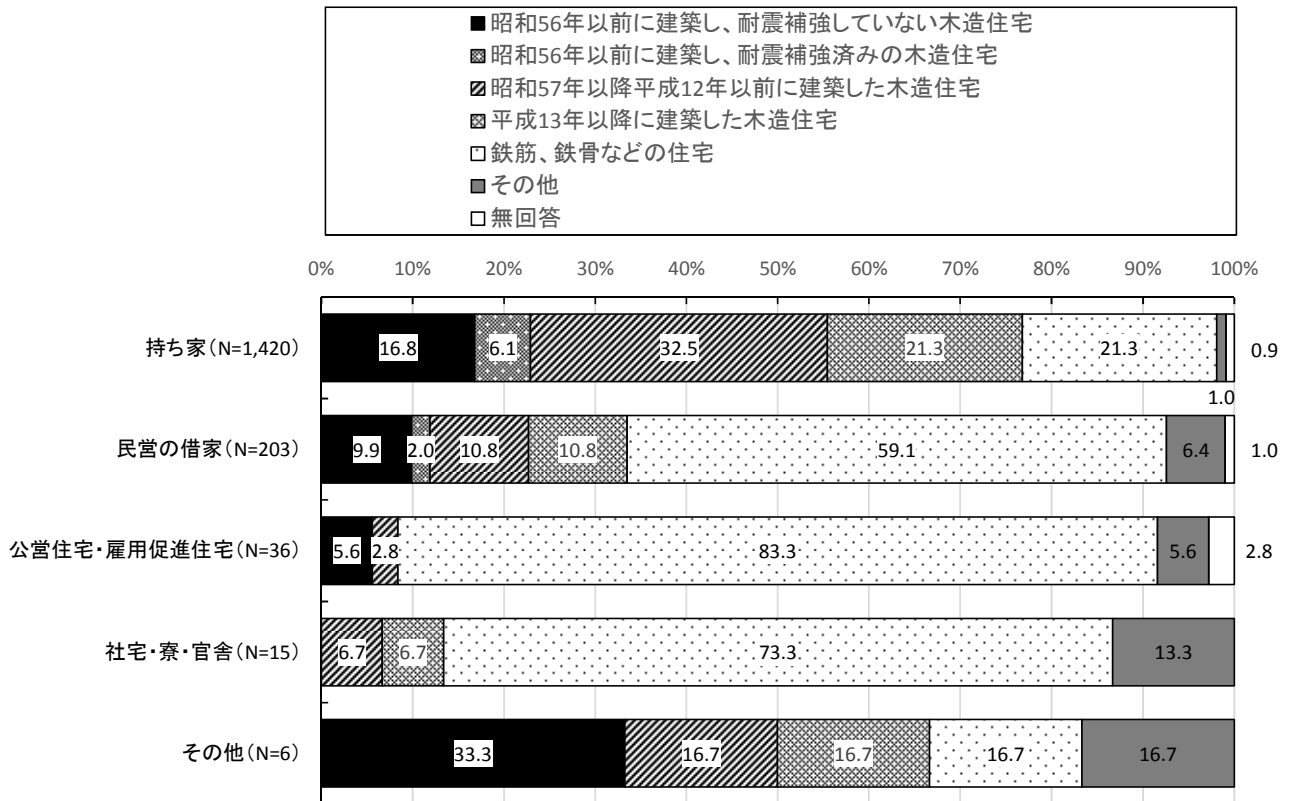


居住住宅について尋ねたところ、「昭和56年以前に建築し、耐震補強していない木造住宅」は15.6%、「昭和56年以後に建築し、耐震補強済みの木造住宅」は5.4%、「昭和57年以降平成12年以前に建築した木造住宅」は28.8%、「平成13年以降に建築した木造住宅」は19.4%、「鉄筋、鉄骨などの住宅」は27.7%となっている。

IV 調査結果

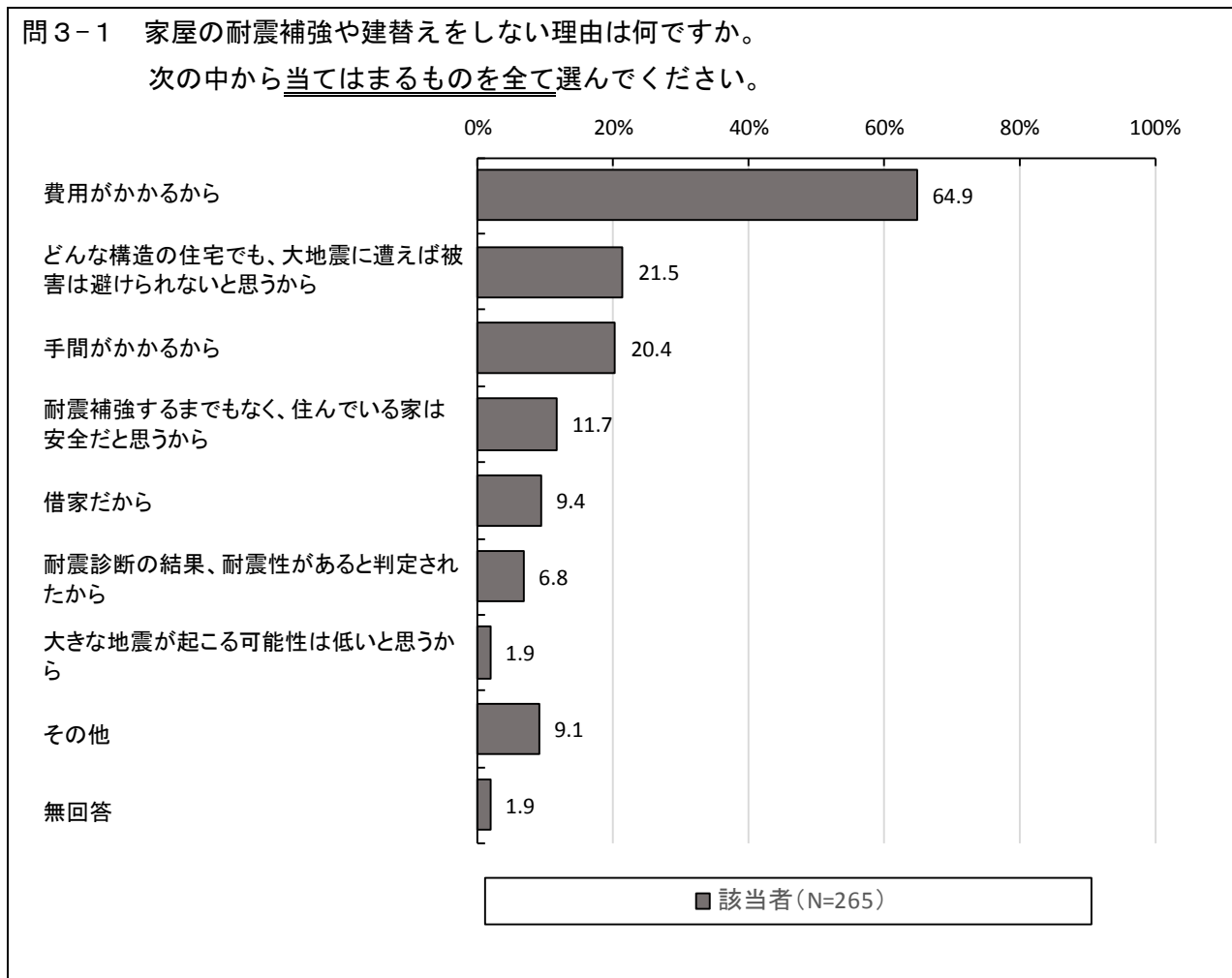
居住形態別に見ると、持ち家の内訳は、「昭和 57 年以降平成 12 年以前に建築した木造住宅」が最も高く 32.5%、次いで「平成 13 年以降に建築した木造住宅」と「鉄筋、鉄骨などの住宅」が 21.3%、「昭和 56 年以前に建築し、耐震補強していない木造住宅」が 16.8%となっている。民営の借家では、「鉄筋、鉄骨などの住宅」が最も高く 59.1%、次いで「昭和 56 年以後に建築し、耐震補強済みの木造住宅」と「平成 13 年以降に建築した木造住宅」が 10.8%、「昭和 56 年以前に建築し、耐震補強していない木造住宅」が 9.9%となっている。

【居住形態別】



〈問 3で「1 昭和56年以前に建築し、耐震補強していない木造住宅」と答えた人に伺います〉

(4) 家屋の耐震補強をしない理由

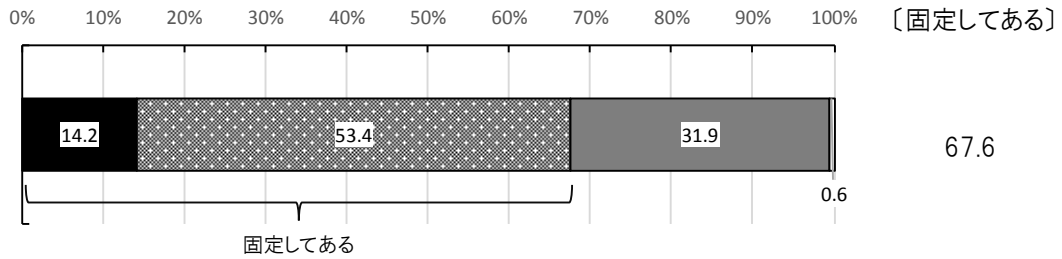
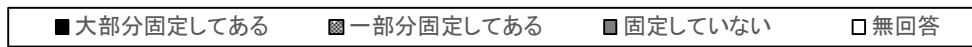


「家屋の耐震補強」をしない理由を尋ねたところ、「費用がかかるから」が64.9%で最も高くなっている。次いで「どんな構造の住宅でも、大地震に遭えば被害は避けられないと思うから」が21.5%、「手間がかかるから」が20.4%となっている。

《全ての人に伺います》

(5) 家具・家電の固定状況

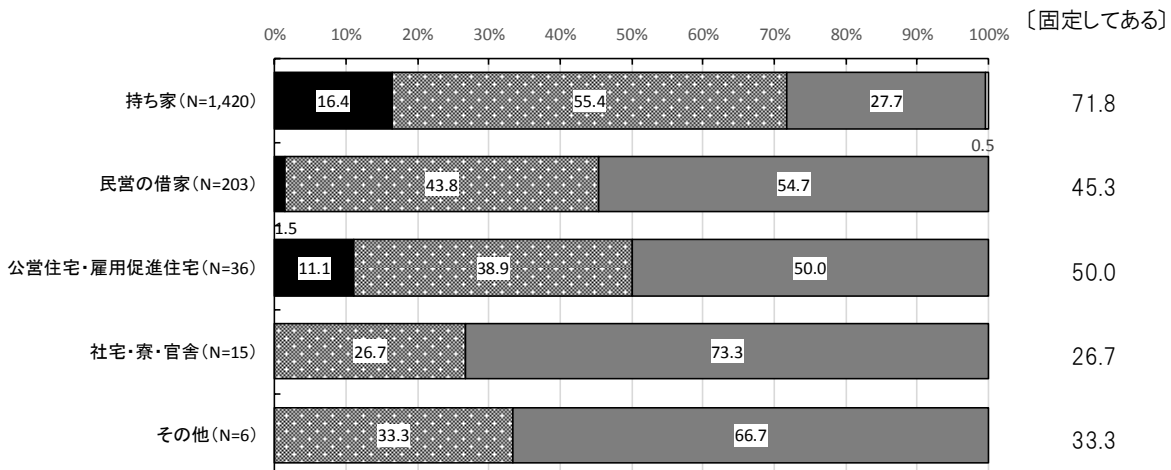
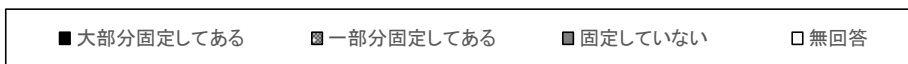
問4 あなたのお宅では大地震に備えて「家具・家電の固定」をしていますか。次の中から1つだけ選んでください。



家具・家電の固定状況について尋ねたところ「大部分固定してある」は14.2%、「一部分固定してある」は53.4%となった。これらを合わせた“固定してある”は67.6%となった。一方、「固定していない」は31.9%となっている。

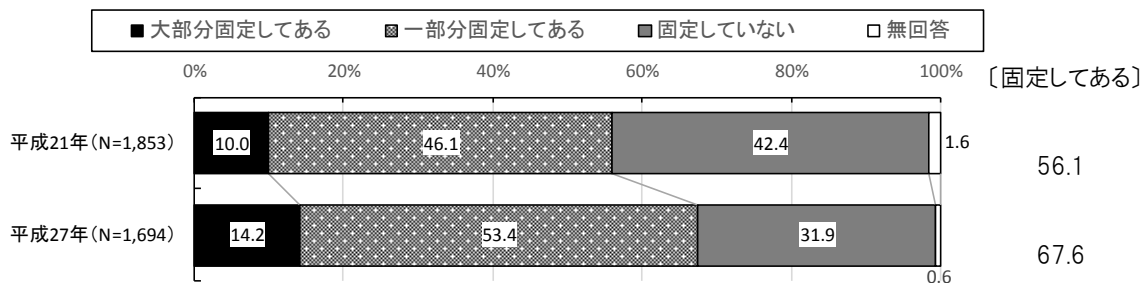
居住形態別に見ると、「大部分固定してある」と「一部分固定してある」を合わせた“固定してある”割合について、「持ち家」では71.8%、「民営の借家」では45.3%、「公営住宅・雇用推進住宅」では50.0%、「社宅・寮・官舎」では26.7%となっている。持ち家と借家で固定している割合に大きな開きが出た。

【居住形態別】



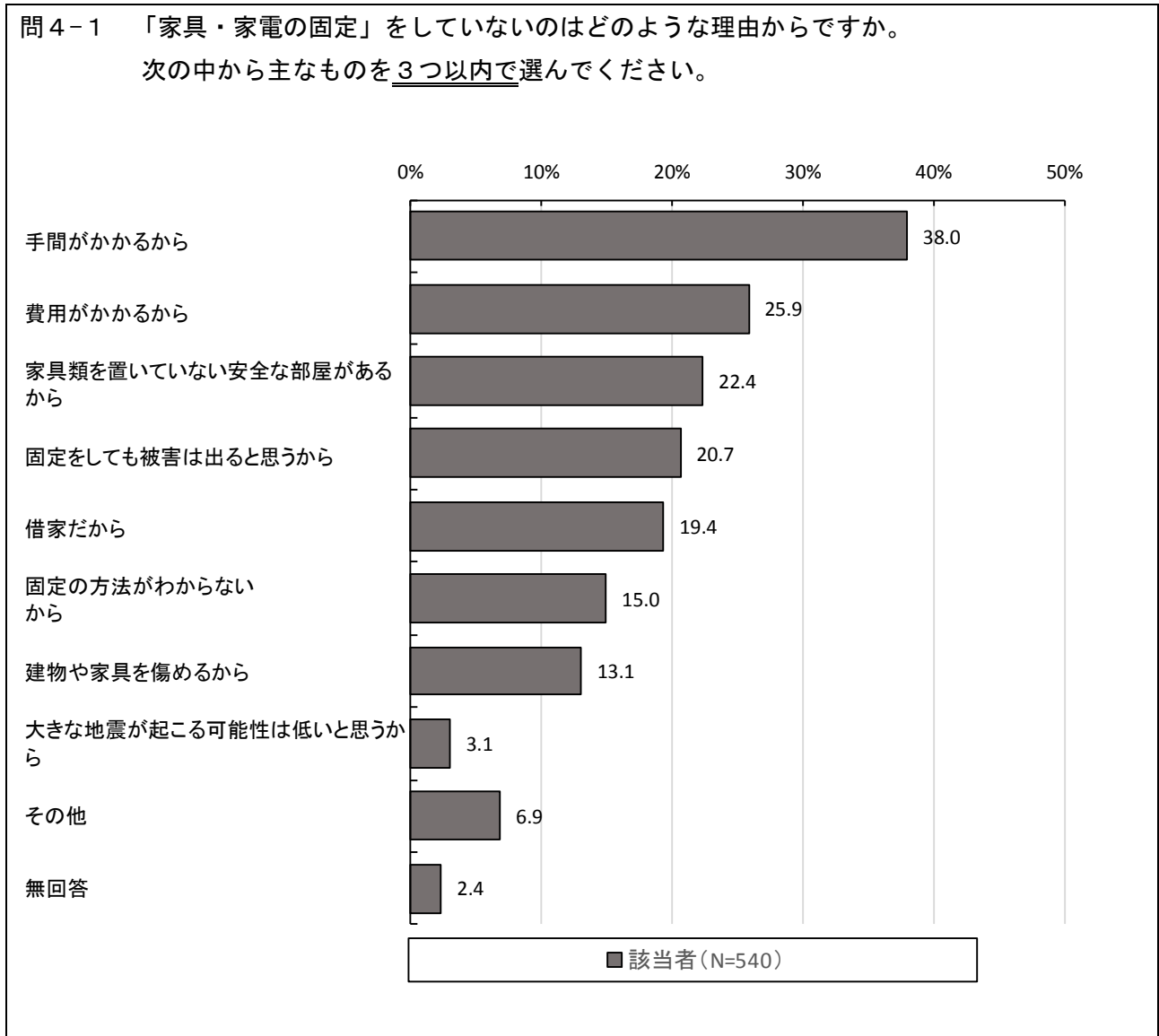
平成 21 年度の調査結果と比較すると、「大部分固定してある」が 10.0%から 14.2%に増加し、「一部固定してある」についても 46.1%から 53.4%に増加している。「大部分固定してある」と「一部固定してある」を合わせた“固定してある”割合は 56.1%から 11.5 ポイント増加し 67.6%となっている。

【経年変化】



<問 4で「3 固定していない」と答えた人に伺います>

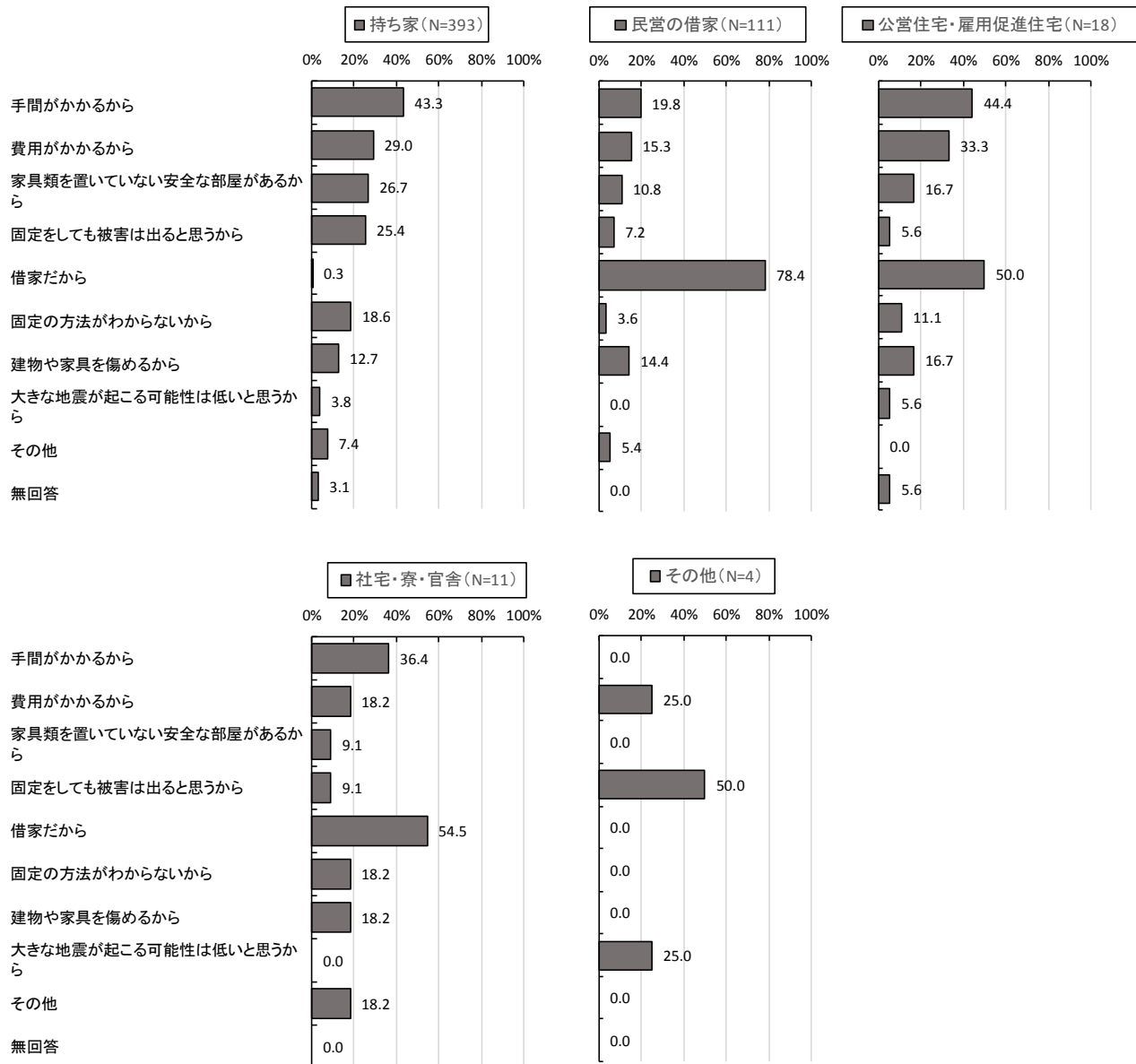
(6) 家具・家電を固定していない理由



「家具類の固定」をしていない理由を尋ねたところ、「手間がかかるから」が 38.0%で最も高くなっている。次いで「費用がかかるから」が 25.9%、「家具類を置いていない安全な部屋があるから」が 22.4%、「固定をしても被害は出ると思うから」が 20.7%と続いている。

居住形態別に見ると、「持ち家」では「手間がかかるから」がトップで43.3%、「費用がかかるから」が29.0%となっている。「民営の借家」では「借家だから」がトップで78.4%、「公営住宅・雇用促進住宅」でも「借家だから」がトップで50.0%、「社宅・寮・官舎」でも「借家だから」がトップで54.5%となっている。持ち家と借家では、固定していない理由が異なることが分かる。

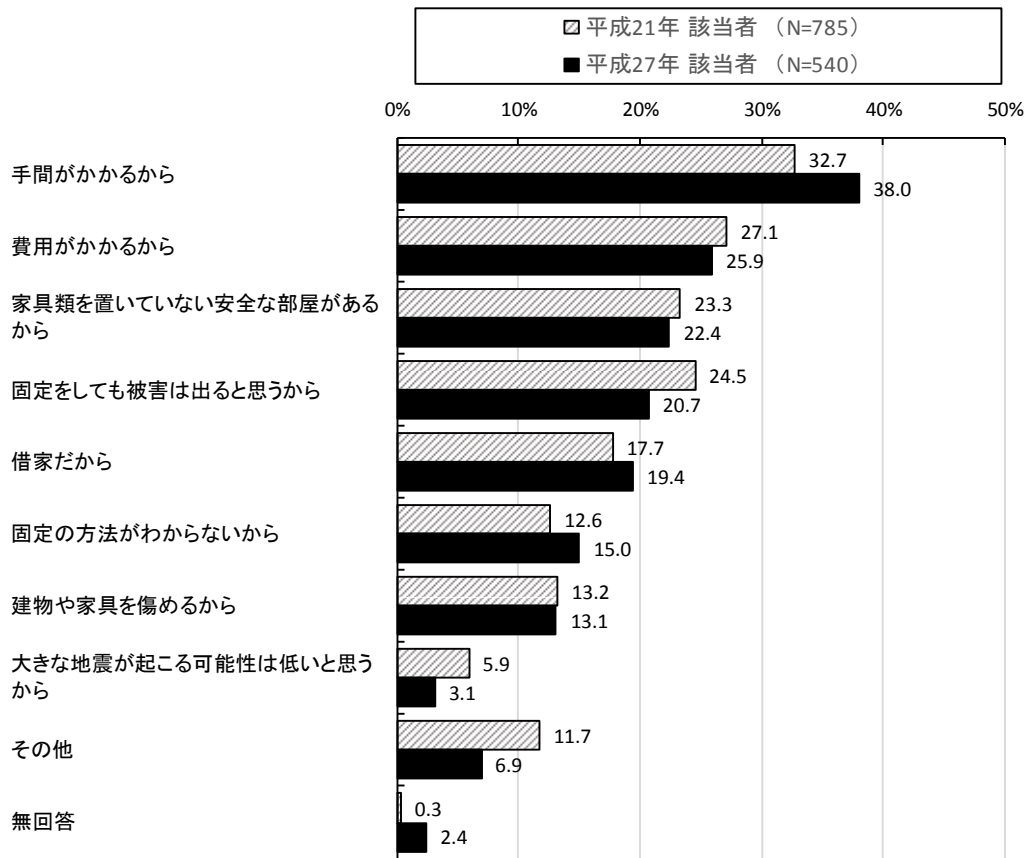
【居住形態別】



IV 調査結果

平成 21 年度の調査結果と比較すると、「手間がかかるから」が平成 21 年度もトップで、32.7%から 38.0%に増加している。

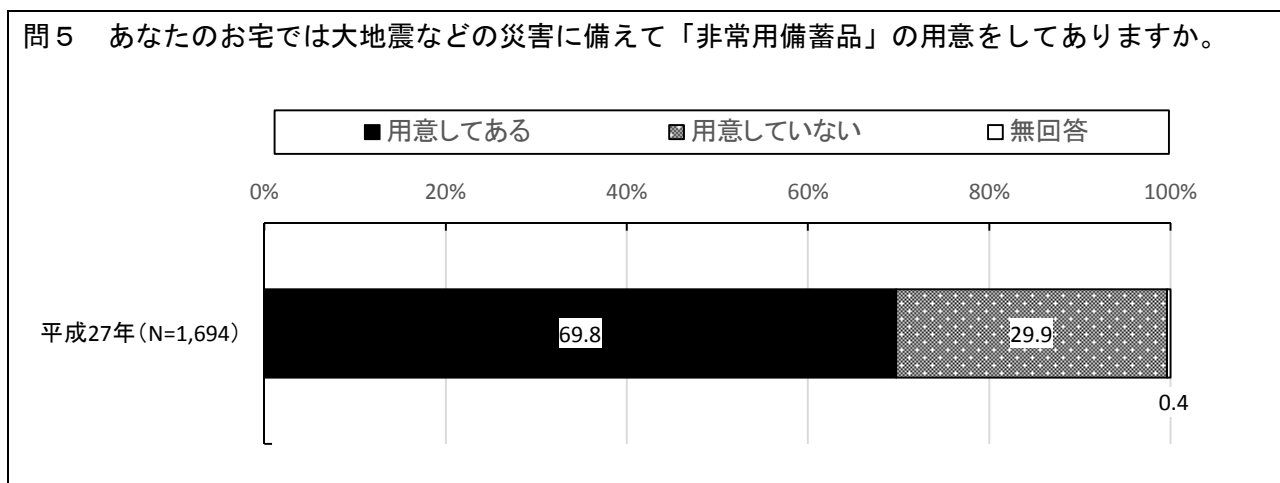
【経年変化】



《全ての人に伺います》

(7) 非常用備蓄品の備え

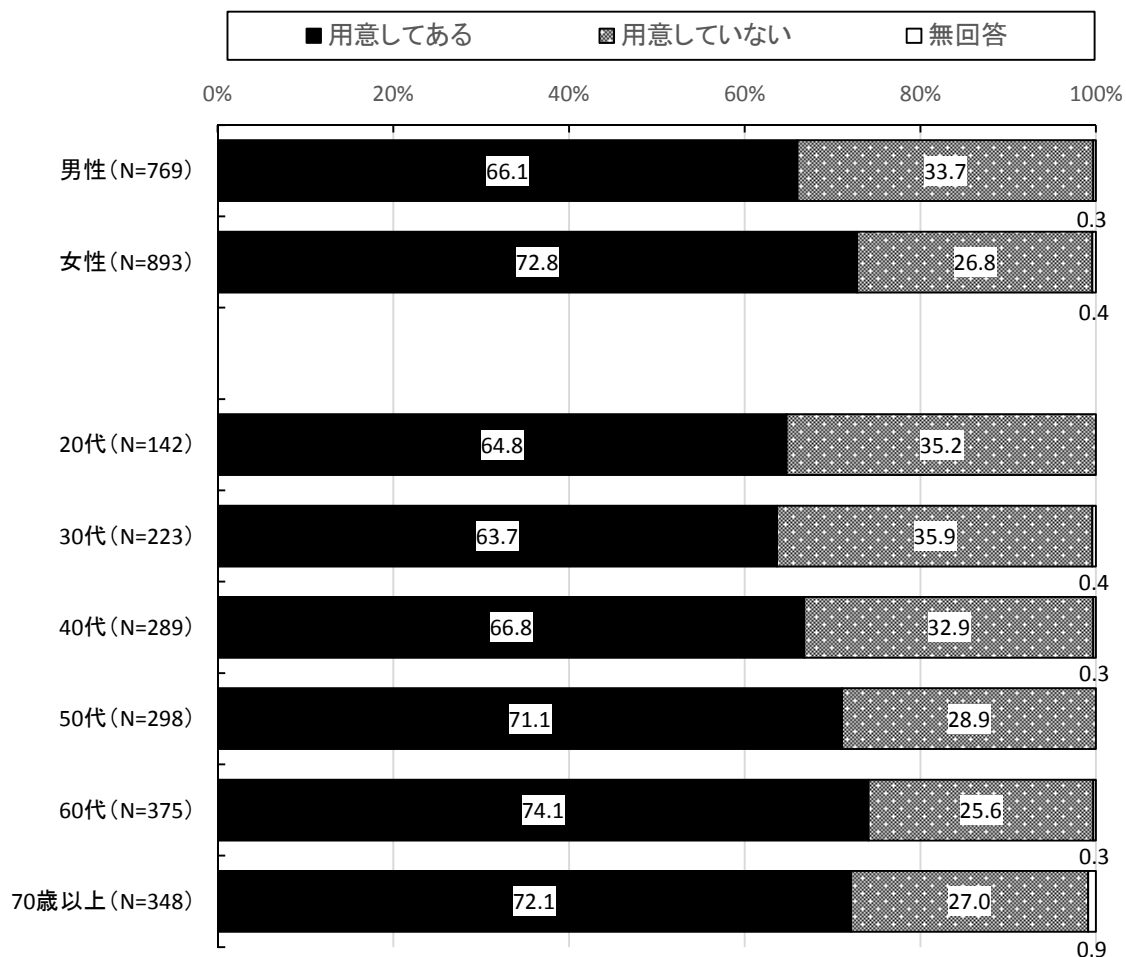
問5 あなたのお宅では大地震などの災害に備えて「非常用備蓄品」の用意をしていますか。



大地震などの災害に備えて「非常用備蓄品」の用意をしてあるか尋ねたところ、「用意してある」が69.8%、「用意していない」が29.9%となっている。

男女別に見ると、「用意してある」は男性が66.1%、女性は72.8%と女性のほうが高くなっている。年代別に見ると、「用意してある」の割合は60代が最も高く74.1%となり、逆に「用意していない」は若年層の割合が高く、20代で35.2%、30代で35.9%となっている。

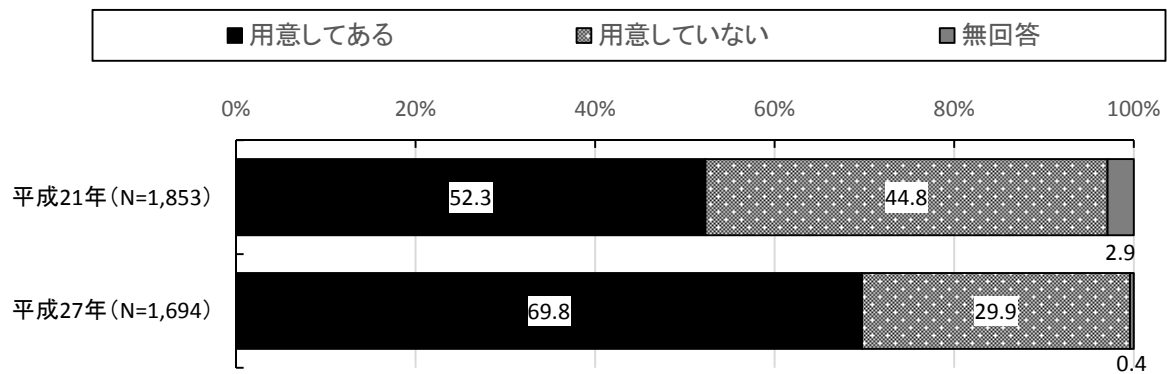
【性別・年代別】



IV 調査結果

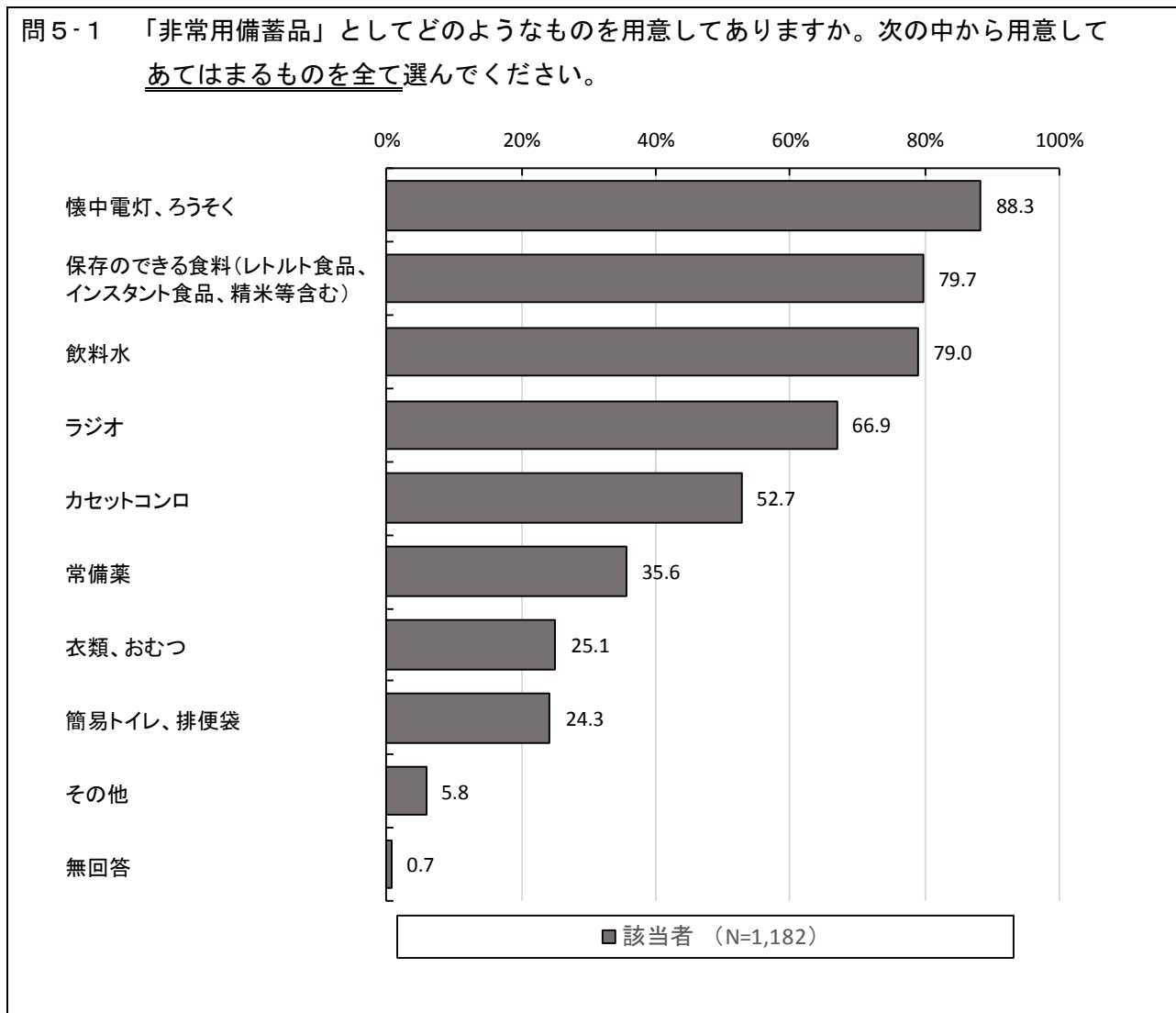
平成 21 年度の調査結果と比較すると、「用意してある」が平成 21 年の 52.3%から 69.8%に増加している。

【経年変化】



〈問 5 で「1 用意してある」と答えた人に伺います〉

(8) 非常用備蓄品について



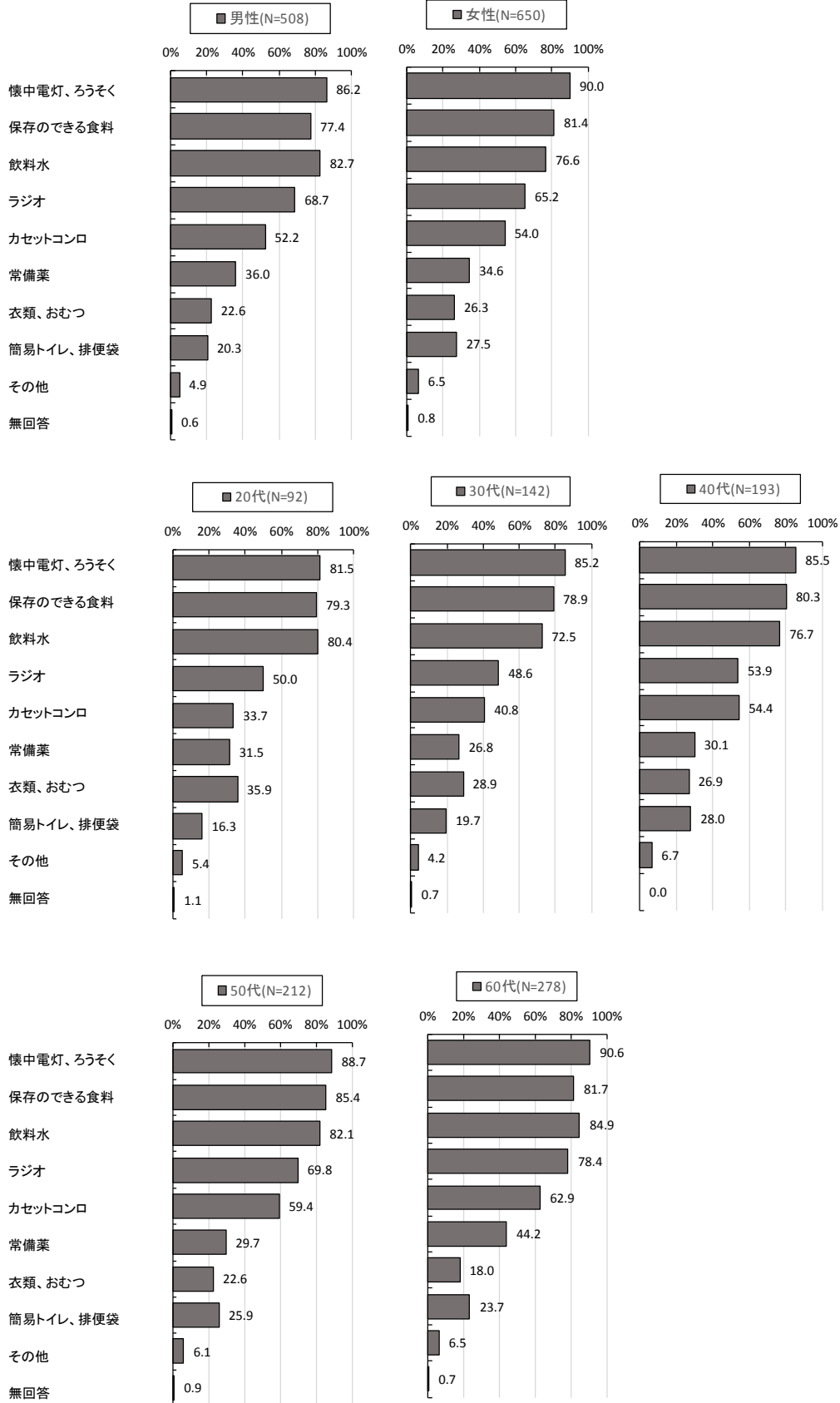
非常用備蓄品として用意してあるものを尋ねたところ、「懐中電灯、ろうそく」が88.3%と最も高くなった。次いで、「保存のできる食料」が79.7%、「飲料水」が79.0%、「ラジオ」が66.9%となっている。

IV 調査結果

男女間で大きな差は見られない。

年代別に見ると、全ての年代で「懐中電灯、ろうそく」がトップとなっている。「ラジオ」と「カセットコンロ」の所有率は、40代以上の年代で5割以上となっている。

【性別・年代別】

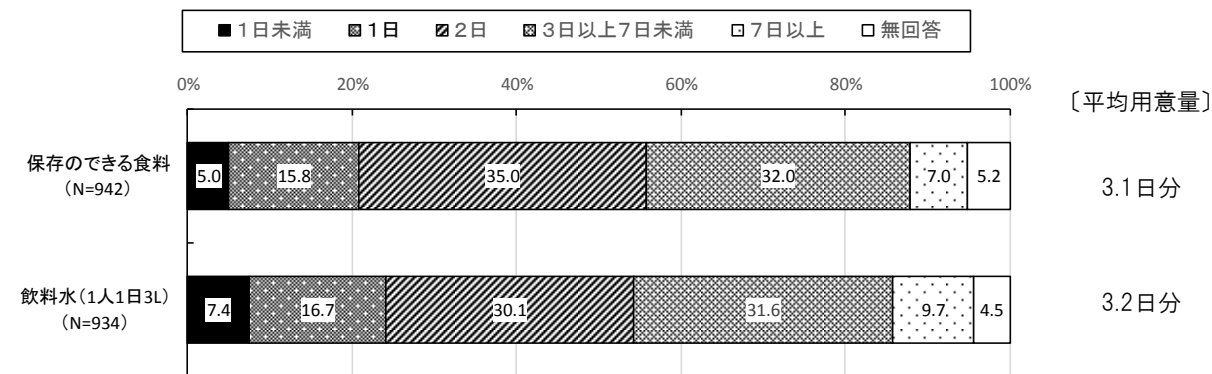


<問 5-1 で「1 保存のできる食料」、「2 飲料水」と答えた人に伺います>

(9) 「保存のできる食料」や「飲料水」の用意量

問 5-1-1 保存のできる食料や飲料水は何日分を用意していますか。

次の中から1つだけ選んでください。



※平均用意量の計算は「1日未満」を0.5日分、「3日以上7日未満」を5日分、「7日以上」を7日分として計算。

「保存のできる食料」と「飲料水」を用意してある人に、用意量を尋ねたところ、「保存のできる食料」については、最も高かったのが「2日」で35.0%、次いで「3日以上7日未満」が32.0%、平均用意量が3.1日分となっている。「飲料水」については、最も高かったのが「3日以上7日未満」で31.6%、次いで「2日」が30.1%、平均用意量が3.2日分となっている。

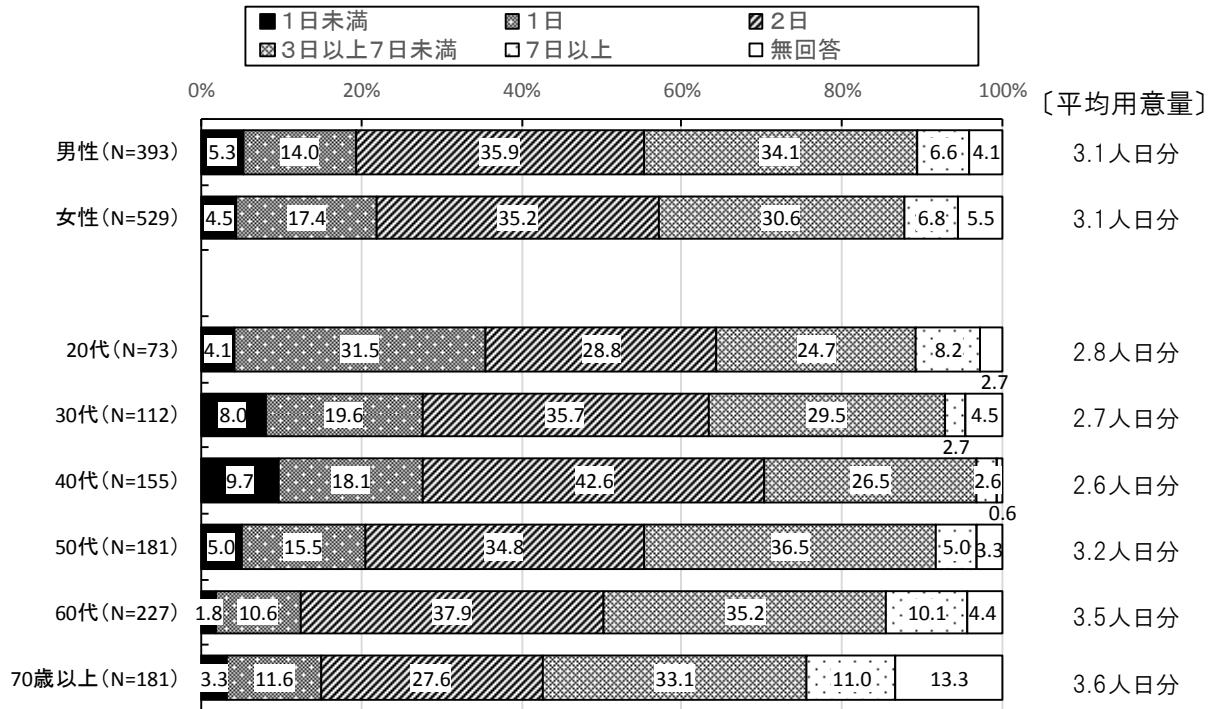
IV 調査結果

「保存のできる食料」については、男女別で大きな差は見られないが、年代別に見ると 50 代以上では 3 日分以上の用意があることが分かる。

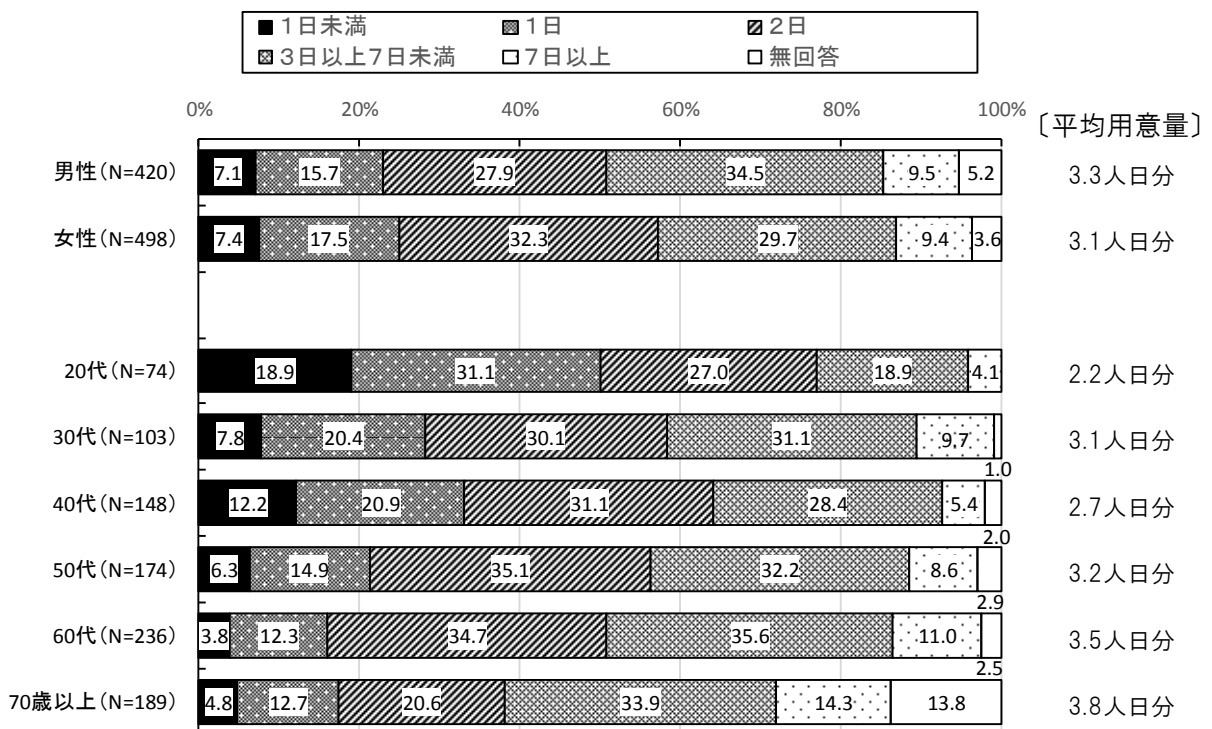
「飲料水」については、男女別で大きな差は見られないが、年代別に見ると 20 代の用意量が他の年代よりも少ない。20 代では「1 日未満」が 18.9%、「1 日」が 31.1%となっている。

【性別・年代別】

□保存のできる食料



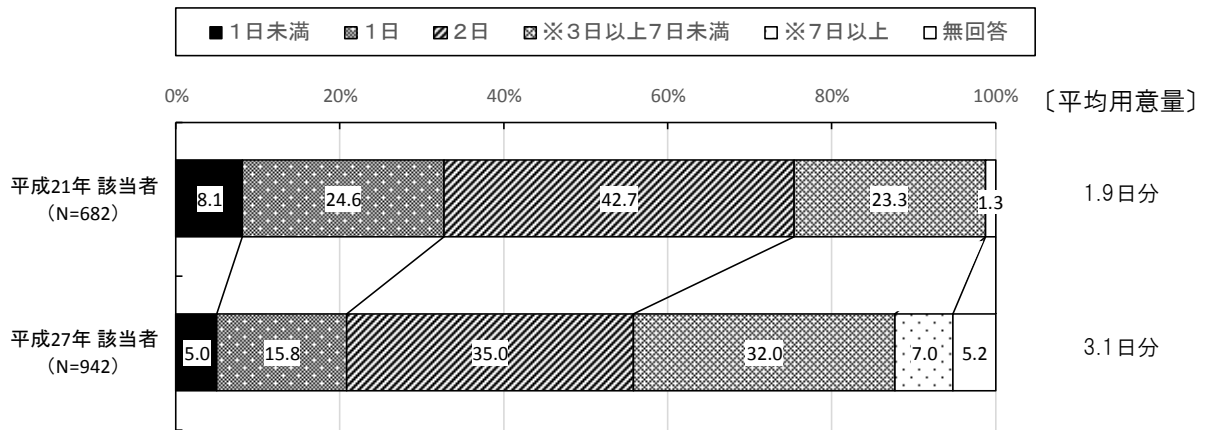
□飲料水 (1 人 1 日 3 L)



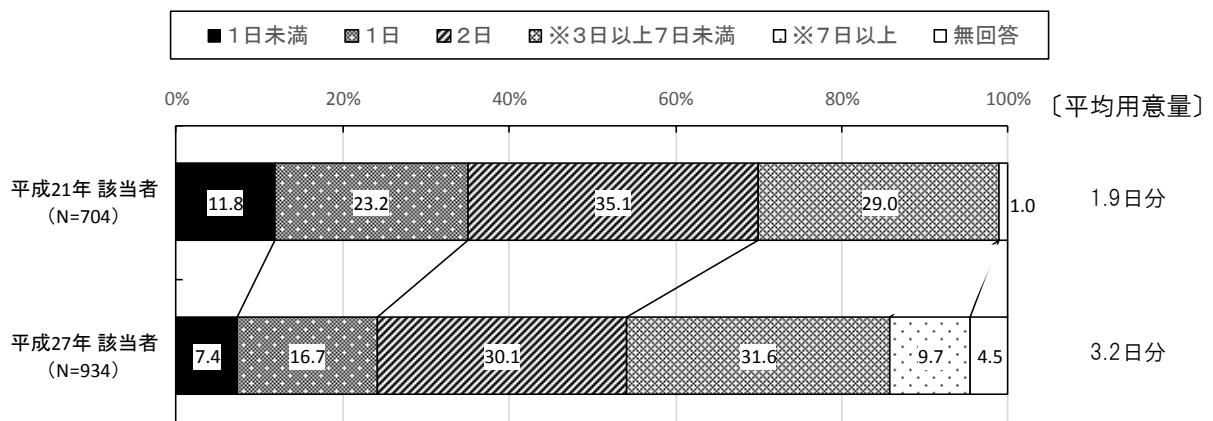
平成21年度の調査結果と比較すると、保存のできる食料については平均用意量が2.3日分から3.1日分へ、飲料水については平均用意量が2.5日分から3.1日分へ、それぞれ増加している。

【経年変化】

□保存のできる食料



□飲料水（1人1日3L）



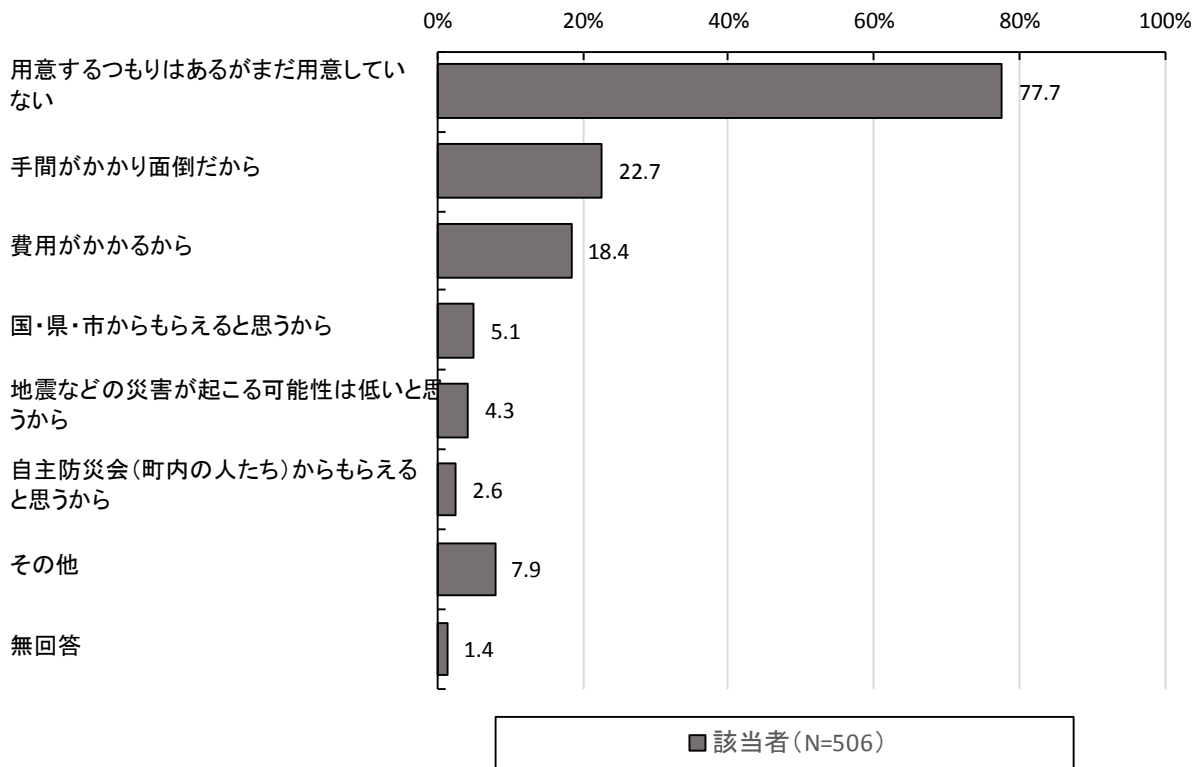
※ 平成21年の選択項目には「1日未満」「1日」「2日」「3日以上」の4択だったため、平均用意量の計算は平成27年度と異なる。「1日未満」は0.5日分、「3日以上」は3日分で平均用意量を計算している。

<問 5で「2 用意していない」と答えた人に伺います>

(10)「保存のできる食料」や「飲料水」を備蓄していない理由

問5-2 「非常用備蓄品」を用意しない理由は何ですか。

次の中から当てはまるものを全て選んでください。

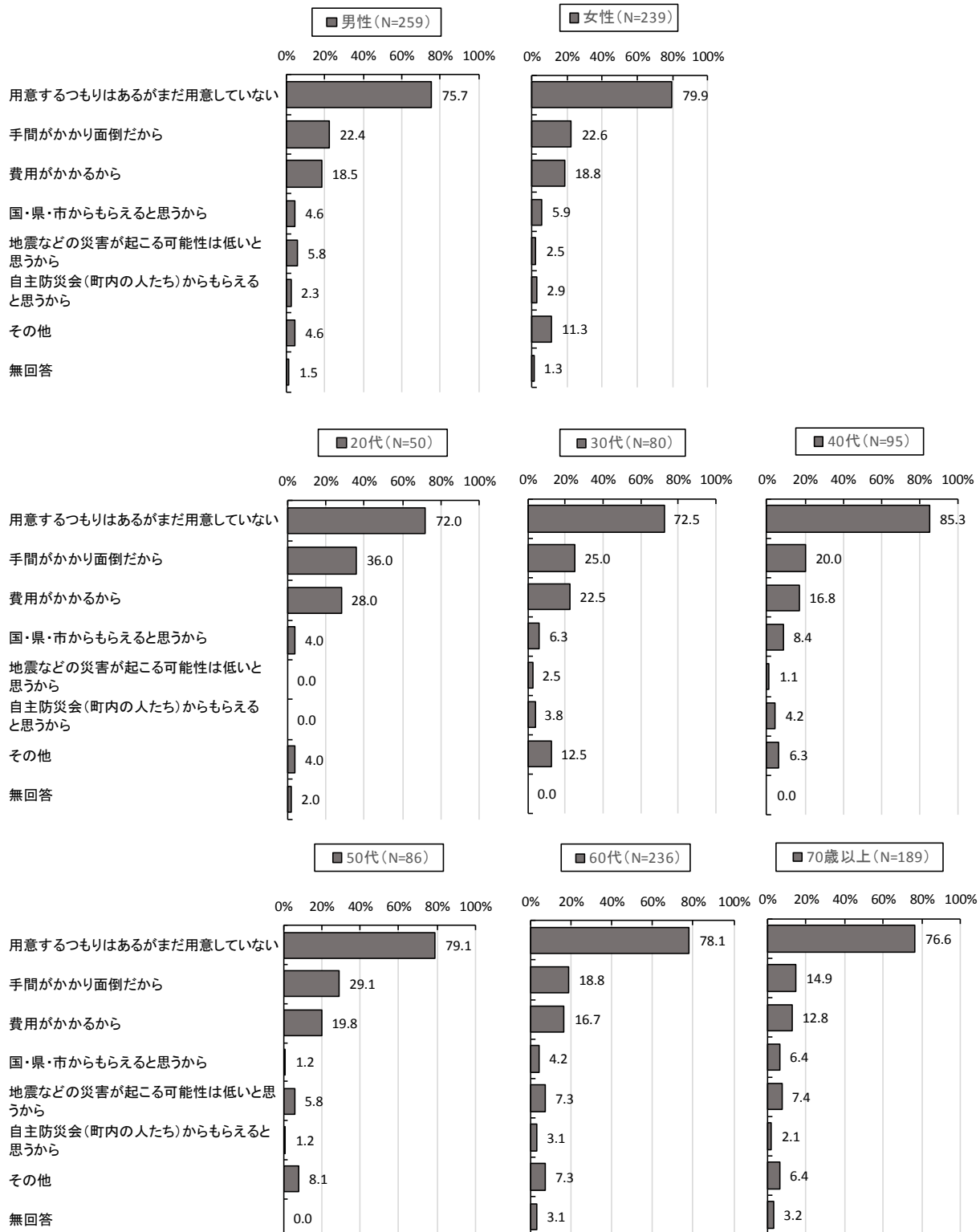


非常用食料、飲料水を用意していない人にその理由を尋ねたところ、「用意するつもりはあるがまだ用意していない」が77.7%と最も高くなっている。次いで、「手間がかかり面倒だから」が22.7%、「費用がかかるから」が18.4%と続いている。

男女別に見ると、大きな差は見られない。

年代別に見ると、「用意するつもりはあるがまだ用意していない」がいずれの世代においても圧倒的に高くなっている。20代では「手間がかかり面倒だから」が36.0%と「費用がかかるから」が28.0%となっており、他の年代よりも高くなっている。

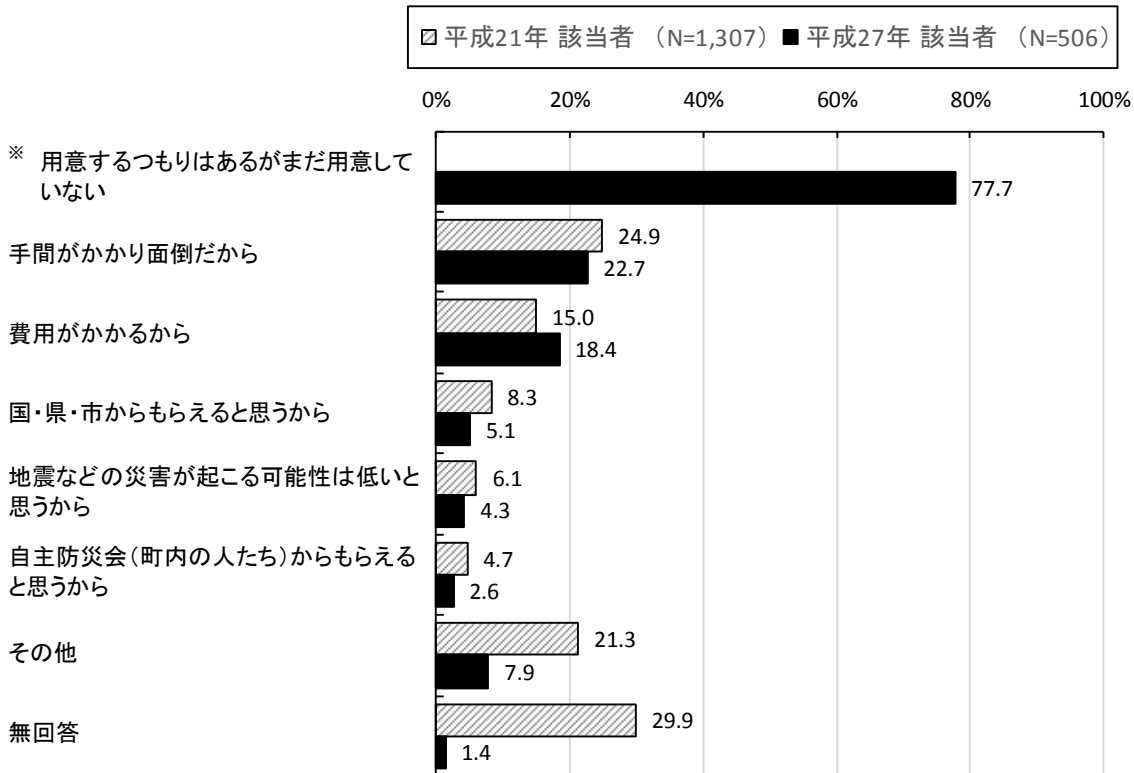
【性別・年代別】



IV 調査結果

平成 21 年度の調査結果と比較すると、「手間がかかり面倒だから」については 24.9%から 22.7%に減少し、「費用がかかるから」については 15.0%から 18.4%に増加している。

【経年変化】

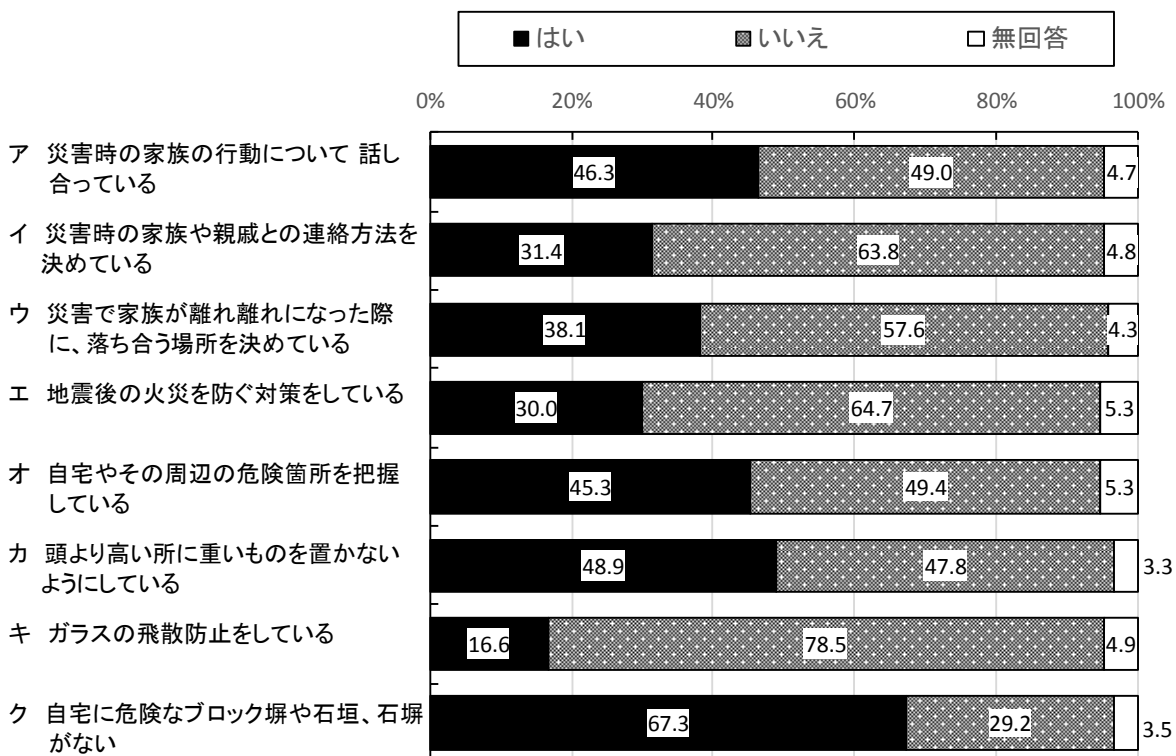


※ 「用意するつもりはあるがまだ用意していない」は平成 27 年度の新設項目。

《全ての人に伺います》

(11) 災害に備えて行っていること

問6 あなたのお宅では大地震などの災害に備えて、次のア～クの各項目について行っていますか。はい、いいえのいずれかを選んでください。



大地震などの災害に備えて行っていることを尋ねたところ、「自宅に危険なブロック塀や石垣、石塀がない」が最も高く67.3%となっている。次いで「頭より高い所に重いものを置かないように」が48.9%、「災害時の家族の行動について話し合っている」が46.3%となっている。

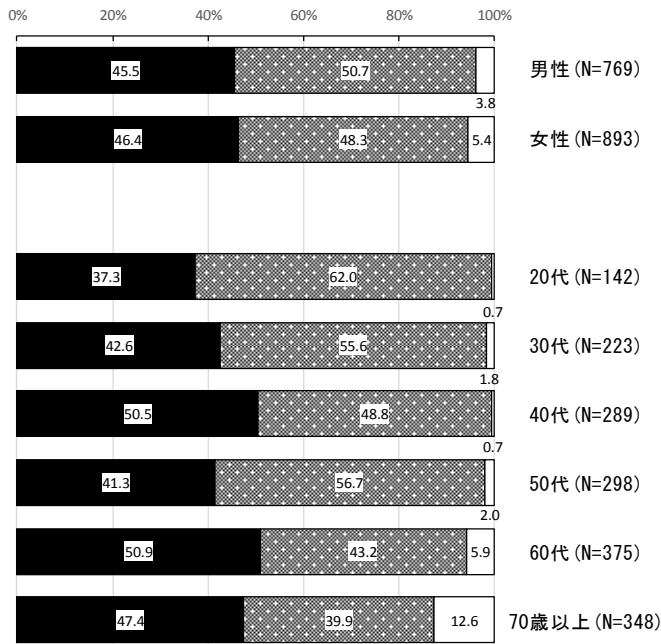
男女別に見ると、大きな差は見られない。

年代別に見ると、「地震後の火災を防ぐ対策をしている」と「自宅やその周辺の危険箇所を把握している」は年代が上がるに連れ、高くなる傾向がある。

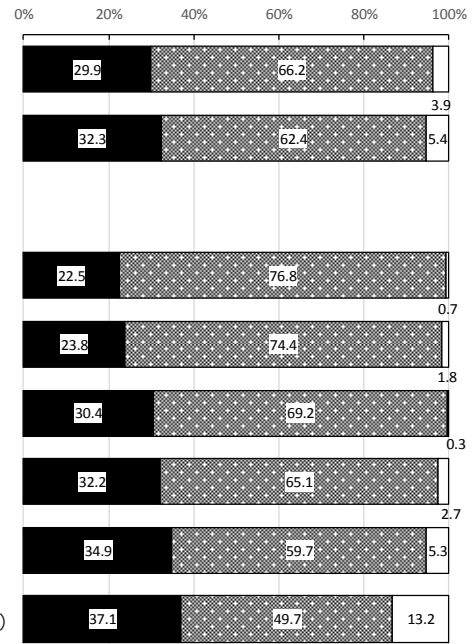
IV 調査結果

【性別・年代別】

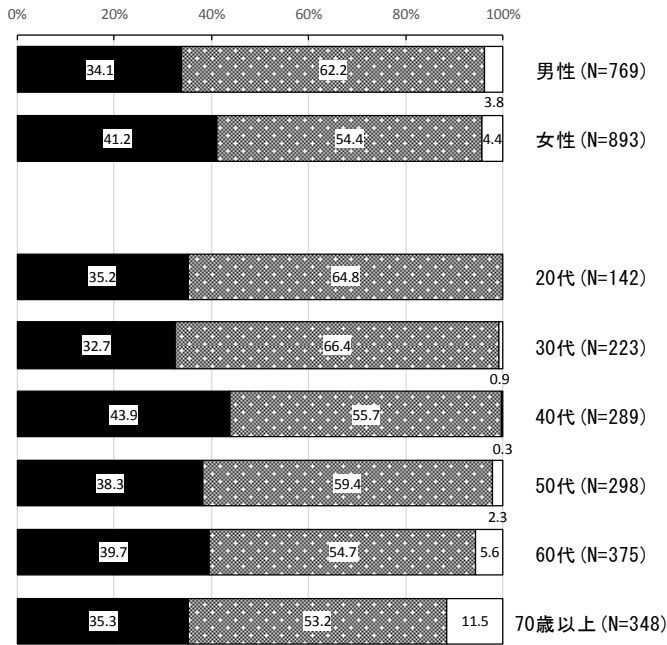
ア 災害時の家族の行動について話し合っている



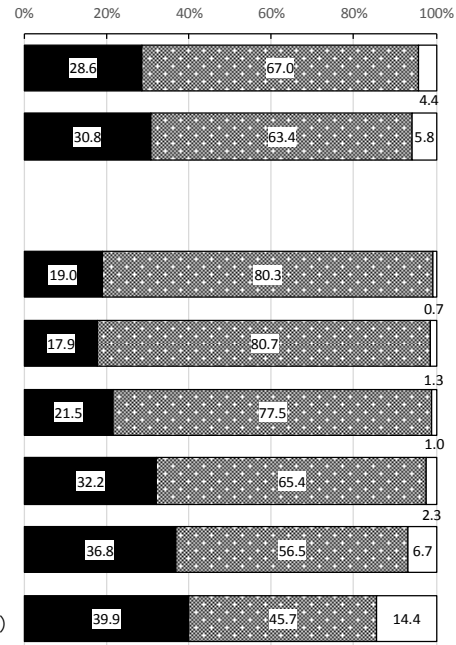
イ 災害時の家族や親戚との連絡方法を決めている



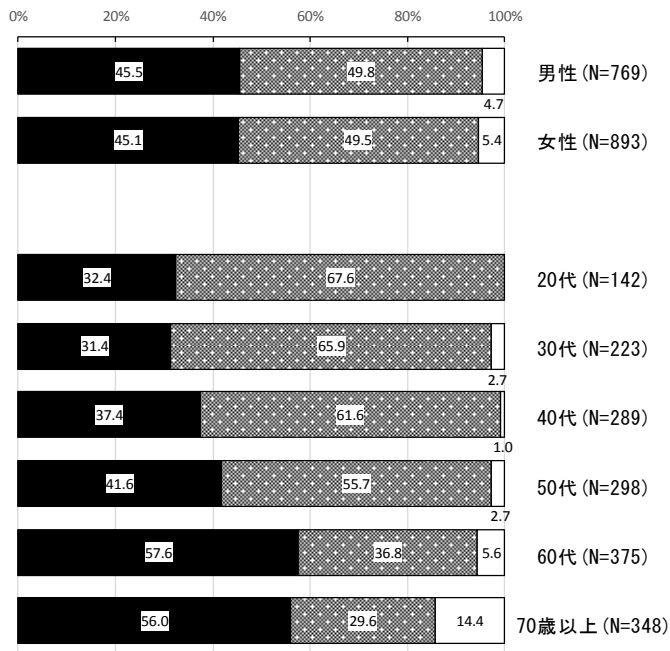
ウ 離れ離れになった際落ち合う場所を決めている



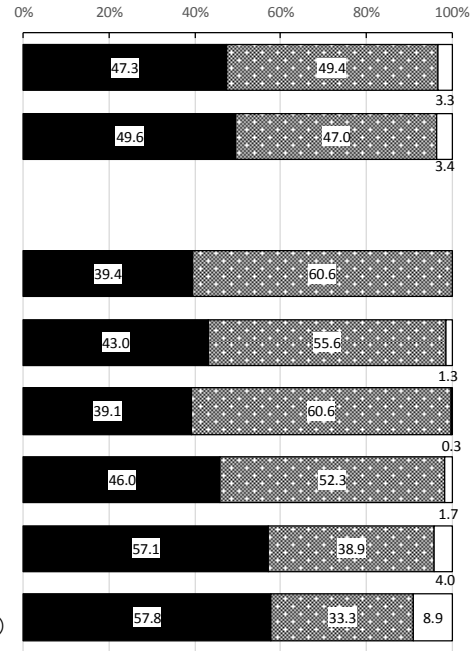
エ 地震後の火災を防ぐ対策をしている



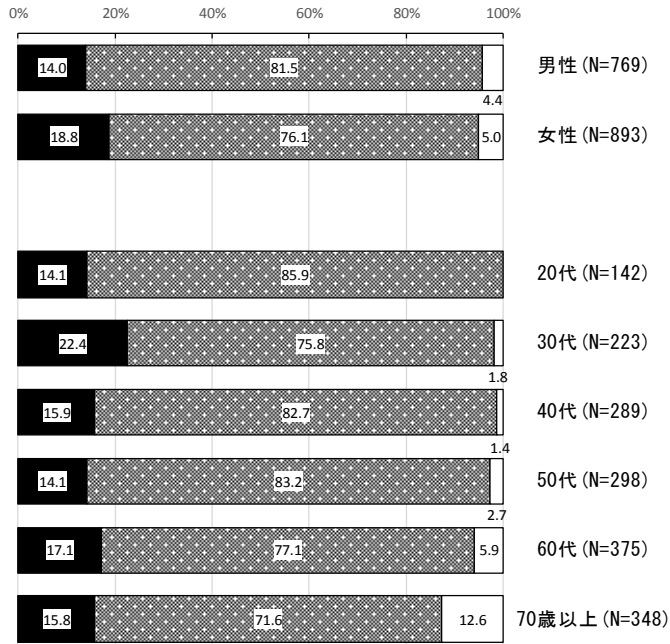
オ 自宅やその周辺の危険箇所を把握している



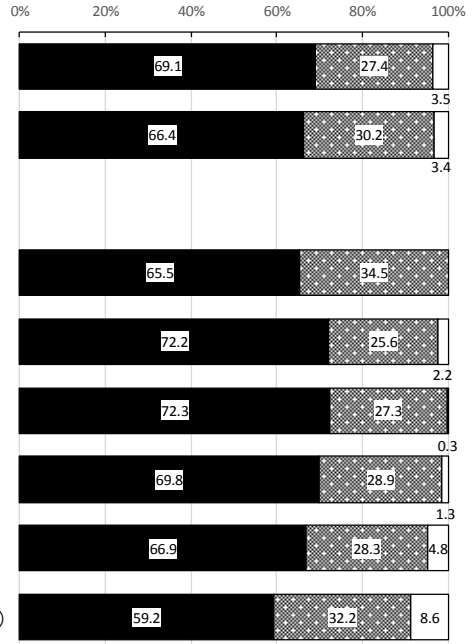
カ 頭より高い所に重いものを置かないようにしている



キ ガラスの飛散防止をしている



ク 自宅に危険なブロック塀や石垣、石塀がない

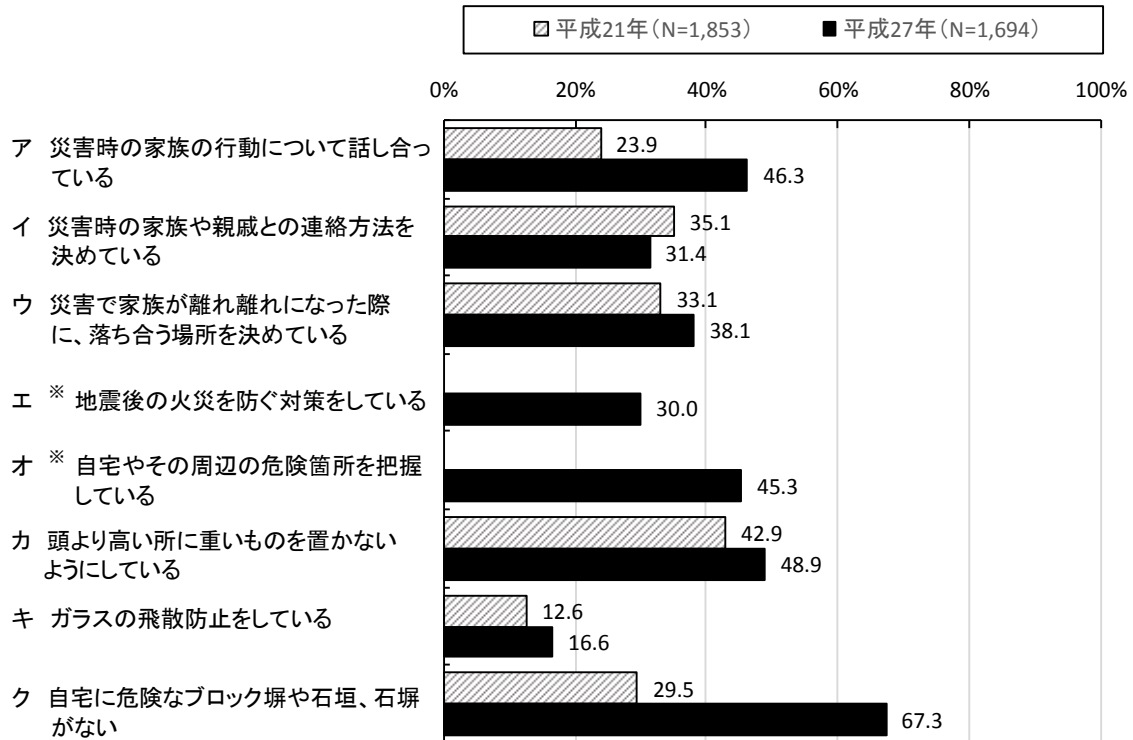


■ はい ■ いいえ □ 無回答

IV 調査結果

平成 21 年度の調査結果と比較すると、「自宅に危険なブロック塀や石垣、石塀がない」については 29.5%から 2 倍以上増加し 67.3%に、「災害時の家族の行動について話し合っている」についても約 2 倍増加し 23.9%から 46.3%になっている。

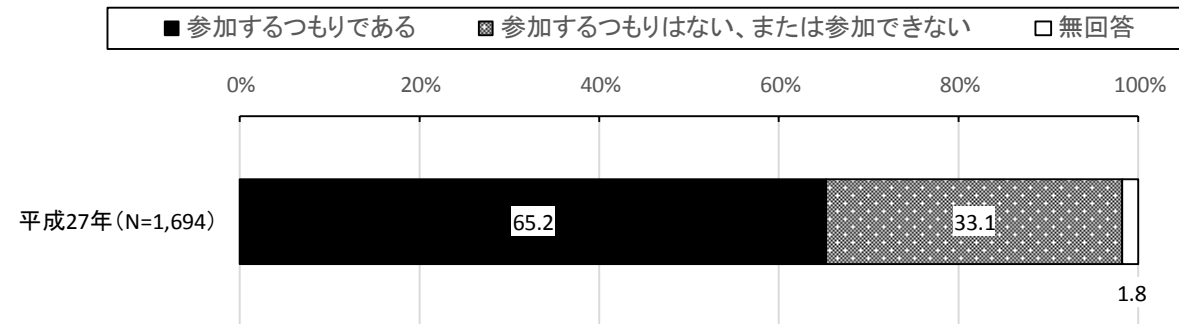
【経年変化】



※「地震後の火災を防ぐ対策をしている」「自宅やその周辺の危険箇所を把握している」は平成 27 年度の新設項目。

(12) 自主防災活動への参加意向

問7 あなたは大地震などの災害時に地域の自主防災会の活動に参加しますか。
次の中から1つだけ選んでください。

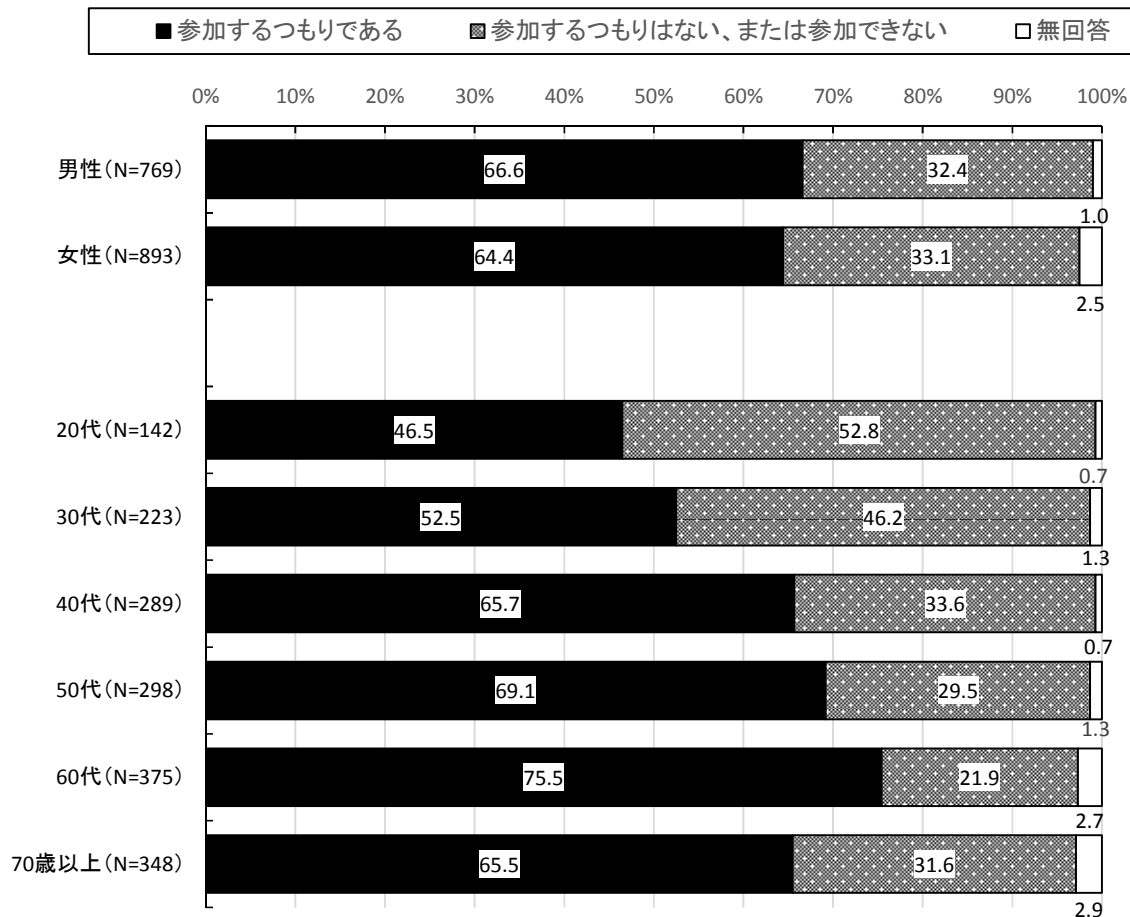


自主防災活動への参加意向を尋ねたところ、「参加するつもりである」が 65.2%、「参加するつもりはない」が 33.1%となった。

男女別に見ると、男女で大きな差は見られない。

年代別に見ると、「参加するつもりである」は年代が上がるに連れ高くなる傾向があるが、60代の75.5%をピークに、70代では65.5%となっている。

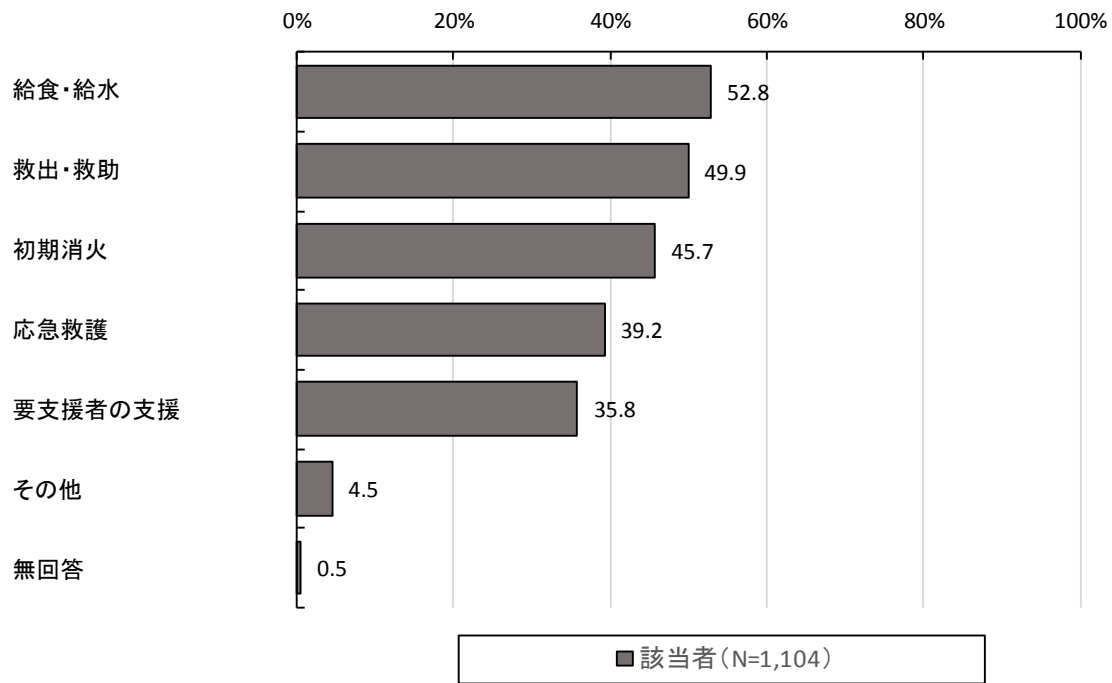
【性別・年代別】



<問7で「1 参加するつもりである」と答えた人に伺います。>

(13) 災害時に参加したいと思う自主防災活動

問7-1 あなたが参加したいと思う災害時の自主防災会の活動は、どんな活動ですか。
次の中から当てはまるものを全て選んでください。

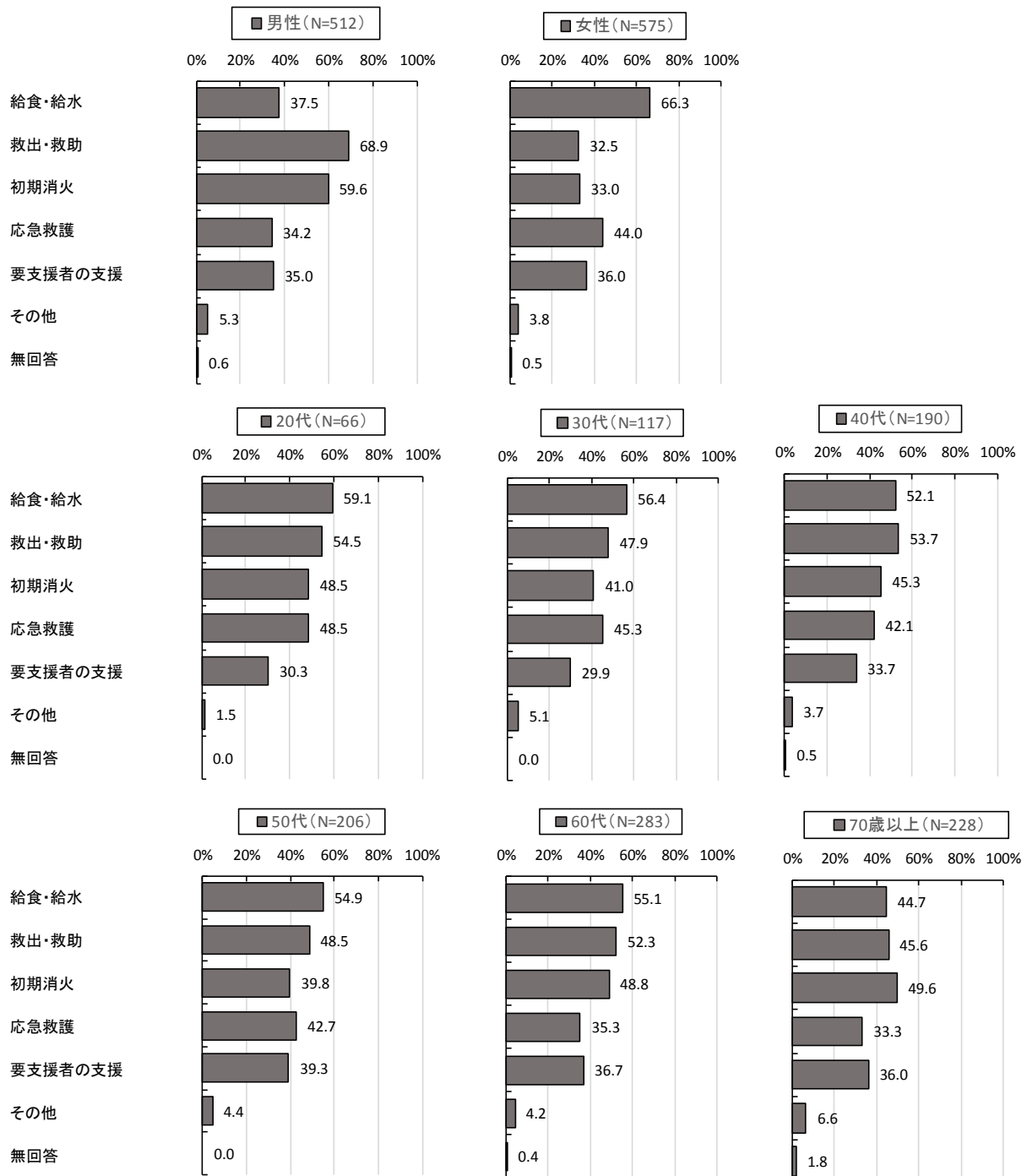


参加したいと思う自主防災活動を尋ねたところ、「給食・給水」が最も高く 52.8%、次いで「救出・救助」が 49.9%、「初期消火」が 45.7%と続いている。

男女別に見ると、「給食・給水」については男性が37.5%、女性が66.3%と女性のほうが高くなっている。また、「救出・救助」は男性が68.9%、女性が32.5%、「初期消火」は男性が59.6%、女性が33.0%と男性のほうが高くなっている。

年代別に見ると、20代・30代・50代・60代では「給食・給水」が最も高く、40代では「救出・救助」、70代以上では「初期消火」となっている。

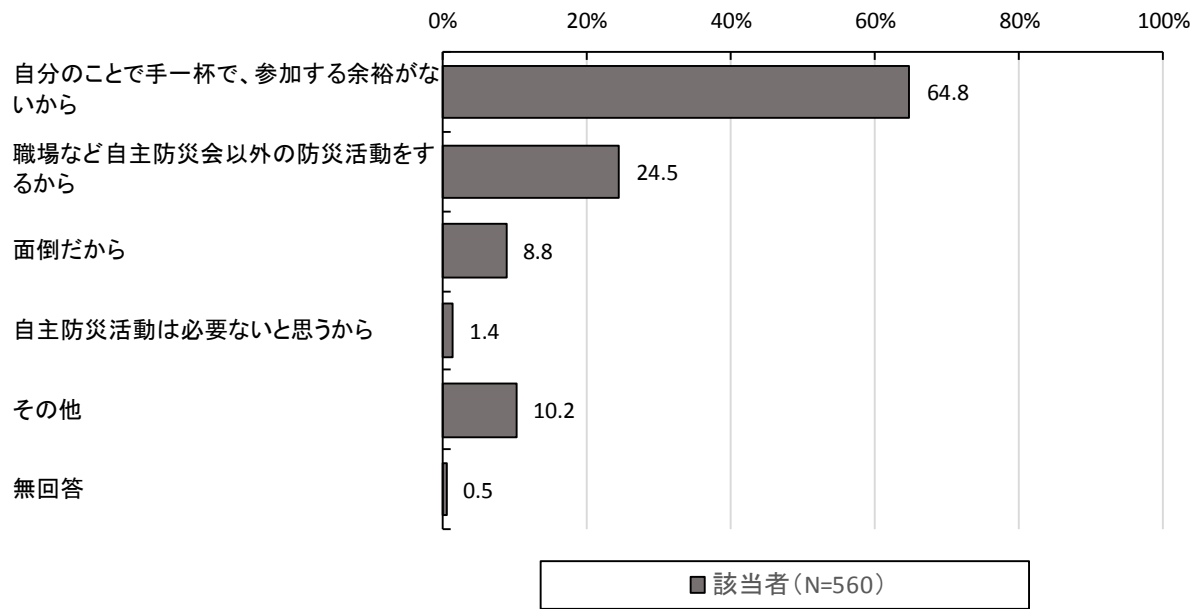
【性別・年代別】



<問7で「2 参加するつもりはない、または参加できない」と答えた人に伺います>

(14) 自主防災活動に参加しない・できない理由

問7-2 あなたが、災害時の自主防災会の活動に「参加するつもりはない、または参加できない」理由は何ですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

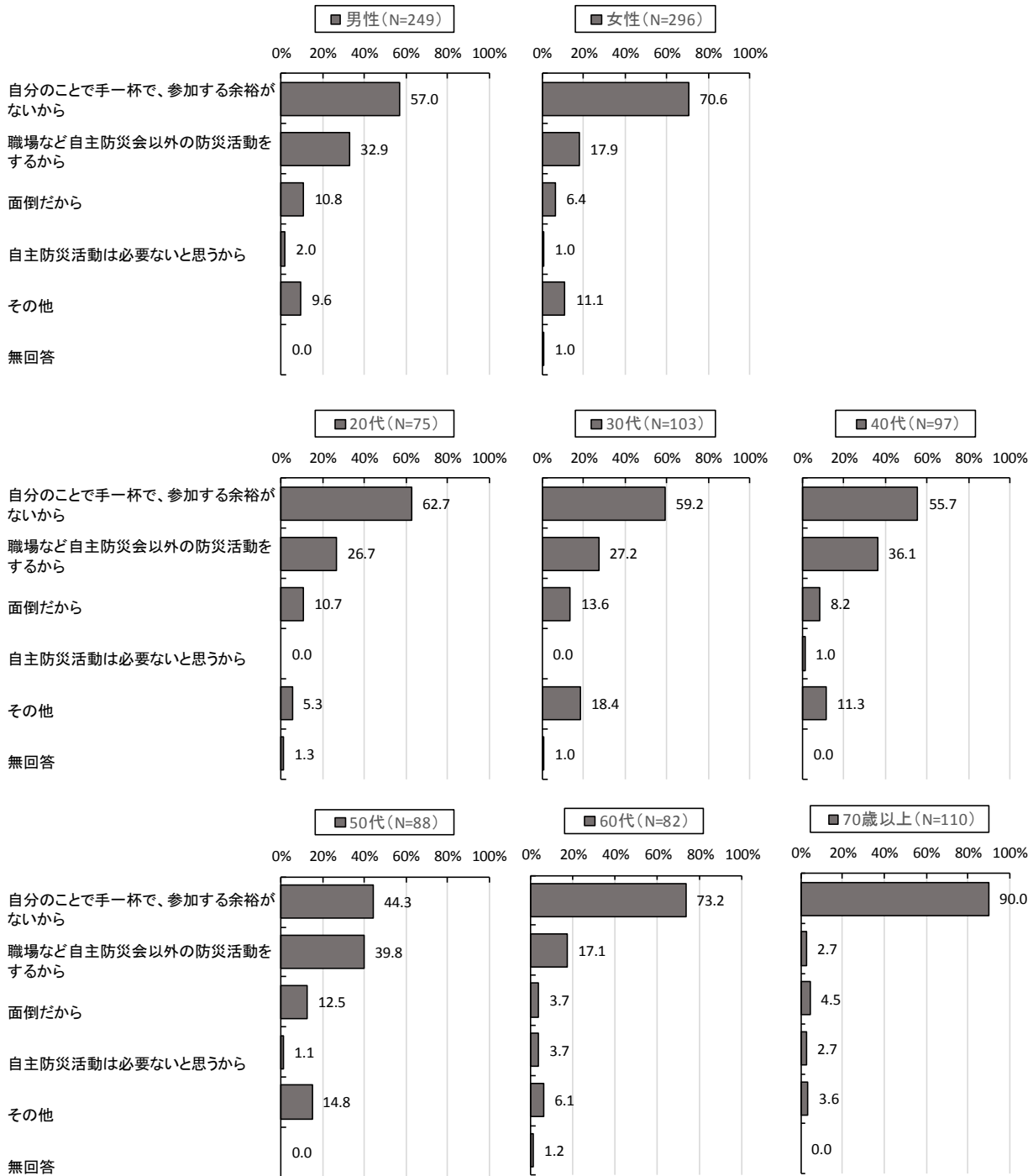


自主防災会の活動に参加しない、または参加できない理由について尋ねたところ、「自分のことで手一杯で、参加する余裕がないから」が最も高く 64.8%、次いで「職場など自主防災会以外の防災活動をするから」が 24.5%、「面倒だから」が 8.8%となっている。

男女別に見ると、「自分のことで手一杯で、参加する余裕がないから」については男性が57.0%、女性が70.6%と女性のほうが高くなっている。また、「職場など自主防災会以外の防災活動をするから」は男性が32.9%、女性が17.9%と男性のほうが高くなっている。

年代別に見ると、全ての年代で「自分のことで手一杯で、参加する余裕がないから」が最も高く、特に70歳以上では90.0%となっている。

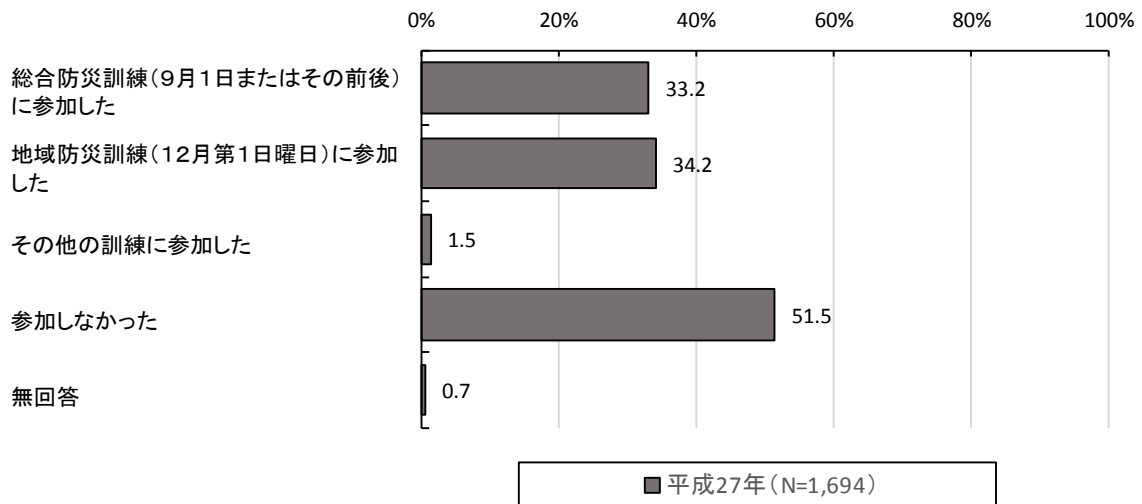
【性別・年代別】



《全ての人に伺います》

(15) 総合防災訓練・地域防災訓練への参加状況

問8 昨年の9月1日の総合防災訓練または12月第1日曜日の地域防災訓練に参加しましたか。
 次の中から当てはまるものを全て選んでください。

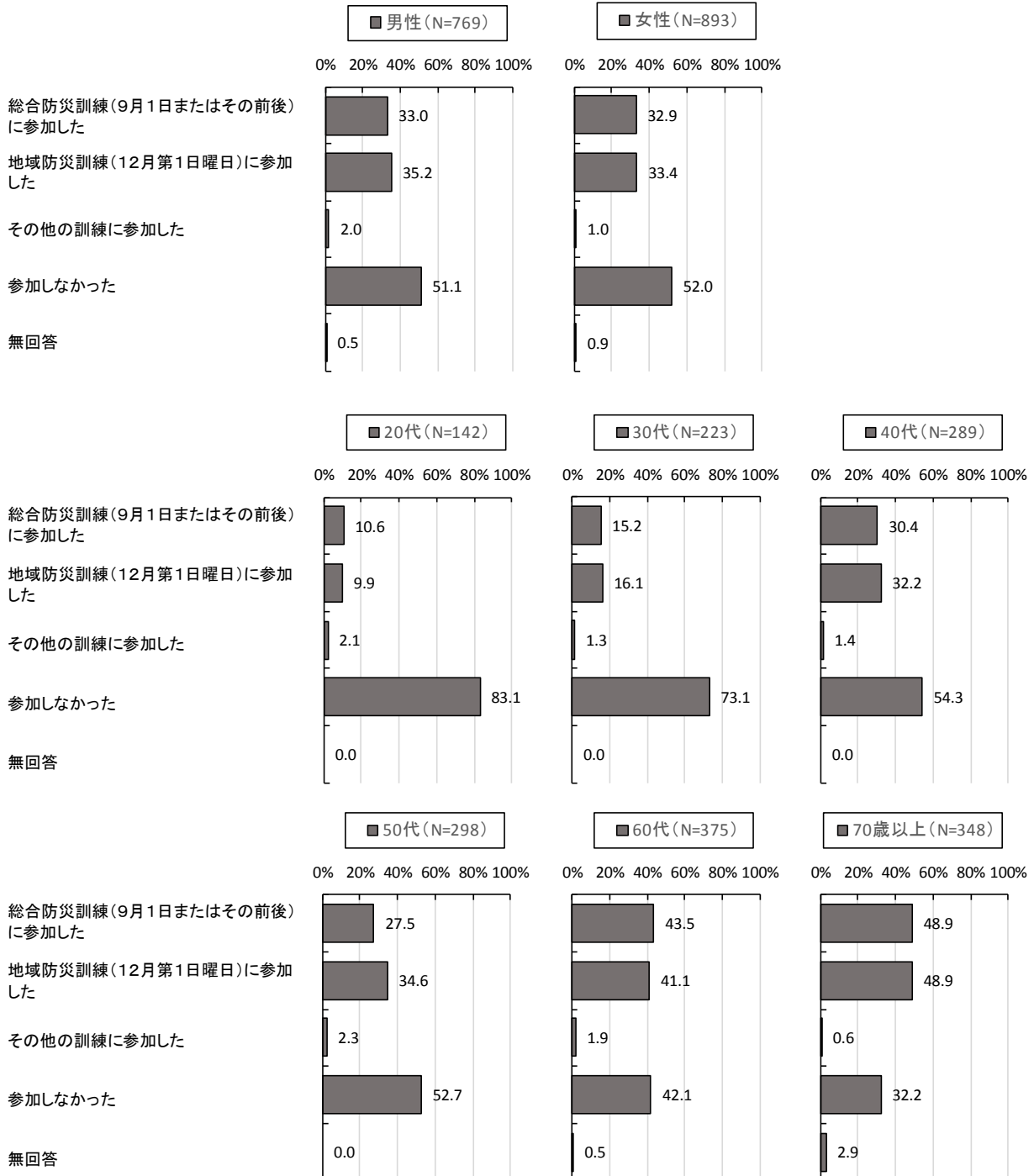


防災訓練に参加したか尋ねたところ、「総合防災訓練（9月1日またはその前後）に参加した」は33.2%、「地域防災訓練（12月第1日曜日）に参加した」は34.2%となっている。また、「参加しなかった」は51.5%となっている。

男女別に見ると、男女間で大きな差は見られない。

年代別に見ると、「総合防災訓練に参加した」と「地域防災訓練に参加した」は、年代が上がるに連れて高くなる傾向がある。「参加しなかった」割合は若年層ほど高くなっている。

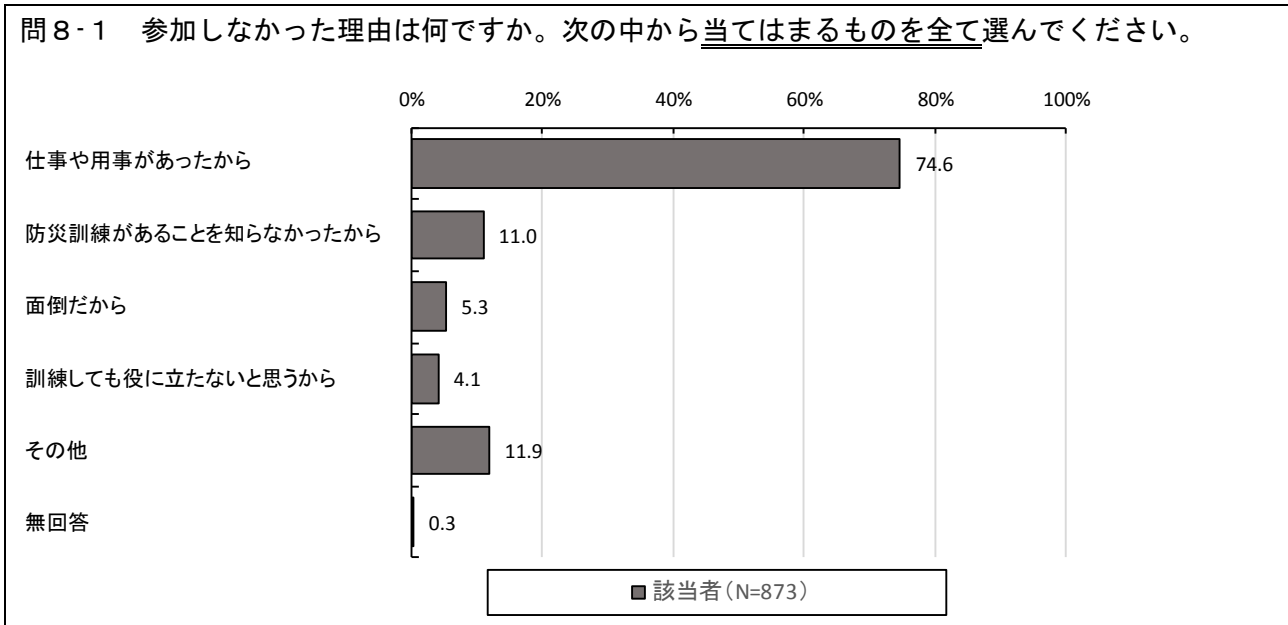
【性別・年代別】



<問8で「4 参加しなかった」と答えた人に伺います>

(16) 総合防災訓練・地域防災訓練に参加しなかった理由

問8-1 参加しなかった理由は何ですか。次の中から当てはまるものを全て選んでください。

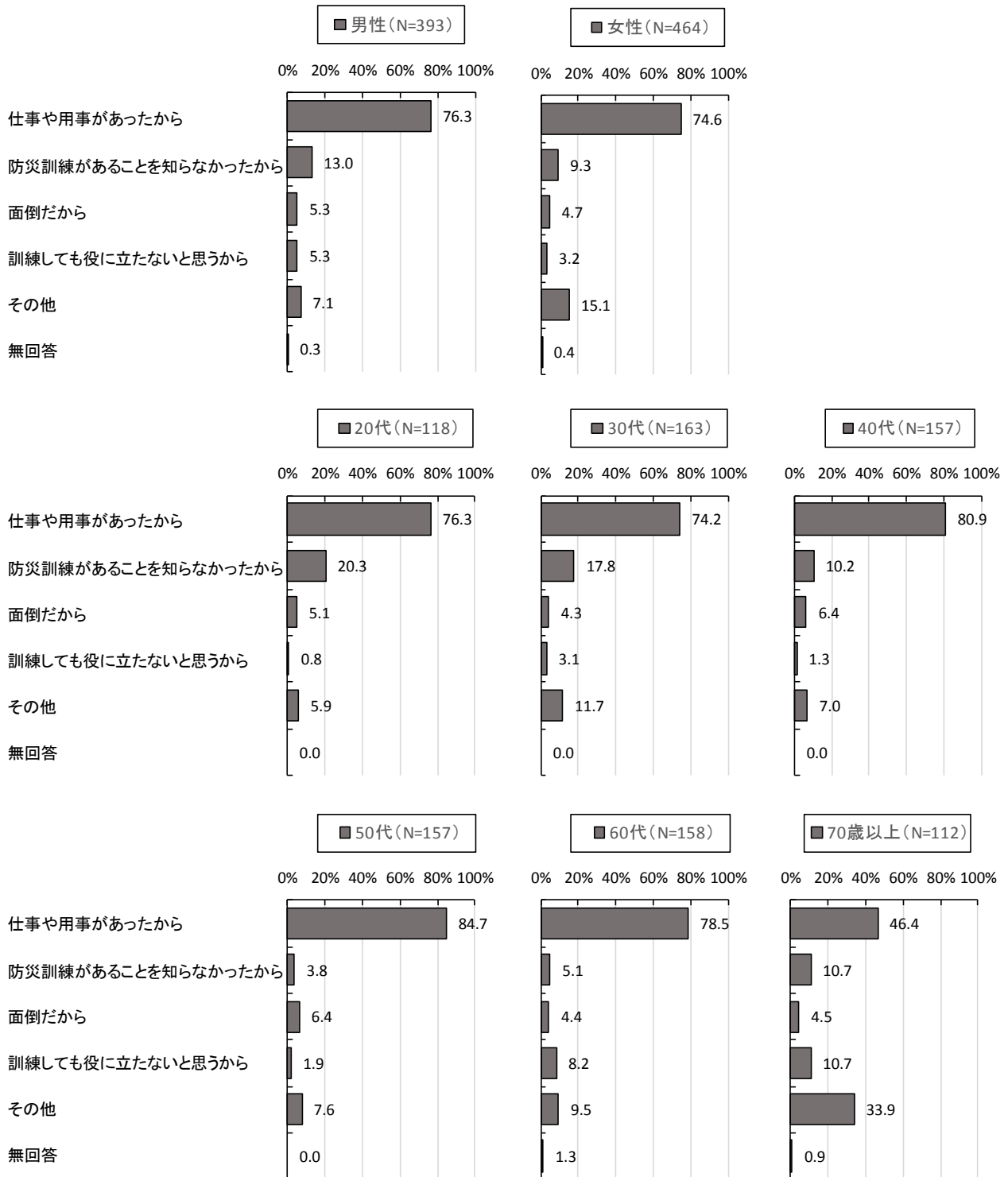


総合防災訓練・地域防災訓練に参加しなかった理由について尋ねたところ、「仕事や用事があったから」が最も高く74.6%となっている。次いで、「防災訓練があることを知らなかったから」が11.0%、「面倒だから」が5.3%と続いている。

男女別に見ると、男女間で大きな差は見られない。

年代別に見ると、「仕事や用事があったから」は全ての年代で最も高くなっており、特に40代、50代では8割を超えている。

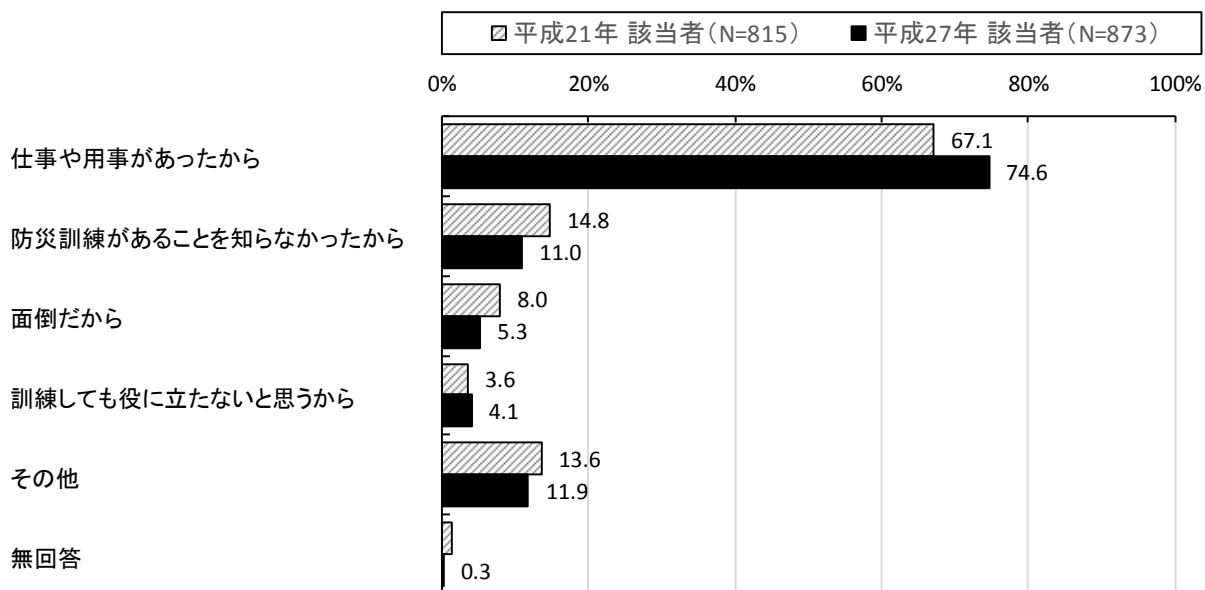
【性別・年代別】



IV 調査結果

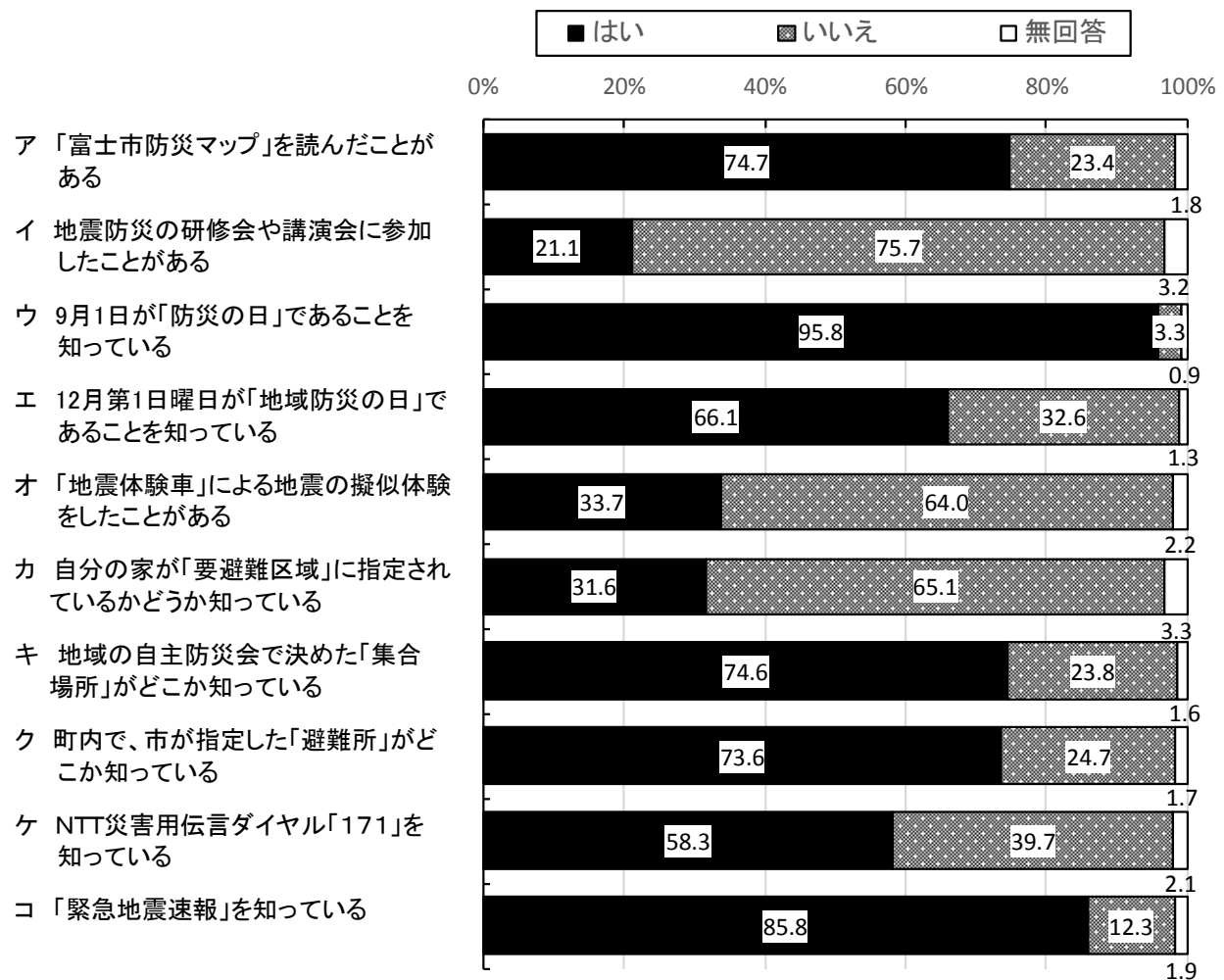
平成 21 年度の調査結果と比較すると、「仕事や用事があったから」は 67.1%から増加し 74.6%となっている。「防災訓練があることを知らなかったから」は 14.8%から減少し、11.0%となっている。

【経年変化】



《全ての人に伺います》

(17) 防災に関する知識や体験の有無

問9 次のア～コの各項目について はい、いいえのいずれかを選んでください。

防災に関する知識や体験の有無について尋ねたところ、該当者が多かった項目は「9月1日が『防災の日』であることを知っている」が95.8%で最も高く、次いで『緊急地震速報』を知っている」が85.8%、「富士防災マップ」を読んだことがある」が74.7%、「地域の自主防災会の『集合場所』を知っている」が74.6%と続いている。該当者が少なかった項目は「地震防災の研修会や講演会に参加したことがある」が21.1%、「『地震体験車』による疑似体験をしたことがある」が33.7%、「自分の家が『要避難区域』に指定されているかどうか知っている」が31.6%となっている。

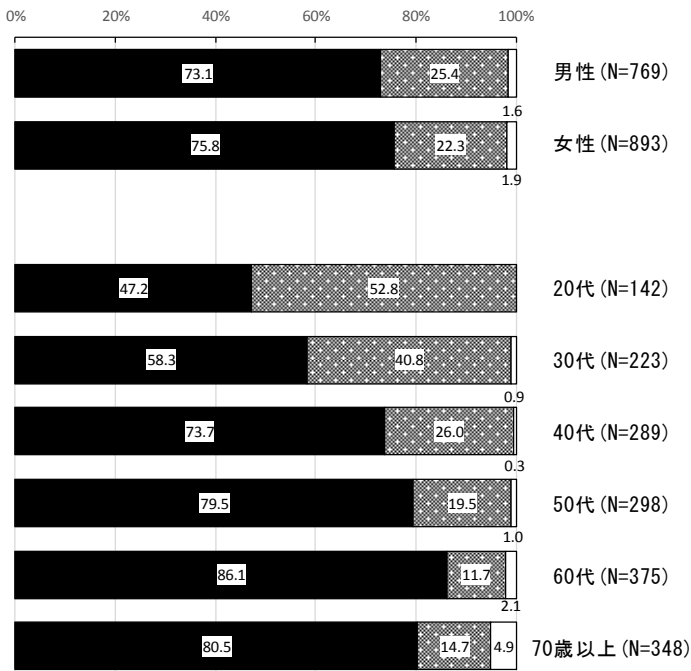
男女別に見ると、男女間で大きな差は見られない。

年代別に見ると、世代間で認知に開きがある項目があり「『富士市防災マップ』を読んだことがある」、「12月第1日曜日が『地域防災の日』と知っている」、「地域の自主防災会の『集合場所』を知っている」、「市が指定した居住町内の『避難場所』を知っている」については20代・30代は他世代よりも認知が低くなっている。

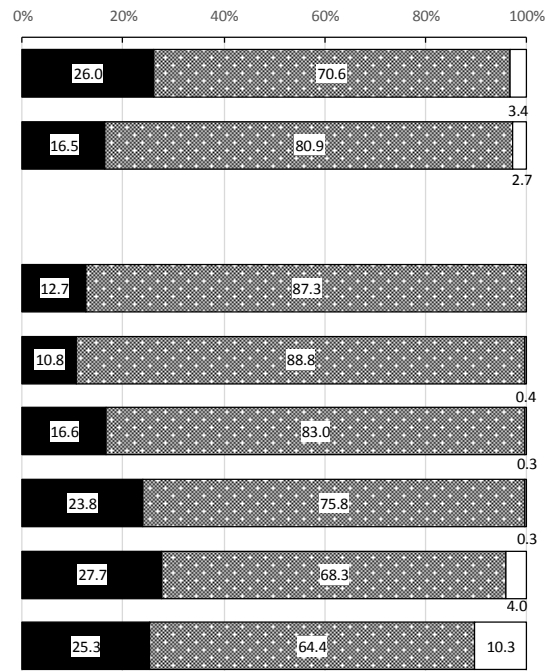
IV 調査結果

【性別・年代別】

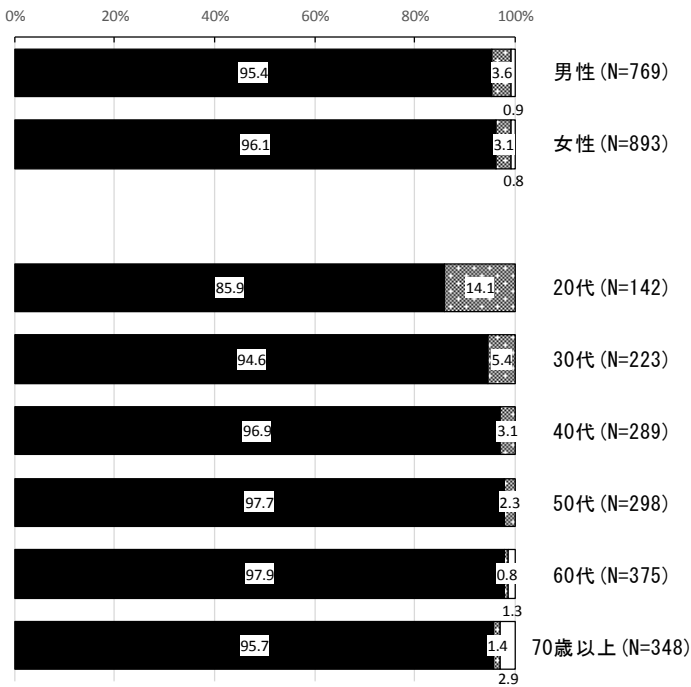
ア 「富士市防災マップ」を読んだことがある



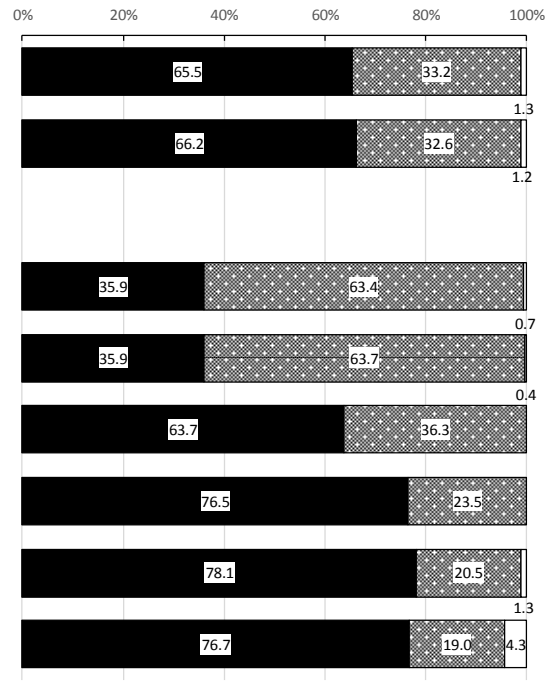
イ 地震防災の研修会や講演会に参加したことがある



ウ 9月1日が「防災の日」であることを知っている

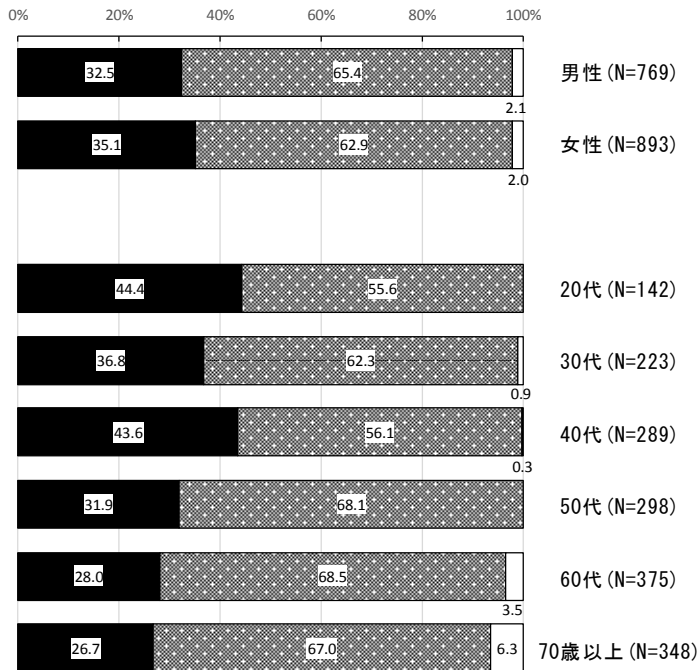


エ 12月第1日曜日が「地域防災の日」であることを知っている

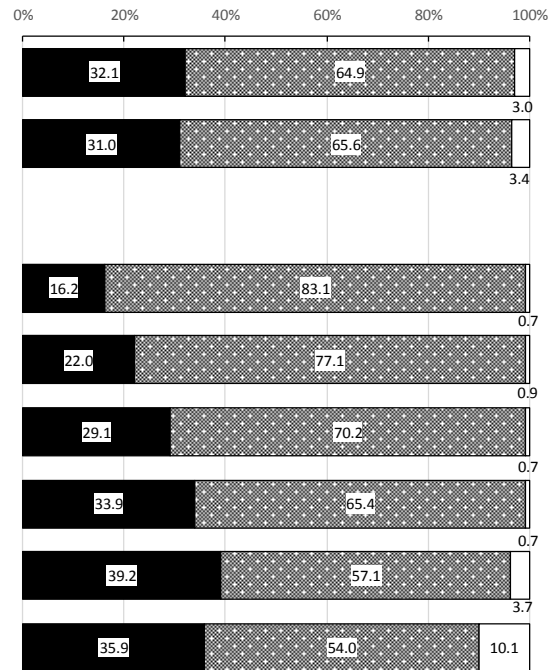


■ はい ■ いいえ □ 無回答

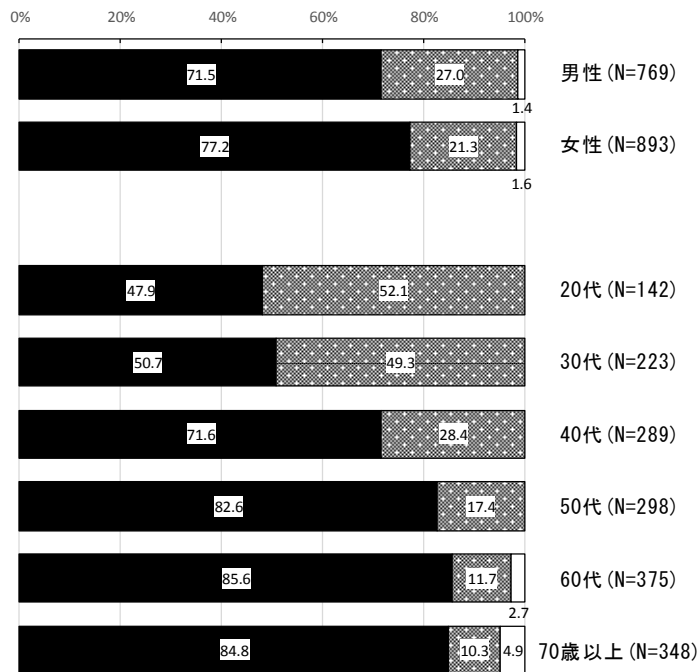
オ 「地震体験車」による地震の疑似体験をしたことがある



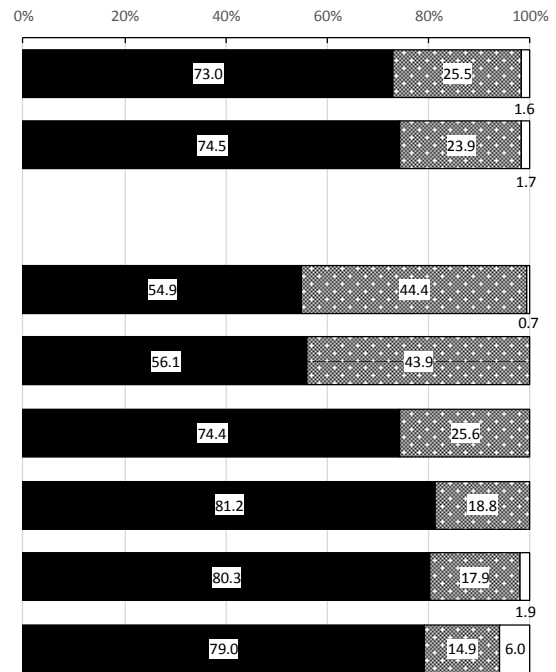
カ 自分の家が「要避難区域」に指定されているかどうか知っている



キ 地域の自主防災会で決めた「集合場所」がどこか知っている



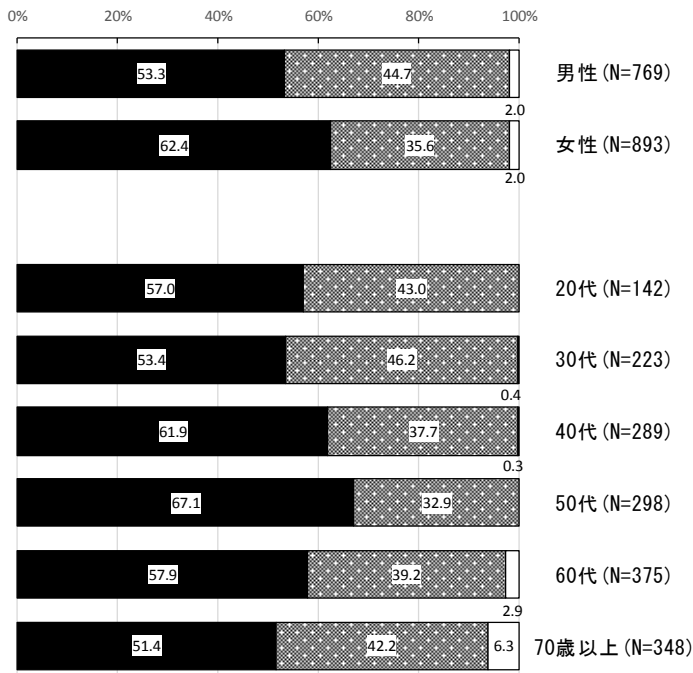
ク 町内で、市が指定した「避難所」がどこか知っている



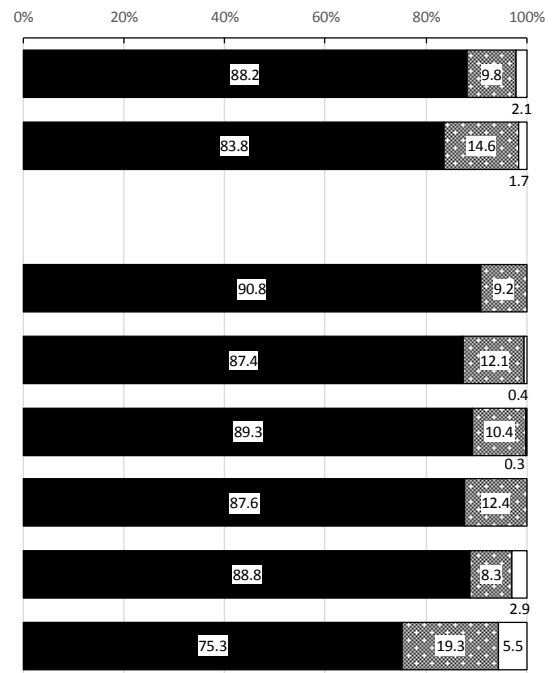
■ はい ■ いいえ □ 無回答

IV 調査結果

ケ NTT災害用伝言ダイヤル「171」を知っている



コ 「緊急地震速報」を知っている

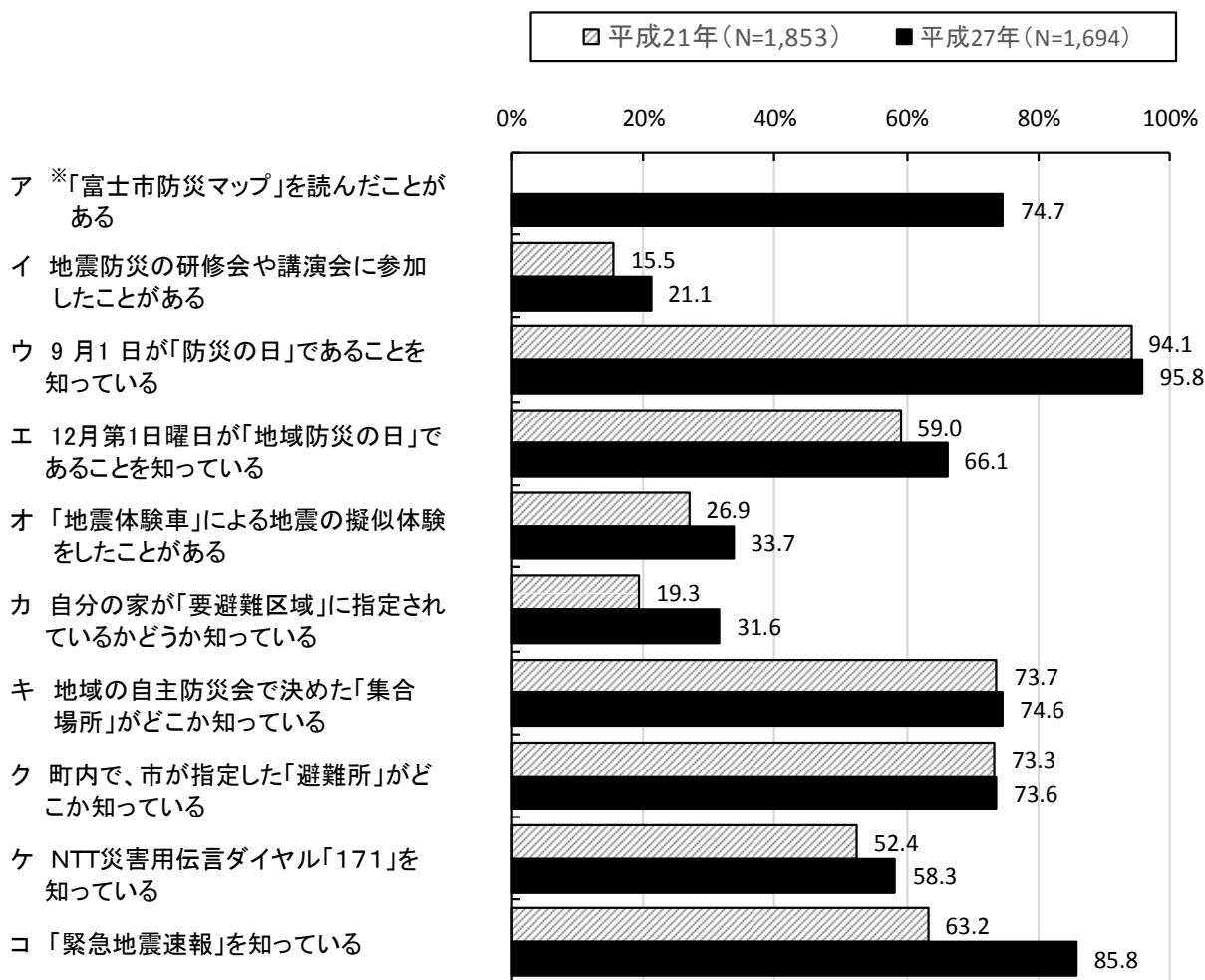


■ はい ▣ いいえ □ 無回答

平成21年度の調査結果と比較すると、「9月1日が『防災の日』であることを知っている」は94.1%から95.8%と大きな変化はない。「『緊急地震速報』を知っている」は63.2%から85.8%に増加している。

該当者が少なかった「地震防災の研修会や講演会に参加したことがある」、「『地震体験車』による疑似体験をしたことがある」、「自分の家が『要避難区域』に指定されているかどうか知っている」の3項目についてはいずれも平成21年より平成27年では増加している。

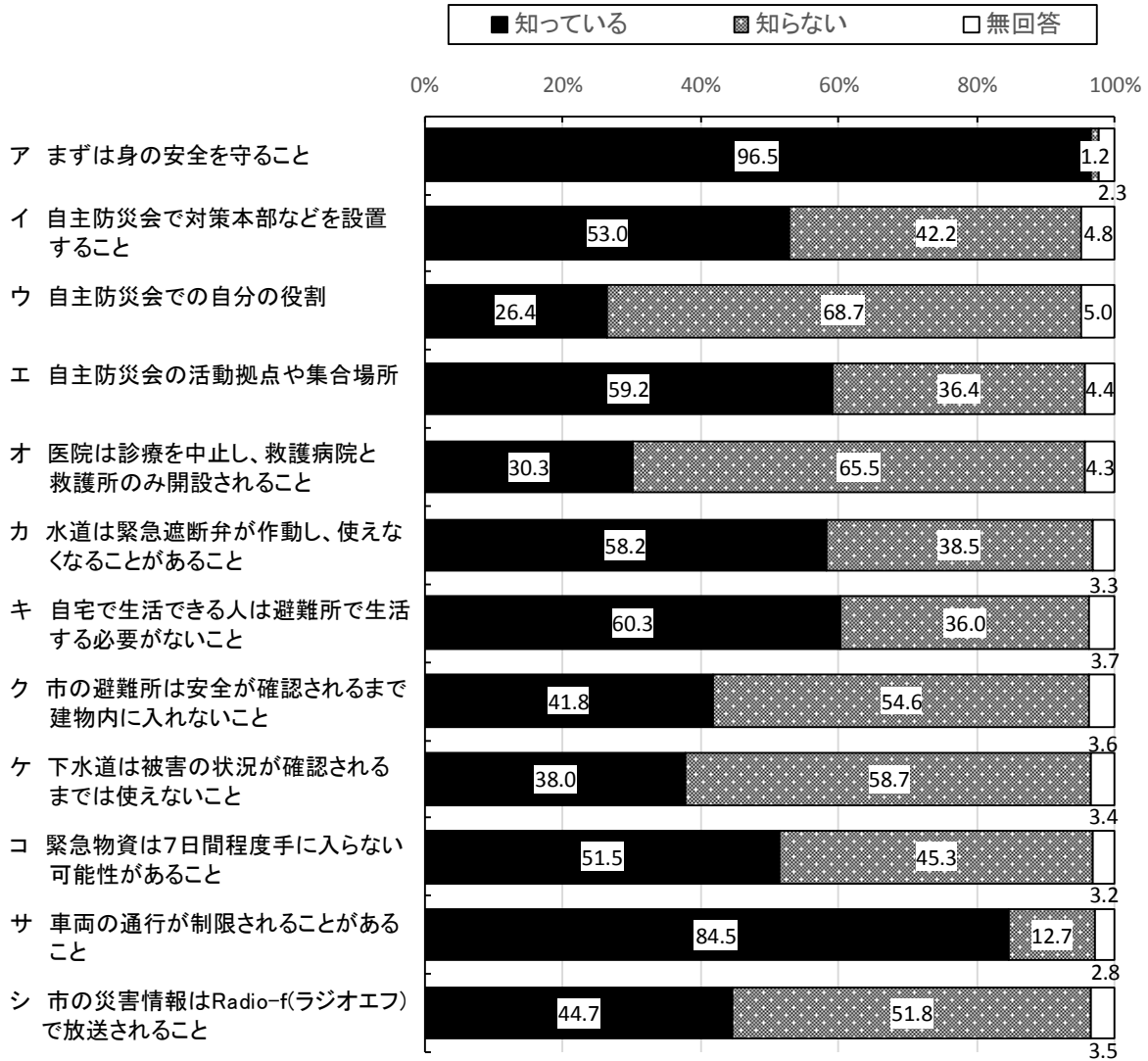
【経年変化】



※ 「『富士市防災マップ』を読んだことがある」は平成27年度の新設項目。

(18) 大地震発生時の対策について

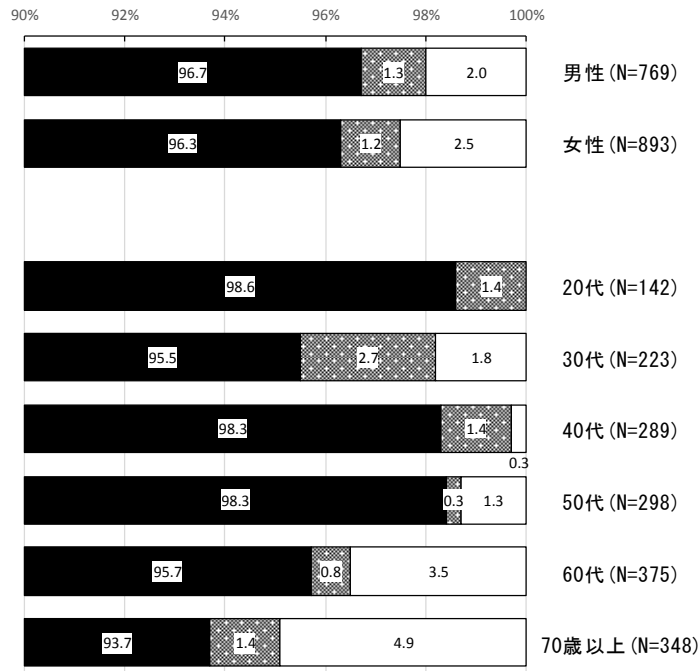
問10 あなたは、大地震が発生したとき、市や自主防災会、あなた自身が行う対策などについて知っていますか。次のア～シの各項目について、知っている、知らないのいずれかを選んでください。



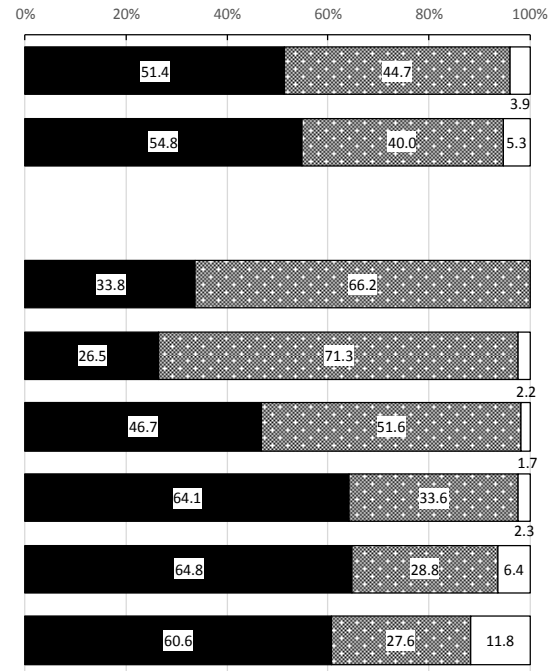
大地震が発生したとき、市や自主防災会、みずから行う対策などについて知っているか尋ねたところ、「まずは身の安全を守ること」が96.5%で最も高く、次いで「車両の通行が制限されることがある」が84.5%、「自宅で生活できる人は避難所で生活する必要がないこと」が60.3%となっている。認知度が3割以下となった項目は、「自主防災会での自分の役割」の26.4%、「医院は診療を中止し、救護病院と救護所のみ開設されること」の30.3%となっている。

【性別・年代別】

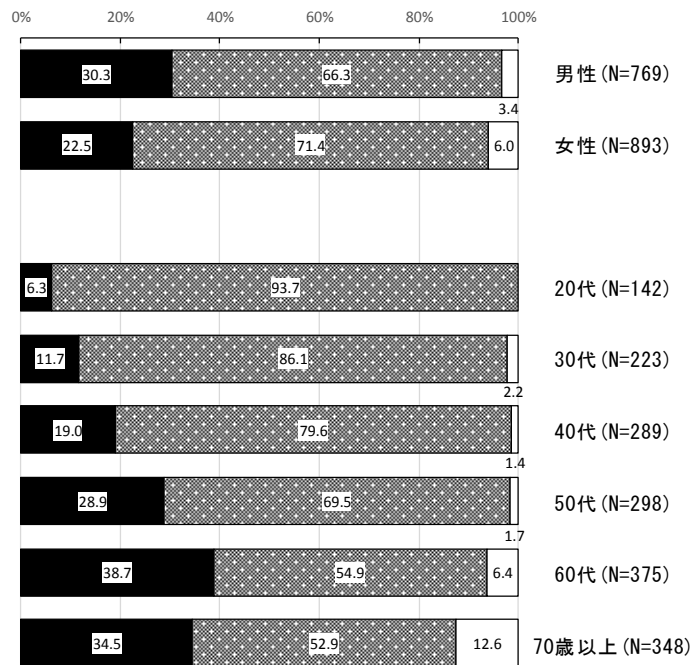
ア まずは身の安全を守ること



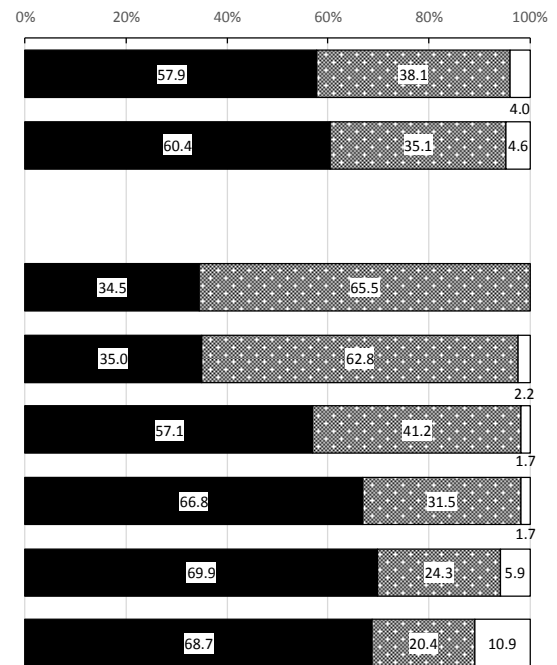
イ 自主防災会で対策本部などを設置すること



ウ 自主防災会での自分の役割



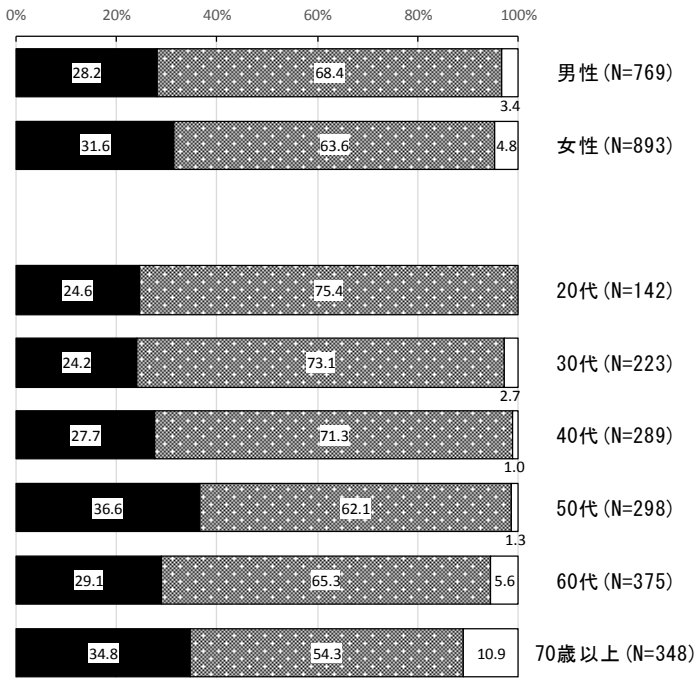
エ 自主防災会の活動拠点や集合場所



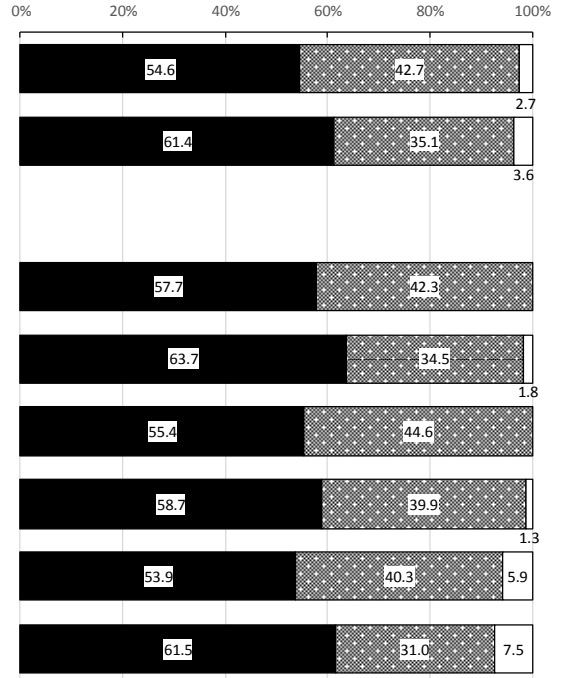
■ 知っている ▨ 知らない □ 無回答

IV 調査結果

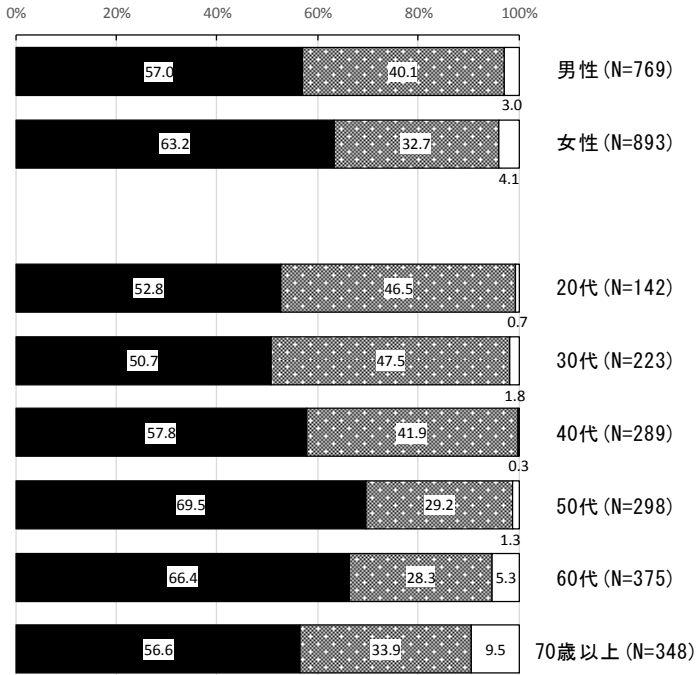
オ 医院は診療を中止し、救護病院と救護所のみ開設されること



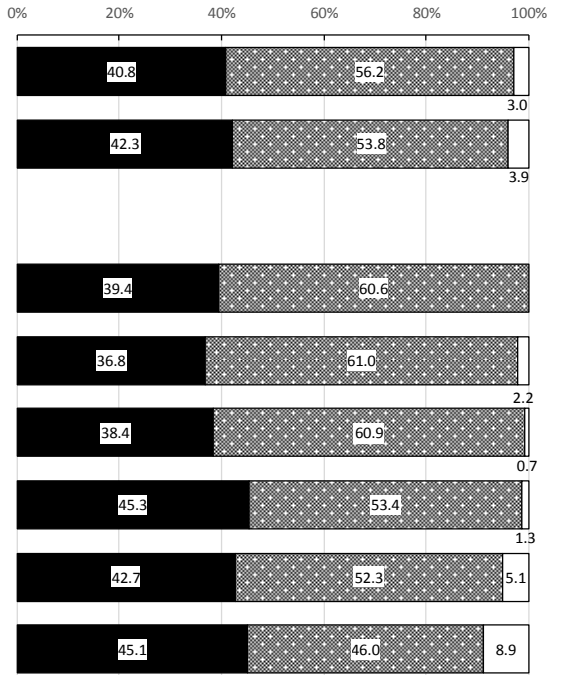
カ 水道は緊急遮断弁が作動し、使えなくなることがあること



キ 自宅で生活できる人は避難所で生活する必要がないこと

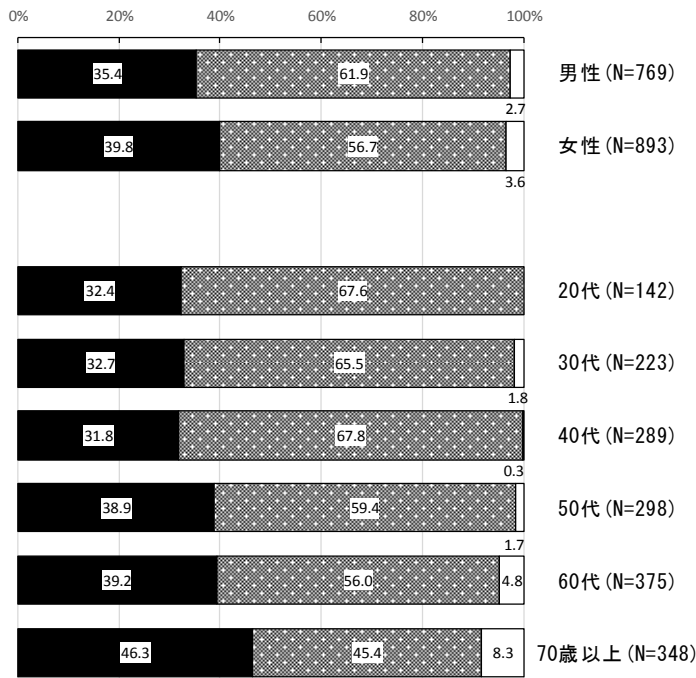


ク 市の避難所は安全が確認されるまで建物内に入れないこと

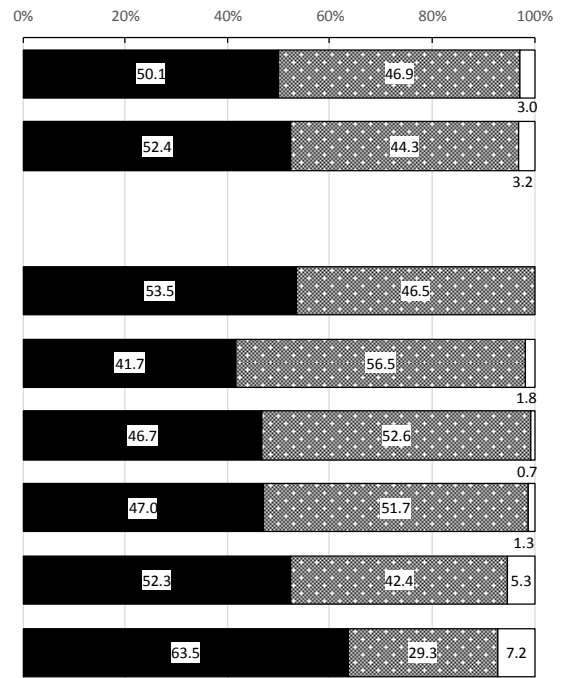


■ 知っている ▨ 知らない □ 無回答

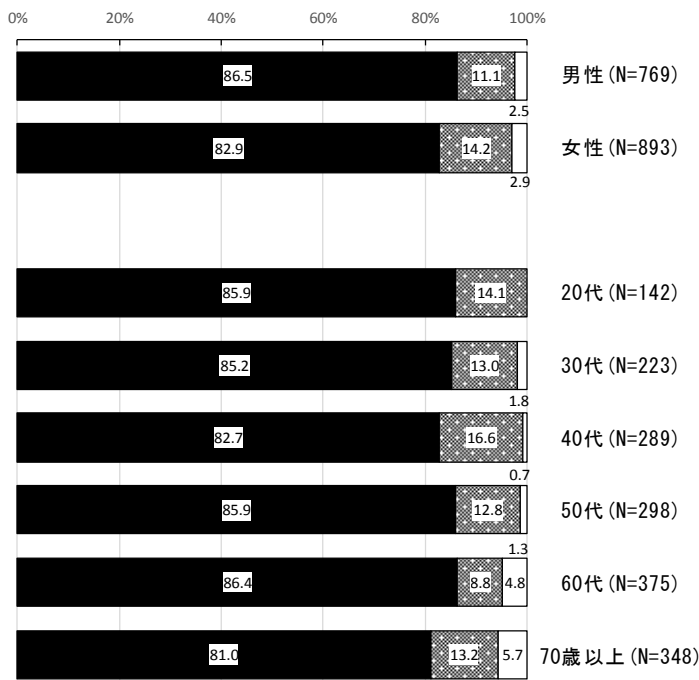
ケ 下水道は被害の状況が確認されるまでは使えないこと



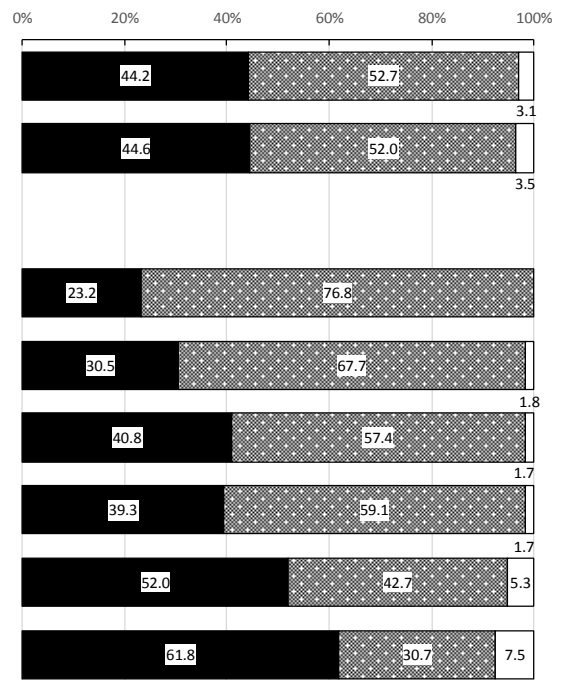
コ 緊急物資は7日間程度手に入らない可能性があること



サ 車両の通行が制限されることがあること



シ 市の災害情報はRadio-fで放送されること

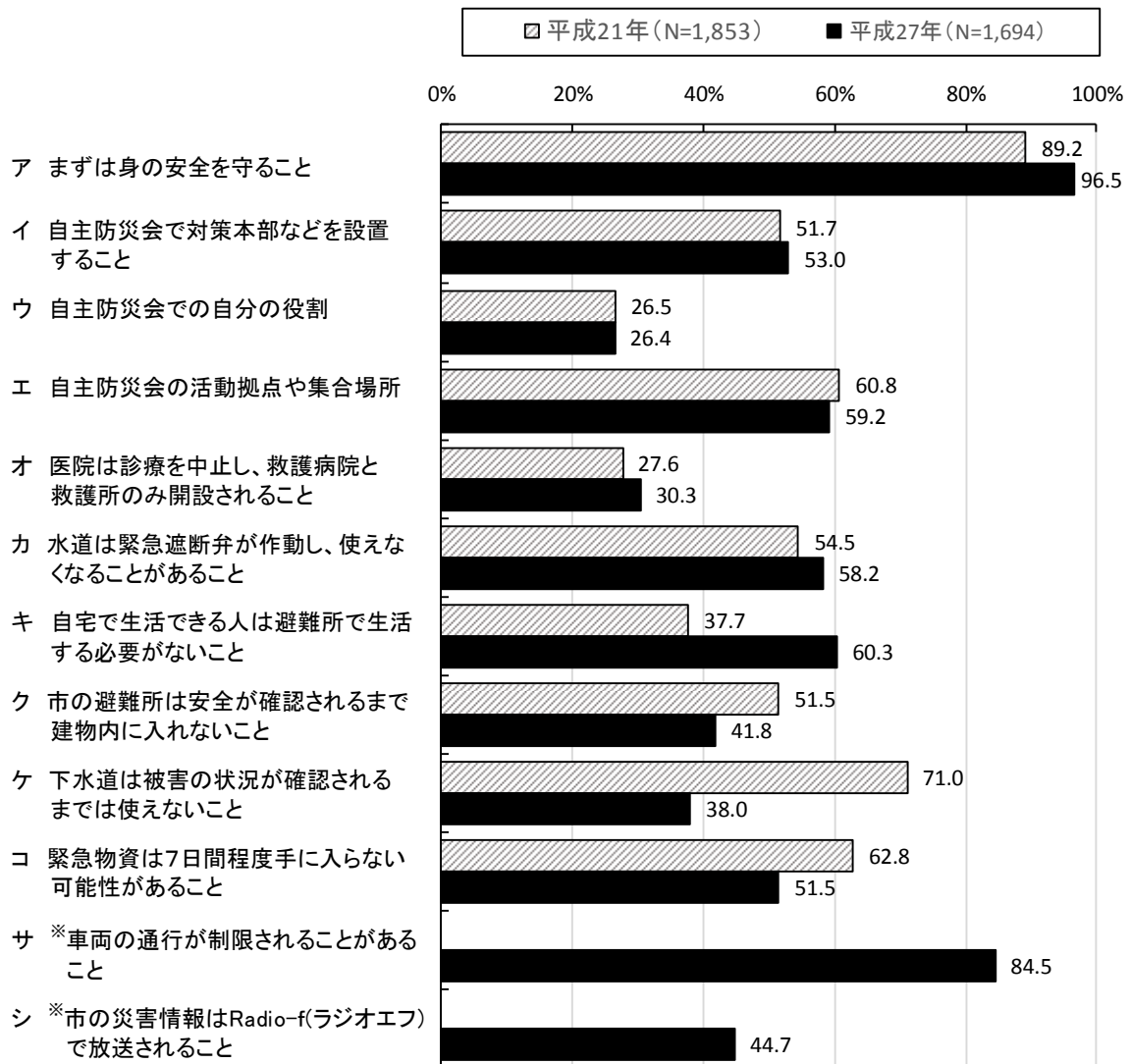


■ 知っている ▨ 知らない □ 無回答

IV 調査結果

平成 21 年度の調査結果と比較すると、「まずは身の安全を守ること」が 89.2%から 96.5%に増加している。大きく増加した項目は、「自宅で生活できる人は避難所生活が必要ないこと」で、37.7%から 22.6 ポイント増加し、60.3%となっている。一方、大きく減少した項目は、「下水道は被害の状況が確認されるまで使えないこと」で、71.0%から 33.0 ポイント減少し、38.0%となっている。

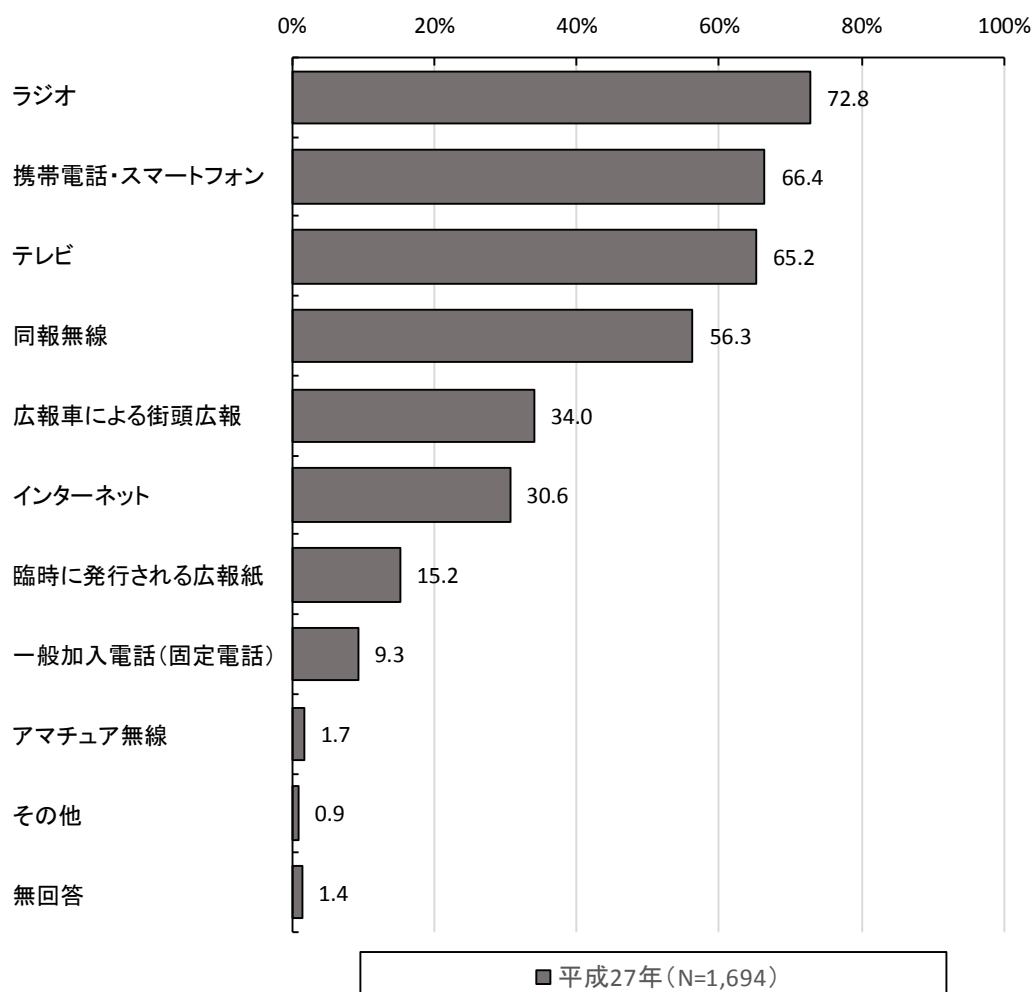
【経年変化】



※「車両の通行が制限されることがある」、「市の災害情報は Radio-f(ラジオエフ)で放送されること」は平成 27 年度の新設項目。

(19) 大地震発生時の情報入手手段

問11 大地震が発生した場合、災害に関する情報を何から入手しようと思いますか。
次の中から当てはまるものを全て選んでください。



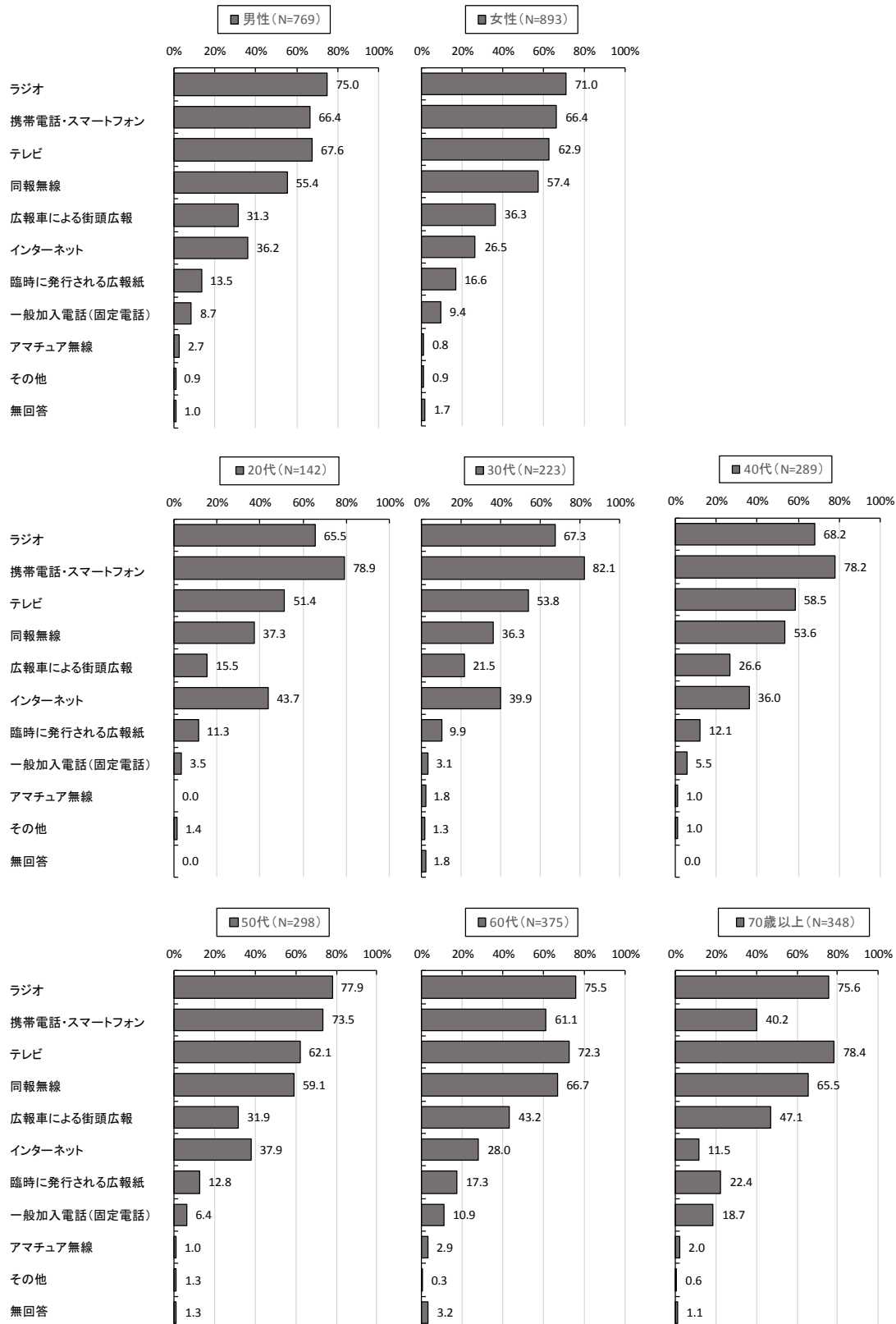
大地震発生時の情報入手手段について尋ねたところ、「ラジオ」が最も高く72.8%、次いで「携帯電話・スマートフォン」が66.4%、「テレビ」が65.2%、「同報無線」が56.3%と続いている。

IV 調査結果

男女別に見ると、男女共に「ラジオ」が最も高く男性で75.0%、女性で71.0%となっている。「インターネット」は男性で36.2%、女性で26.5%と男性のほうが高くなっている。

年代別に見ると、20代から40代では「携帯電話・スマートフォン」が最も高く、50代と60代では「ラジオ」、70代では「テレビ」となっている。また、「インターネット」については若年層ほど高い傾向がある。

【性別・年代別】



(20) 大地震発生時に知りたい情報

問12 大地震が発生した場合、どのような情報を知りたいですか。

次の中から主なものを3つ以内で選んでください。

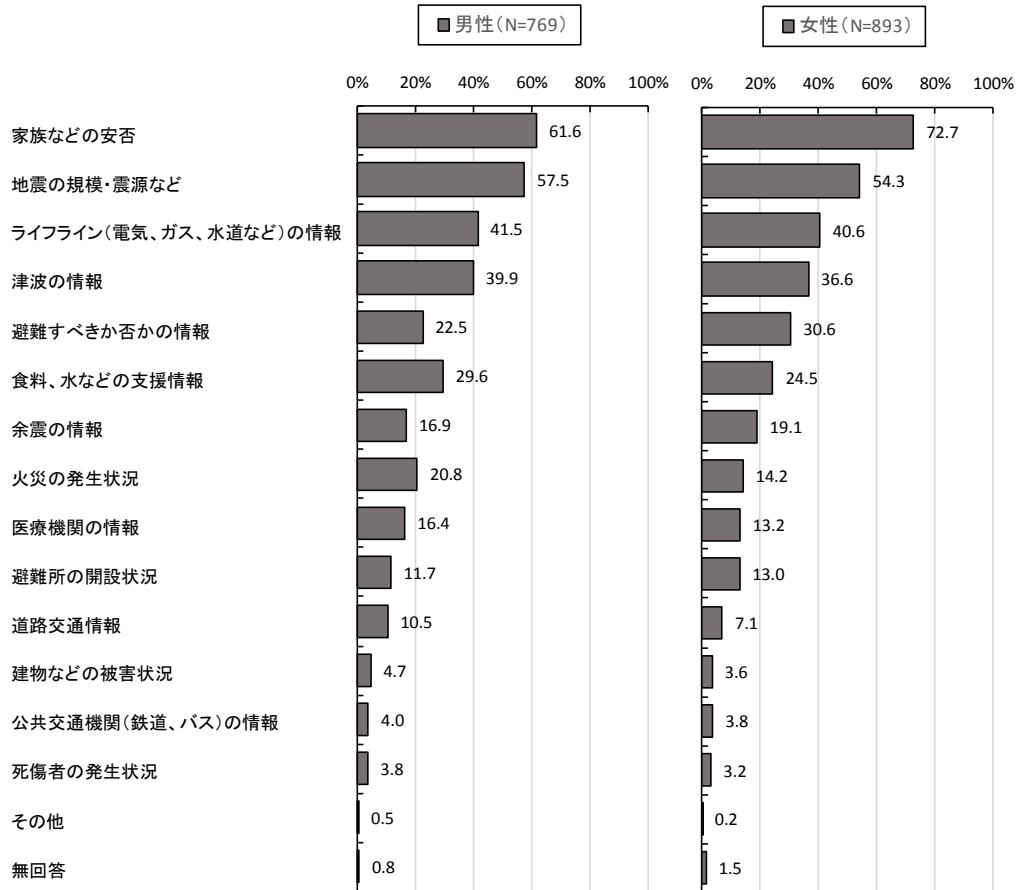


大地震発生時に知りたい情報について尋ねたところ、「家族などの安否」が最も高く 67.5%、次いで「地震の規模・震源など」が 56.0%、「ライフライン(電気、ガス、水道など)の情報」が 41.0%、「津波の情報」が 38.2%となっている。

IV 調査結果

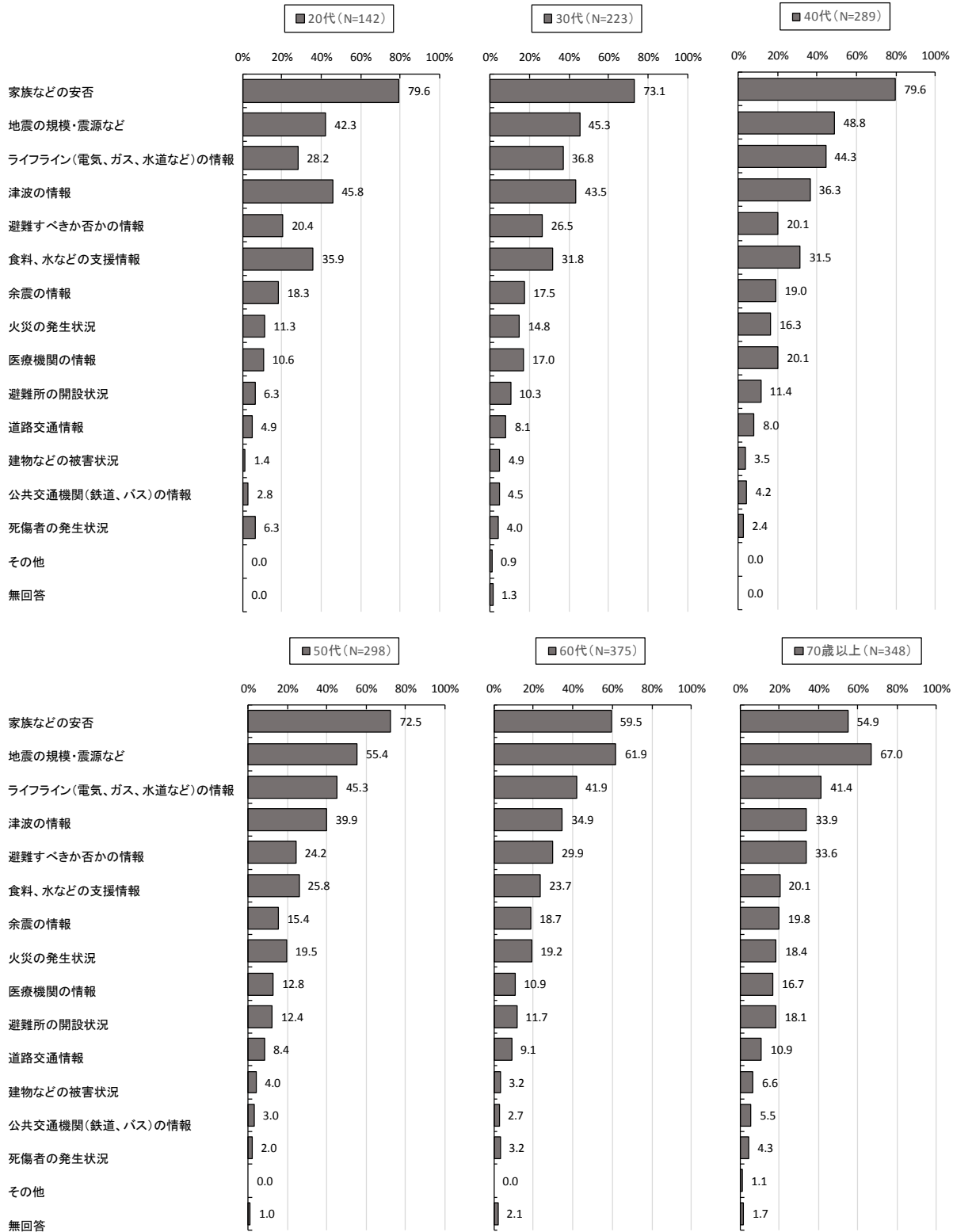
男女別で見ると、「家族などの安否」が男女共に最も高く、男性が61.6%、女性が72.7%となっている。また、「避難すべきか否かの情報」について、男性が22.5%、女性が30.6%と女性のほうが高くなっている。「食料、水などの支援情報」については、男性が29.6%、女性が24.5%と男性のほうが高くなっている。

【性別】



年代別で見ると、20代から50代では「家族などの安否」が最も高く、60代と70歳以上では「地震の規模・震源など」が最も高くなっている。「ライフラインの情報」は20代で28.2%、30代で36.8%と他の世代よりも低くなっている。また、「食料、水などの支援情報」については20代の35.9%をピークに年代が上がるにつれ、減少する傾向になっている。

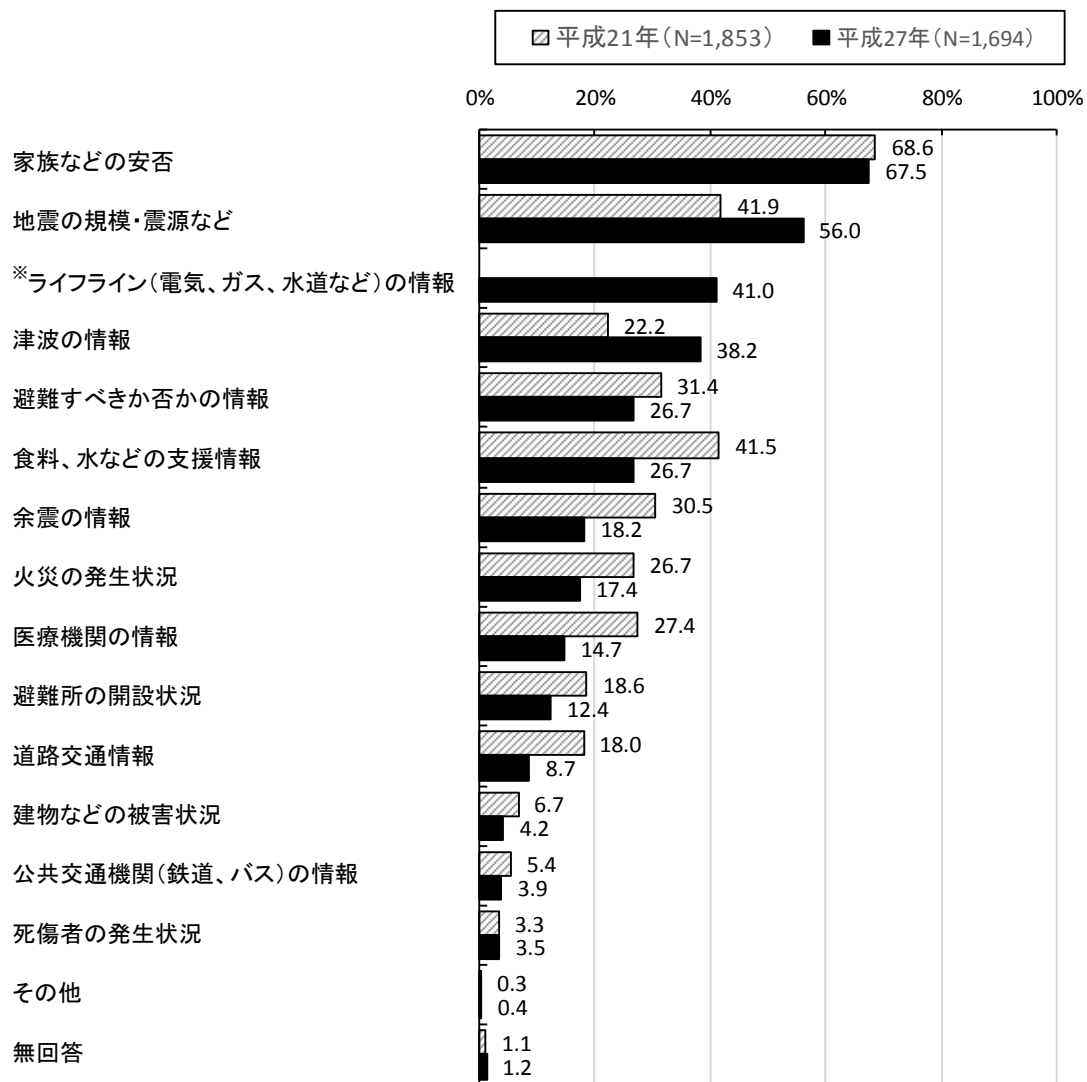
【年代別】



IV 調査結果

平成21年度の調査結果と比較すると、「家族などの安否」は68.6%から67.5%と大きな変化は見られない。「地震の規模・震源など」は41.9%から56.0%に増加し、「津波の情報」についても22.2%から38.2%と増加している。新設項目の「ライフライン(電気、ガス、水道など)の情報」に数値が集まった影響もあり、「食料、水などの支援情報」など下位項目については平成21年よりも平成27年では数値が減少しているケースが多く見られる。

【経年変化】

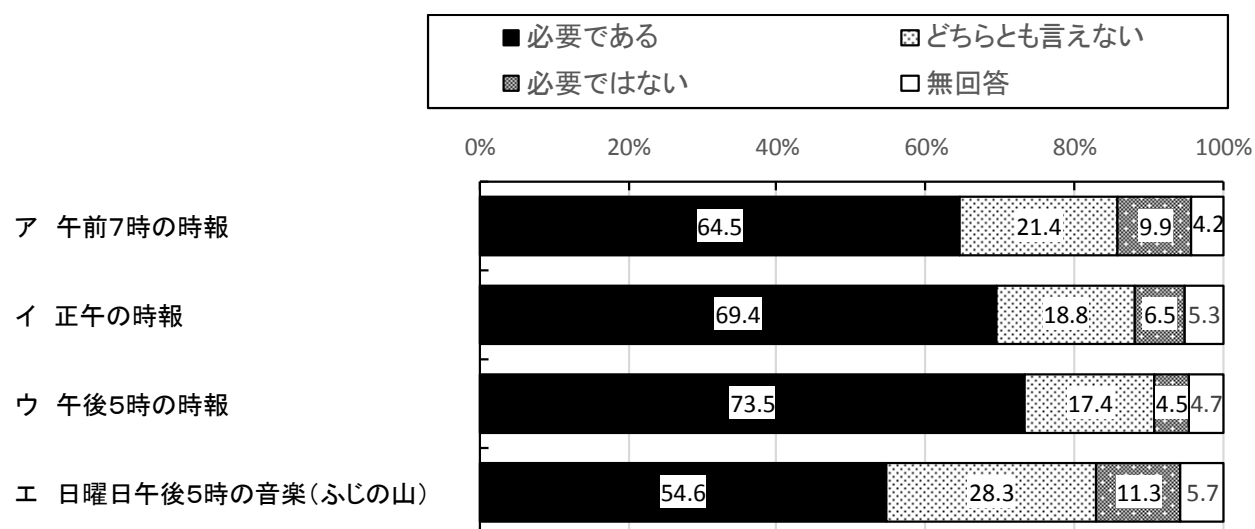


※「ライフライン(電気、ガス、水道など)の情報」は平成27年度の新設項目。

同報無線について

(21) 同報無線の必要性

問13 「こちらは広報ふじです」で知られる同報無線放送は、災害が発生した時またはそのおそれがある時に、市民に対し情報を提供するために整備されたものです。平常時には、点検を兼ねて時報や市からのお知らせなどを放送していますが、次のア～エの各項目について必要だと思いますか。当てはまるものを1つずつ選んでください。



同報無線の平常時の時報などが必要だと思うか尋ねたところ、全ての時報について、半数以上の人が必要と答えている。中でも「午後5時の時報」は73.5%、「正午の時報」も69.4%の人が必要であると回答している。

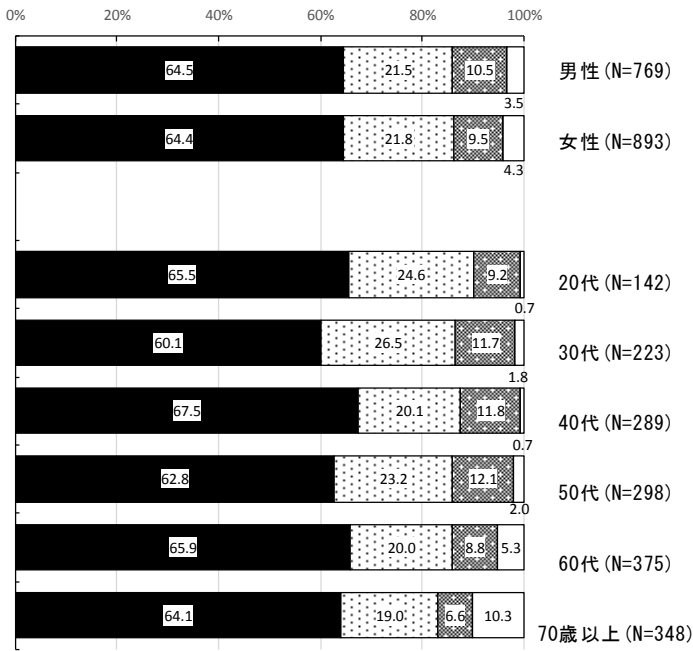
男女別に見ると、男女間で大きな差は見られない。

年代別に見ると、「午前7時の時報」は全ての年代で6割以上、「正午の時報」は若年層ほど高く20代で7割強、「午後5時の時報」は70歳以上を除いた各年代で7割以上が必要であると回答している。「日曜日午後5時の音楽(ふじの山)」は、20代の6割が必要と答えている。

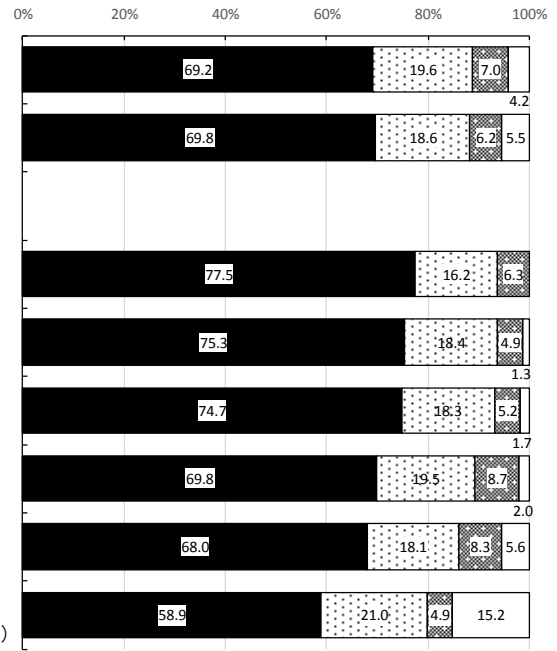
IV 調査結果

【性別・年代別】

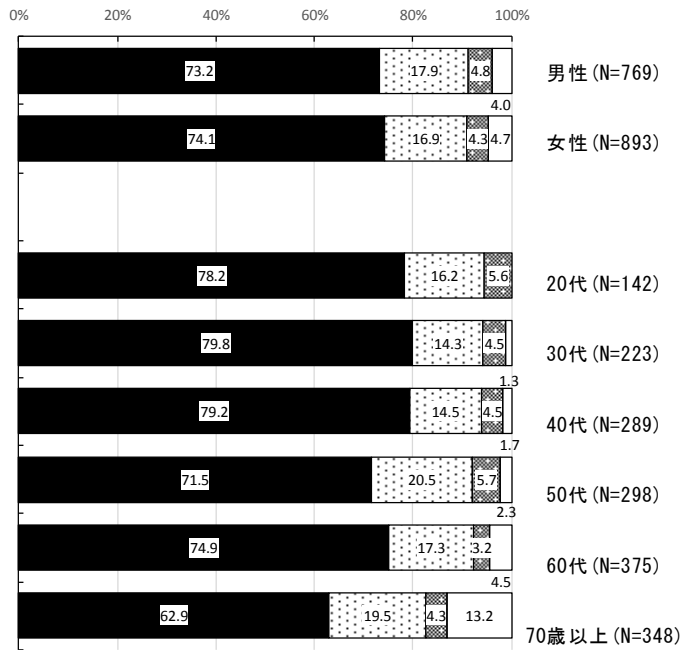
ア 午前7時の情報の必要性



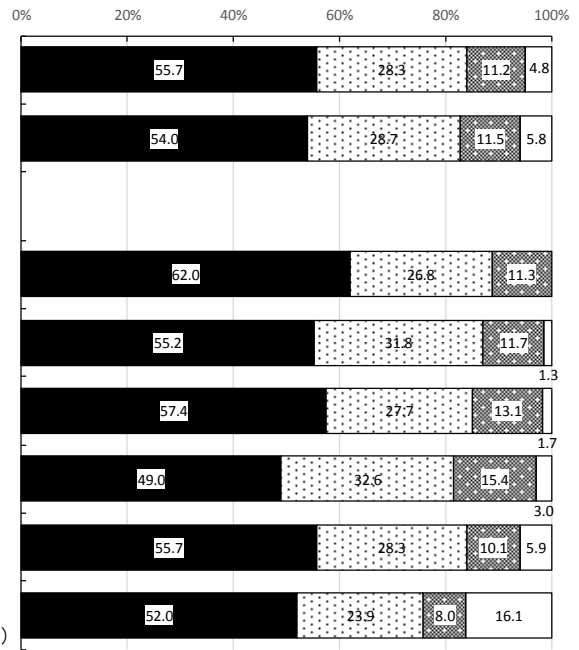
イ 正午の情報の必要性



ウ 午後5時の情報の必要性



エ 日曜日午後5時の音楽(ふじの山)の必要性

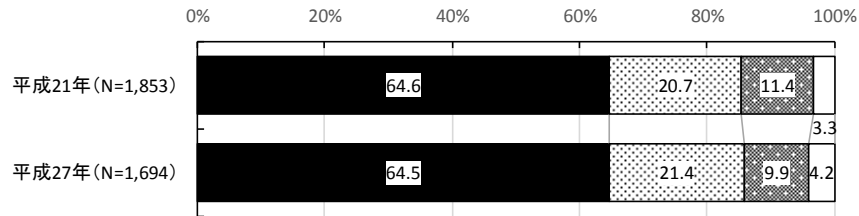


■ 必要である □ どちらとも言えない ▨ 必要ではない □ 無回答

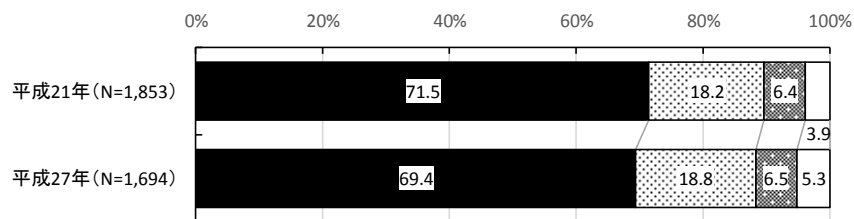
平成 21 年度の調査結果と比較すると、いずれの項目においても平成 21 年と平成 27 年では大きな変化は見られなかった。

【経年変化】

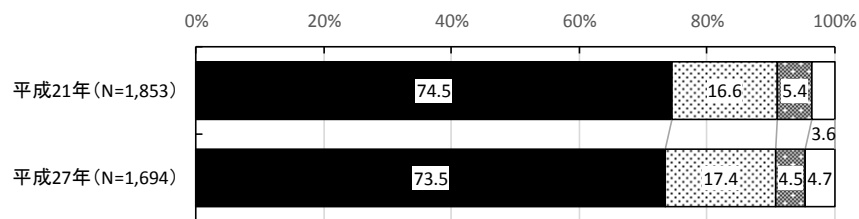
ア 午前7時の情報の必要性



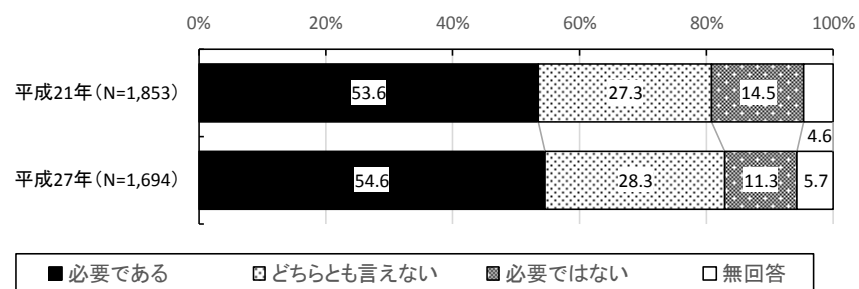
イ 正午の情報の必要性



ウ 午後5時の情報の必要性



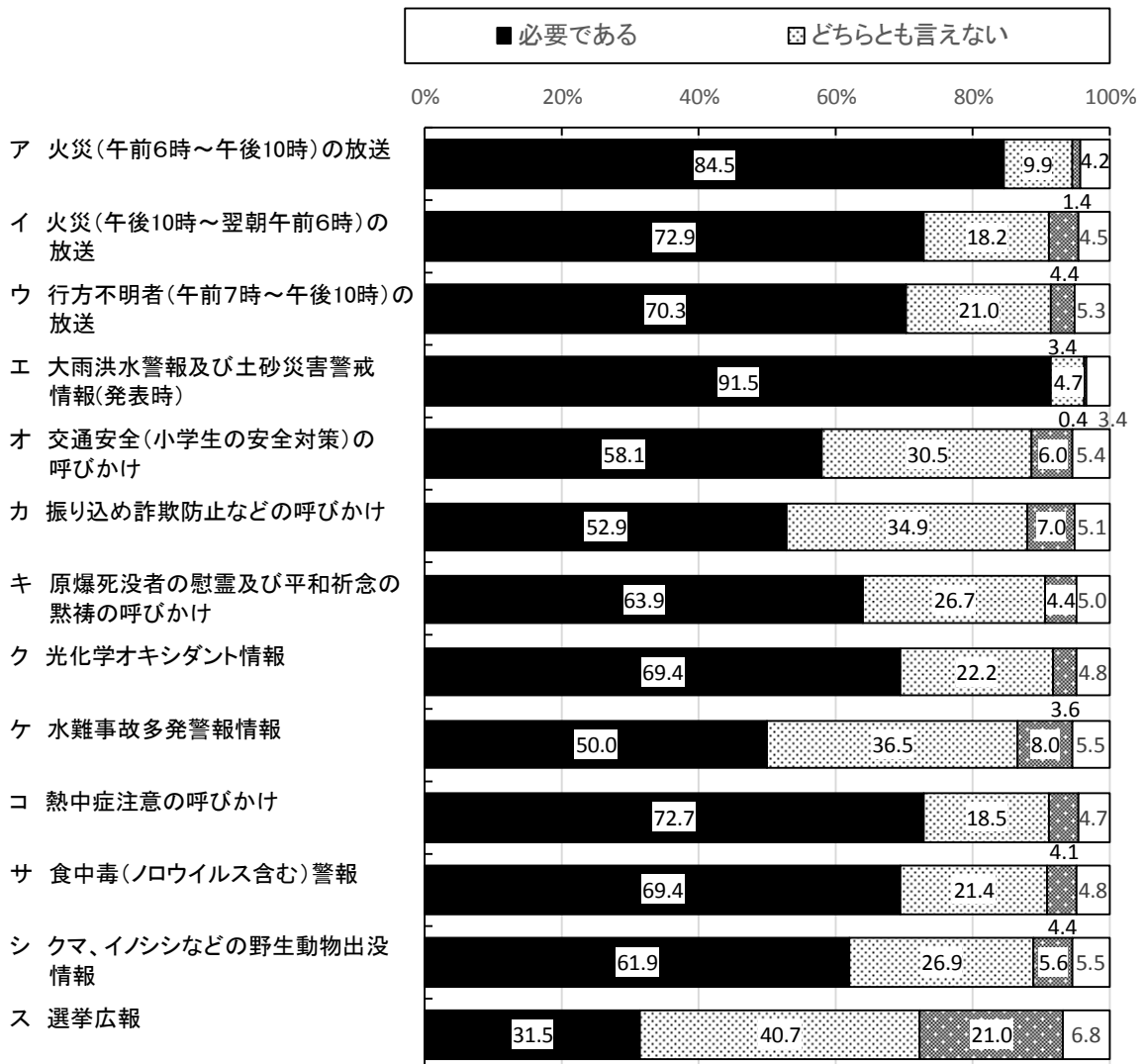
エ 日曜日午後5時の音楽(ふじの山)の必要性



■ 必要である □ どちらとも言えない ▨ 必要ではない □ 無回答

(22) 臨時放送の必要性

問14 問13の放送以外に、市は臨時に放送を行う場合があります。次のア～スの各項目について必要だと思いますか。当てはまるものを1つずつ選んでください。



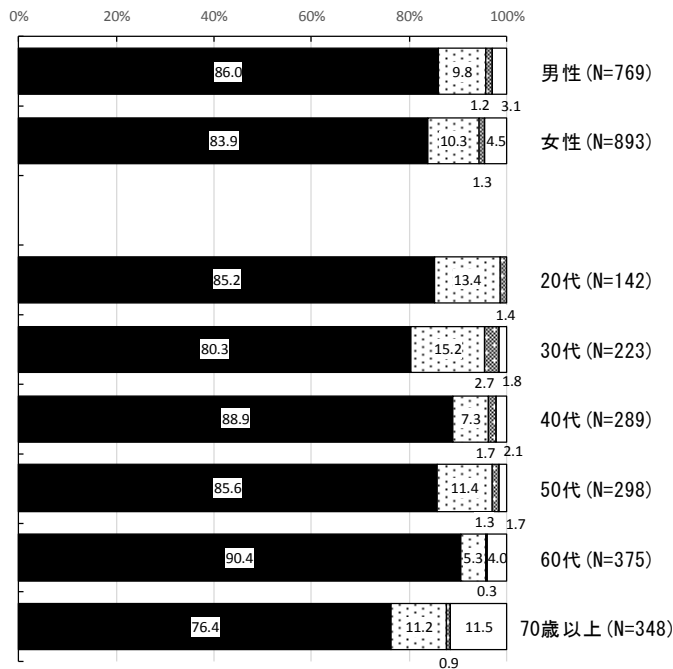
臨時放送が必要だと思うか尋ねたところ、「大雨洪水警報及び土砂災害警戒情報(発表時)」が最も高く91.5%となっている。次いで、「火災(午前6時～午後10時)の放送」が84.5%、「火災(午後10時～翌朝午前6時)の放送」が72.9%、「熱中症注意の呼びかけ」が72.7%と続いている。

男女別に見ると、差が大きかったのは「原爆死没者の慰霊及び平和祈念の黙祷の呼びかけ」が男性で58.8%、女性で68.9%と女性のほうが高くなっている。

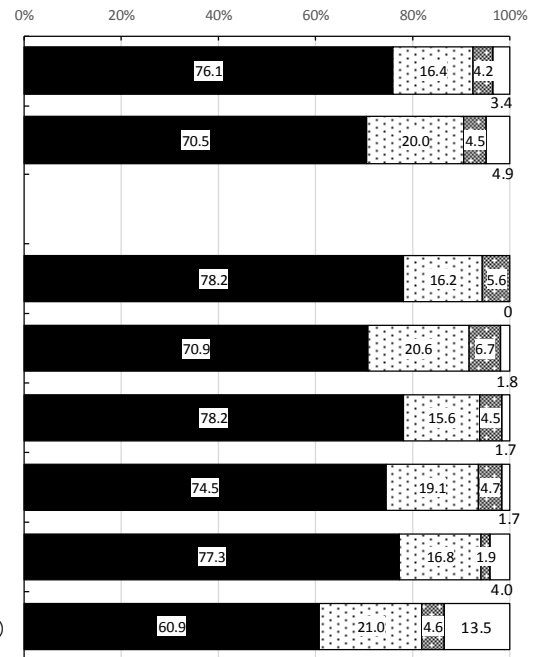
年代別に見ると、70歳以上では無回答が1割以上存在し、相対的に「必要である」の割合が他世代よりも低くなっている。

【性別・年代別】

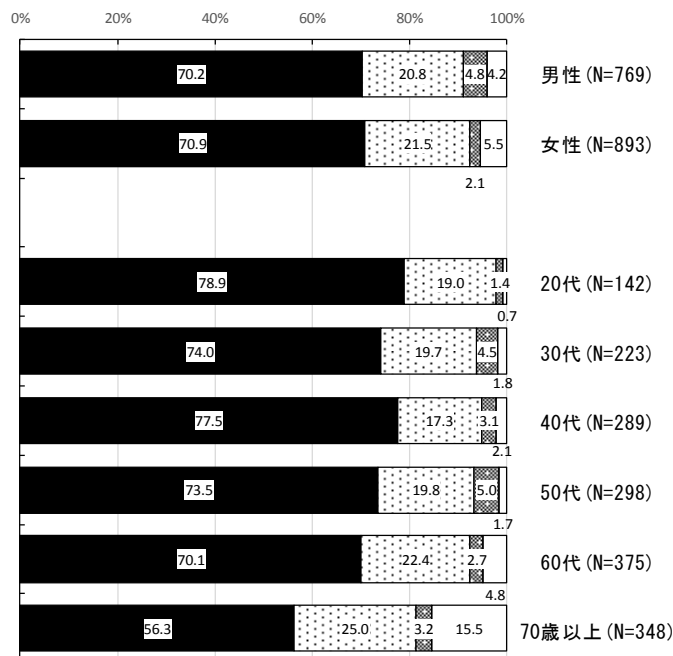
ア 火災(午前6時～午後10時)の放送



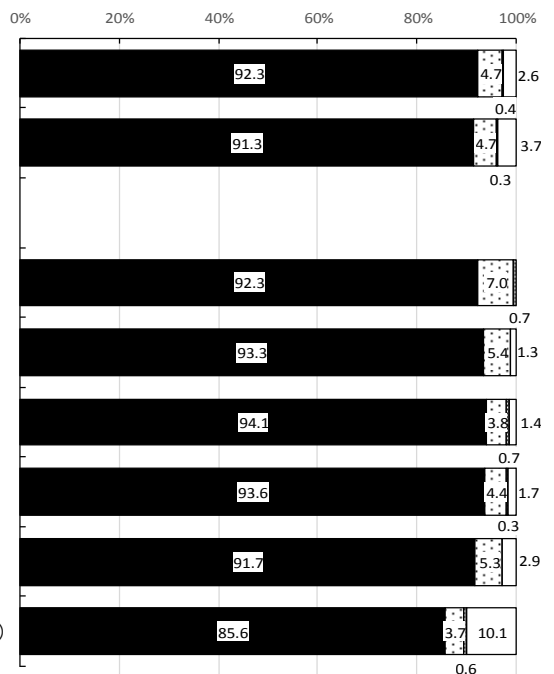
イ 火災(午後10時～翌朝午前6時)の放送



ウ 行方不明者(午前7時～午後10時)の放送



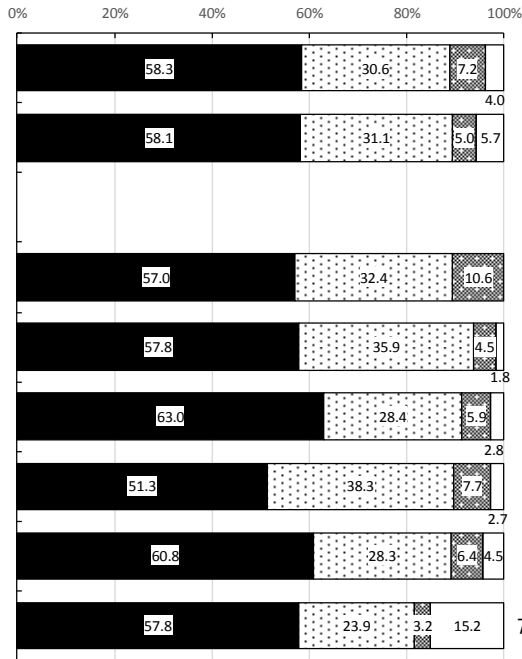
エ 大雨洪水警報及び土砂災害警戒情報(発表時)



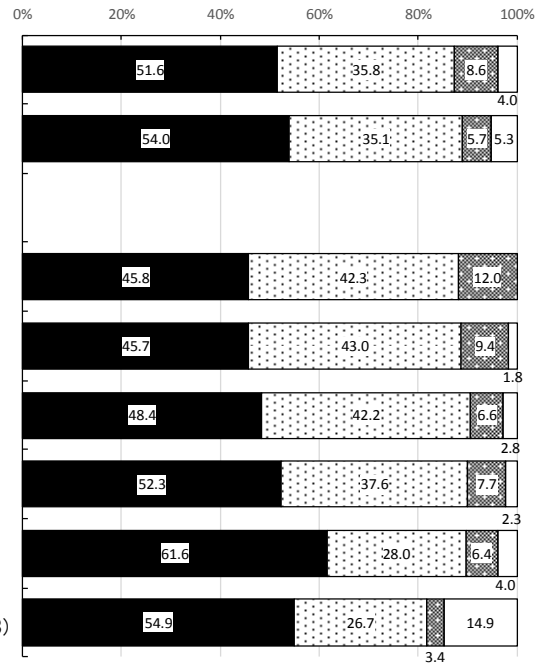
■ 必要である □ どちらとも言えない ▨ 必要ではない □ 無回答

IV 調査結果

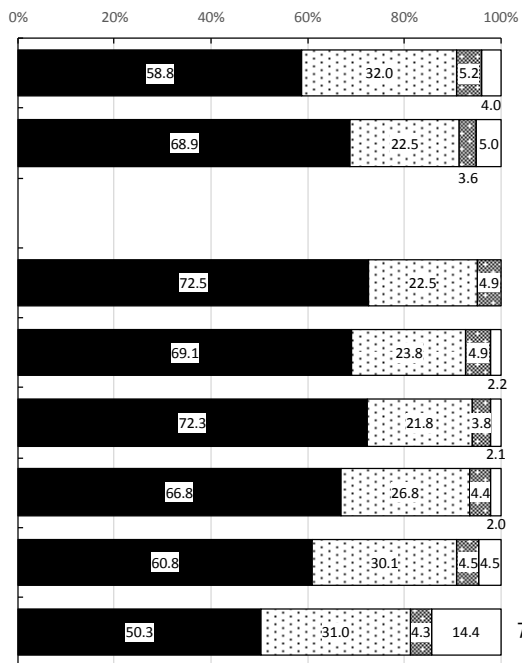
オ 交通安全(小学生の安全対策)の呼びかけ



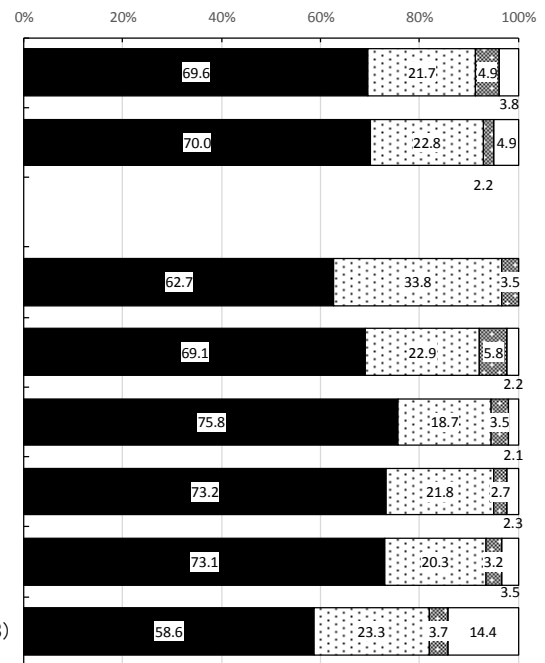
カ 振り込め詐欺防止などの呼びかけ



キ 原爆死没者の慰霊及び平和祈念の黙祷の呼びかけ

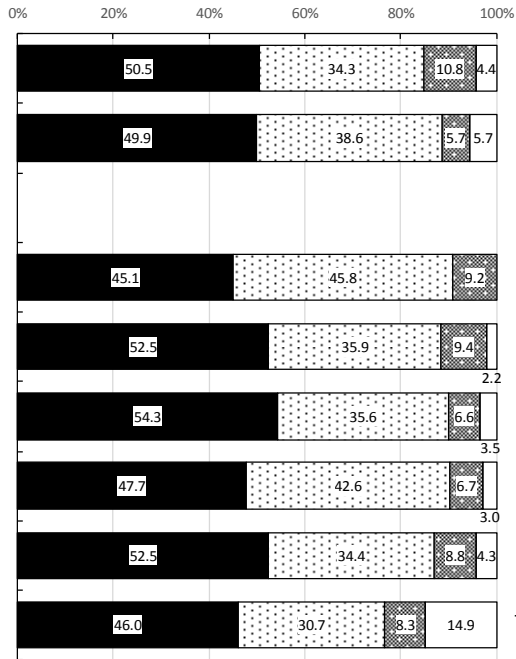


ク 光化学オキシダント情報

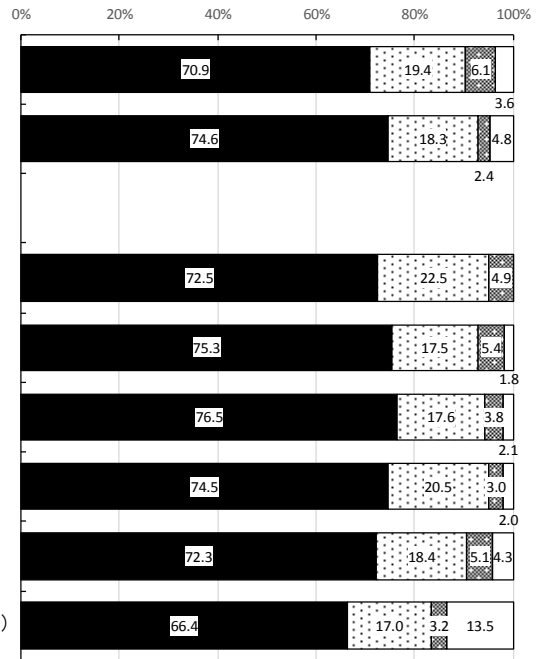


■ 必要である □ どちらとも言えない ▨ 必要ではない □ 無回答

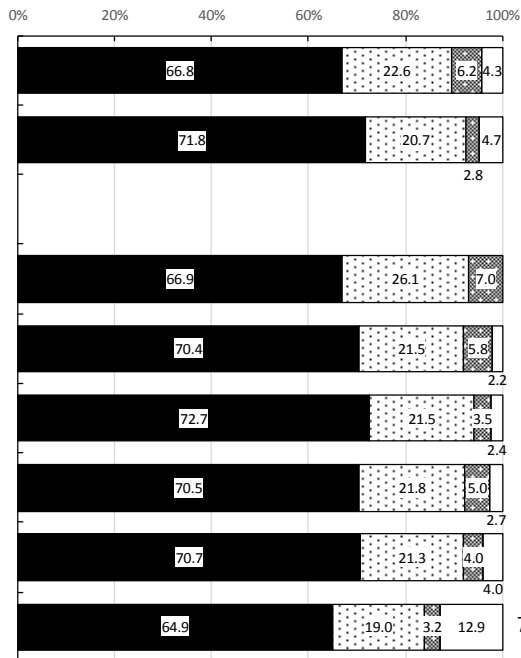
ケ 水難事故多発警報情報



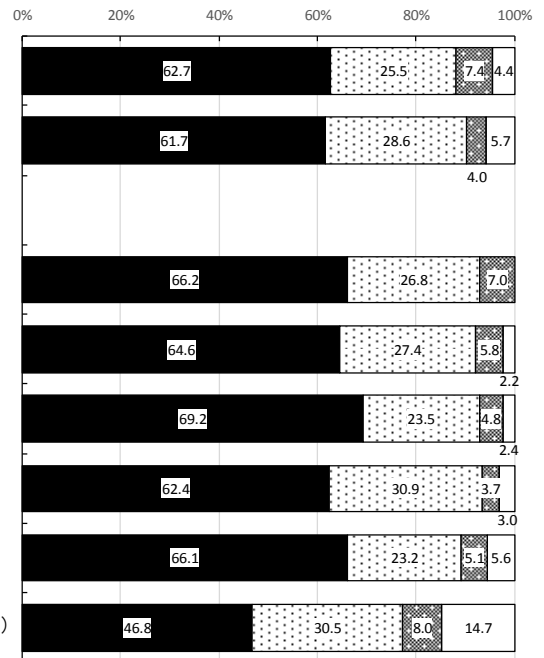
コ 熱中症注意の呼びかけ



サ 食中毒(ノロウイルス含む)警報



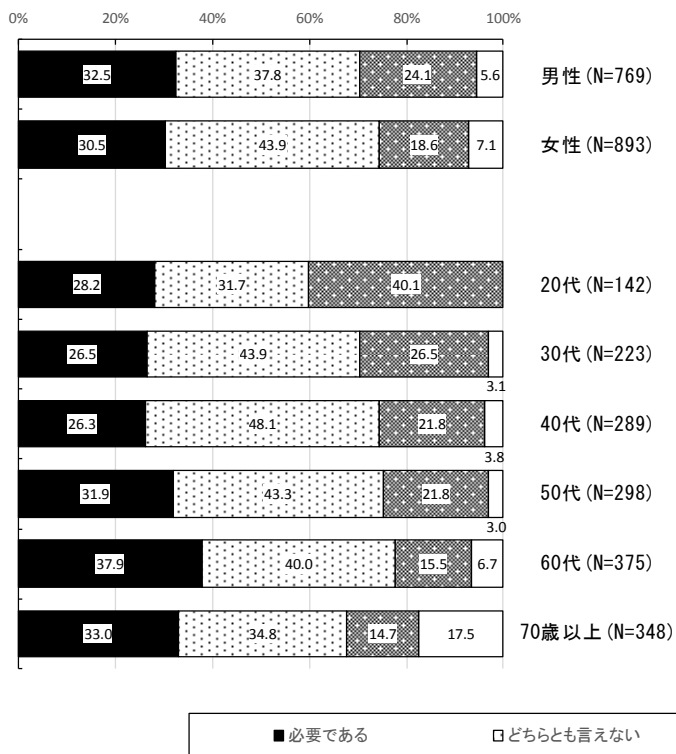
シ クマ、イノシシなどの野生動物出没情報



必要である
 どちらとも言えない
 必要ではない
 無回答

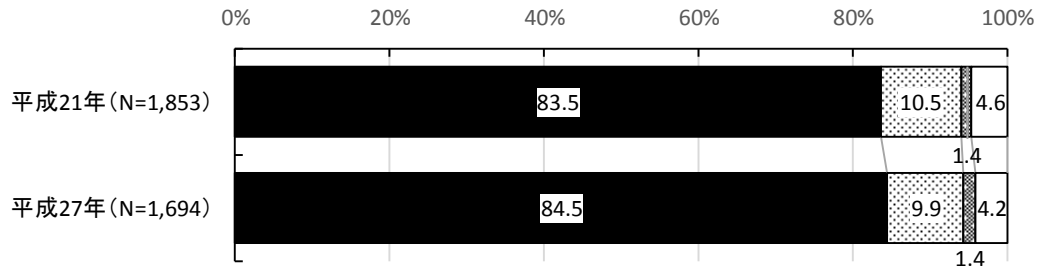
IV 調査結果

ス 選挙広報

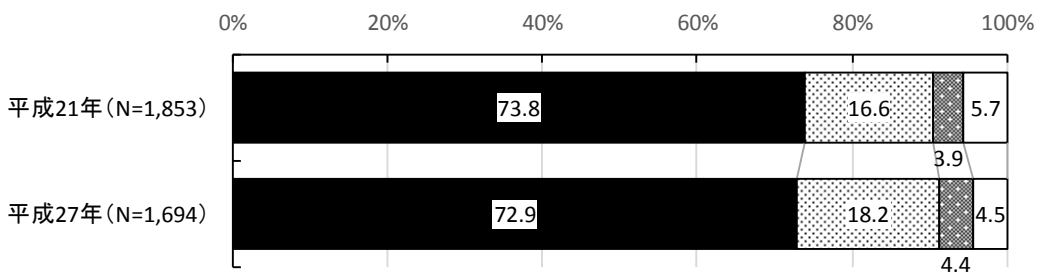


平成21年度の調査結果と比較すると、「必要である」が5ポイント以上増加した項目は、「振り込め詐欺防止などの呼びかけ」が42.5%から52.9%へ、「原爆死没者の慰霊及び平和祈念の黙祷の呼びかけ」が53.9%から63.9%へ、「クマ、イノシシなどの野生動物出没情報」が55.4%から61.9%へ、の3項目になっている。その他の項目については、大きな差は見られない。

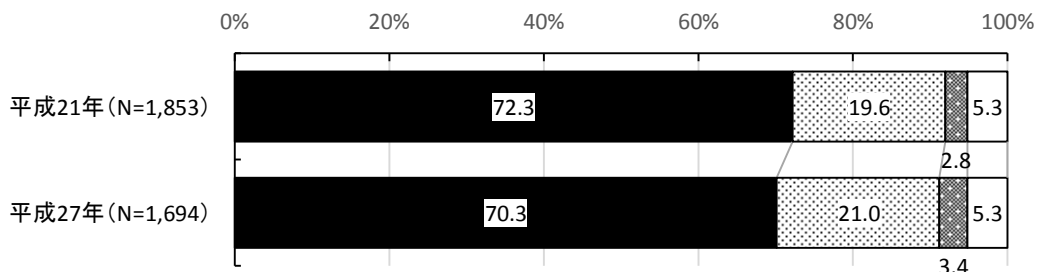
ア 火災(午前6時～午後10時)の放送



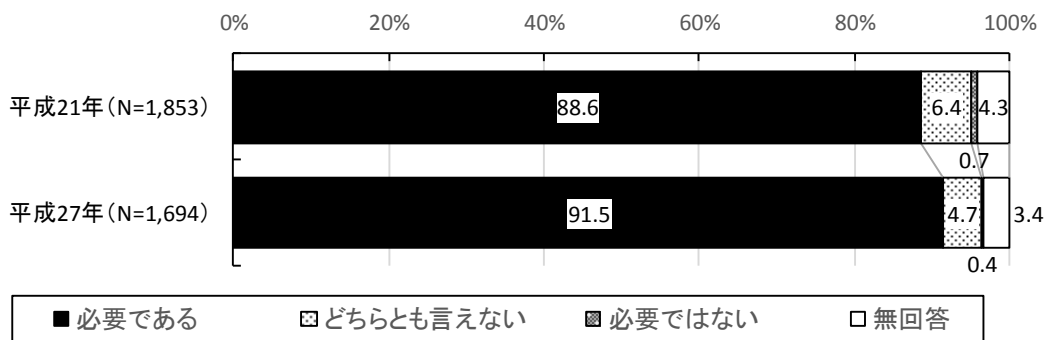
イ 火災(午後10時～翌朝午前6時)の放送



ウ 行方不明者(午前7時～午後10時)の放送

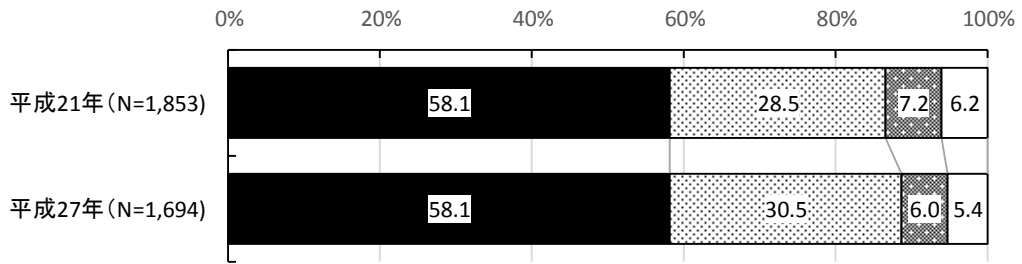


エ 大雨洪水警報及び土砂災害警戒情報(発表時)

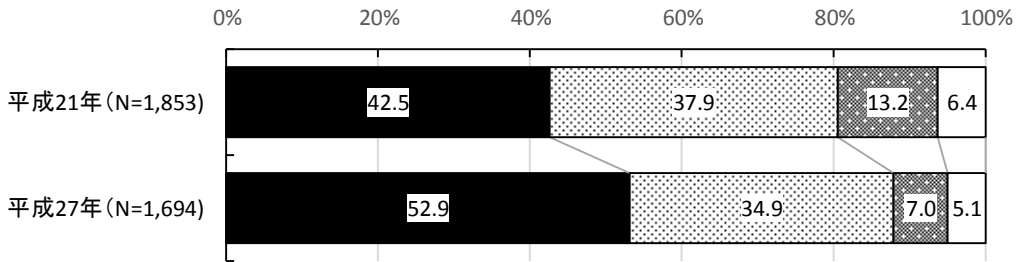


■ 必要である ▨ どちらとも言えない ▩ 必要ではない □ 無回答

オ 交通安全(小学生の安全対策)の呼びかけ



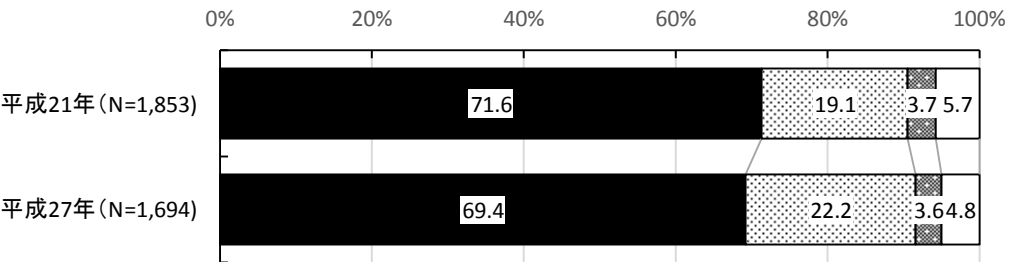
カ 振り込め詐欺防止などの呼びかけ



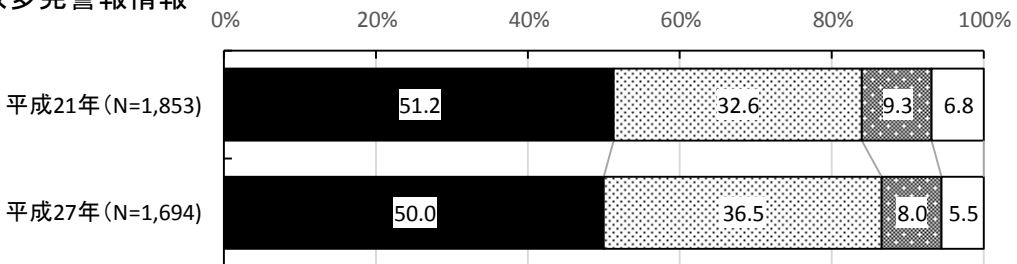
キ 原爆死没者の慰霊及び平和祈念の黙禱の呼びかけ



ク 光化学オキシダント情報

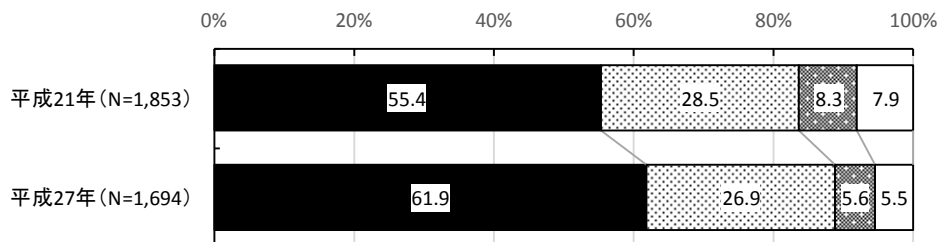


ケ 水難事故多発警報情報

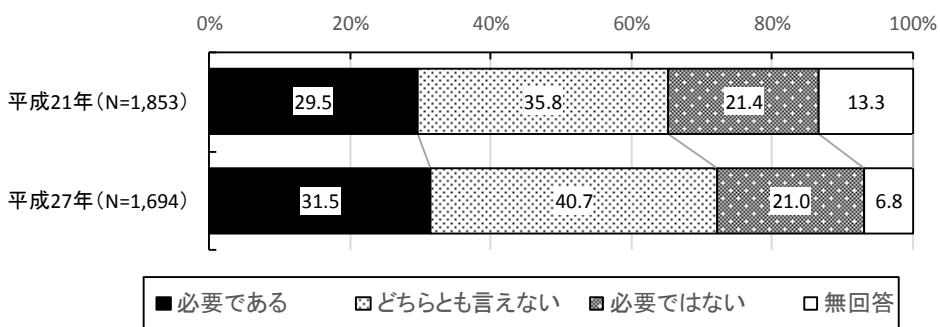


■ 必要である ▨ どちらとも言えない ▩ 必要ではない □ 無回答

シ クマ、イノシシなどの野生動物出没情報



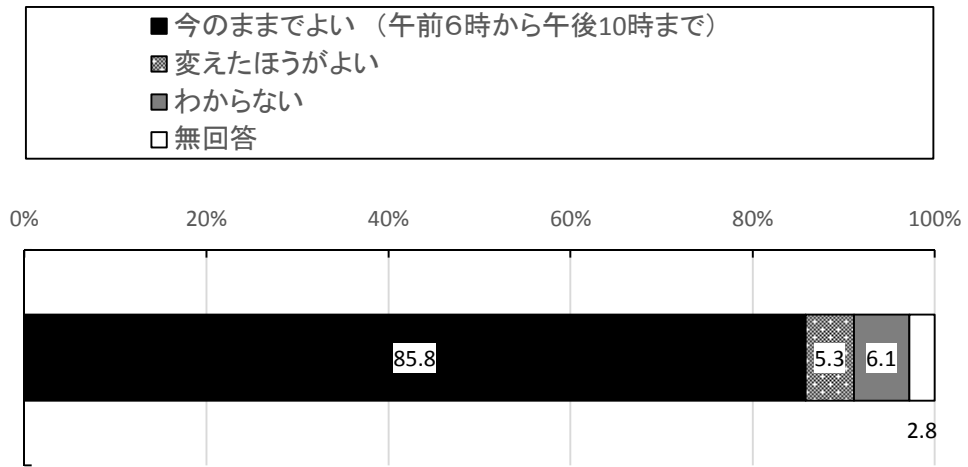
ス 選挙広報



※「熱中症注意の呼びかけ」と「食中毒（ノロウイルス含む）警報」は平成27年度の新設項目。

(23) 同報無線の放送時間について

問 15 同報無線放送を行う時間は、緊急放送を除き、原則午前6時から午後10時までの間として
います。この放送時間について、どう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



同報無線の放送時間について尋ねたところ、「今のままでよい(午前6時から午後10時まで)」が85.8%と圧倒的。「変えたほうがよい」の回答者(N=82)が希望する放送時間を平均すると、およそ午前7時から午後8時までの間となった。

男女別に見ると、男女間で大きな差は見られない。

年代別に見ると、全ての年代で「今のままでよい」が8割を超え、圧倒的となっている。

【性別・年代別】

